

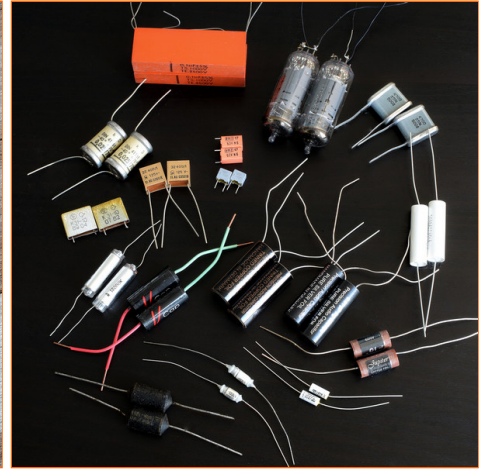
謙虚な自家製ハイファイ



スピーカー | スピーカーのアップグレード | クロスオーバーアセンブリ | クロスオーバーデザイン | カスタムスピーカーデザイン
 部品と修理 | セール | 注文方法 | CADライブラリ | プロジェクトアーカイブ | コンデンサテスト | 音楽 | 情報 | ホームホーム

コンデンサテスト

現在テスト中 : Fostex CS Copper & Tin-foil、Jantzen Audio Premium Elko、Jantzen Audio Amber Z-Cap、JB Capacitors JPX Supreme、KZK White Line、Mundorf ECap Plain、Mundorf MCap Zn Tin Foil



患者情報リーフレット (PIL)

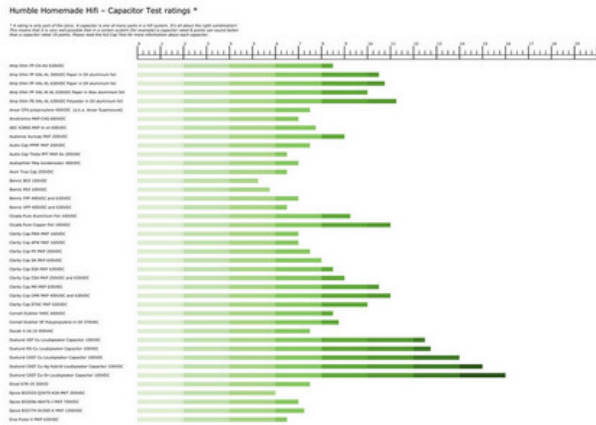
このコンデンサテストには重要な情報が含まれているため、使用を開始する前に、このすべての情報を注意深くお読みください。このウェブページをブックマークしてください。もう一度読む必要があるかもしれません。ご不明な点がございましたら、メールでお問い合わせください。このウェブページはあなただけのために処方されました。他人に渡された場合、たとえ彼らのシステムがあなたのもと同じであっても、それは彼らに害を及ぼす可能性があります。副作用が出た場合は、友達や親戚と一緒に飲みに行ってください:-)

謙虚な自家製HIFIコンデンサテストについて

このテストの主観的な結果は、パッシブスピーカーのクロスオーバーで使用した場合のコンデンサー間の可聴差の概要を示すことを目的としています。コンデンサーは、私が当時構築していたものから、私が持っている他の多くのスピーカーまで、さまざまなスピーカーでテストされています。私は、ソリッドステートおよびチューブアンプ、アナログおよびデジタルソース機器、およびいくつかの異なるインターリンクとスピーカーケーブルを、数か月の広範囲にわたるリスニングを必要とする評価プロセス中に使用します。テストは、CDのさまざまな高品質の録音、高解像度のストリーミングオーディオ、および毎日の高バイトレートのインターネットラジオを聞くことによって行われます。評価は、コンデンサを長期間聞くことで構成されます。このようにして、各コンデンサが日常の使用で何をし、何をしないかについての良いアイデアを得ることができます。また、相対的な違いを判断するために、以前にテストしたコンデンサと直接AB比較を行います。時間の経過とともに、以前の結論を再評価する可能性があります。

楽しみのために、各参加者に0から20までのスケールで評価を付けます。このスケールは純粋に音質に基づいており、価格は考慮されていません。**定格が高いからといって、あるコンデンサが別のコンデンサよりも優れているとは限りません。** hi-fiシステムは多くの変数の非常に複雑な合計であり、コンデンサはその合計のほんの一部であるため、実装結果によって異なる場合があります。また、0から20までのこのスケールでは、コンデンサの大部分が中央付近に配置されていることに注意してください (10ポイント; +/- 3ポイント) -適切な候補を選択するときは、この点に注意してください。

結局のところ、それはすべて正しい組み合わせについてです！これは、たとえば、特定のシステムでは、定格8ポイントのコンデンサが定格11ポイントのコンデンサよりも「良い」音を出す可能性が非常に高いことを意味します。それぞれの特定のコンデンサの詳細については、完全なコンデンサテストをお読みください。下の画像をクリックしてダウンロードできる評価のPDFリストをまとめました。



実際には

ハイファイシステムの品質が高ければ高いほど、さまざまなコンデンサの違いがより明白になります。より高い定格は、自動的に「より良い」ことを意味するのではなく、特定のシステムで最終的にどのコンデンサが最もよく聞こえるかの実装に関連しています。したがって、すべてを見つけることができる「最高の」コンデンサに置き換えるだけでは、通常、最適な結果は得られません。クロスオーバー全体のさまざまな場所でさまざまなキャップを使用すると、目的の音響特性を実現するのに役立ちます。料理、ここでのコショウ、塩をつまむなどのようなものです。Hi-Fiシステム、個人的な好み、予算に最適なサウンドのブレンドを取得してください。

あなたの多くは尋ねました：高価な/エキゾチックなコンデンサはお金の価値がありますか？ええと、あなただけがその質問に答えることができます。車の例えを使えば、私が何を意味するのかを明確にできるかもしれません。私は基本モデルのホンダジャズ（フィット）を所有しています。私の隣人は、多くのオプションのエクストラを備えたBMW3クーペを所有しています。ここオランダでは、BMWの価格はホンダの約7倍です。どちらもAからBに移動します。車に使うお金があったらBMW3を買うことはありますか？いいえ。私にとってはそれだけの価値はありません。車にそんなにお金をかけることは決まっていでしょう。エキゾチックなコンデンサにお金をかけますか？私がそれが価値があると思う場合にのみ;-)

- AmpOhmFP-CA-AUポリプロピレン
- AmpOhm PF-XAL-ALaluペーパーオイル
- AmpOhm PF-XAL-W-ALaluペーパーワックス
- AmpOhm FE-XAL- ALaluポリプロピレンオイル
- AnsarCPAポリプロピレン450VDC
- ArcotronicsMKP-C-4G
- オイル中の
- ASCX386SMKP•オーディエンスAuricap
- オーディエンスAuricapXO *
- オーディオキャップPPMFMKP
- オーディオキャップシータ
- PPTMKP -Sn •オーディオフィラ- MKP コンデンサ
- アクソン
- トウル-キャップ
- ベニックB03100VDC
- ベニックP03100VDC
- ベニックFPP400VDC + 630VDC
- ベニックXPP400VDC + 630VDC
- 蟬ピュアルミ箔100VDC
- 蟬純銅箔100VDC
- クラリティキャップPWA
- クラリティキャップAPW
- クラリティキャップPX
- クラリティキャップSA
- クラリティキャップCSA *
- クラリティキャップESA
- クラリティキャップMR *
- クラリティキャップCMR *
- クラリティキャップDTAC
- CornellDubilier 940C 600VDC *
- CornellDubilier 940C 3000VDC *
- CornellDubilierSFポリプロピレンオイル中
- Ducati4.16.10MKP
- DuelundVsf Cu *
- DuelundRSCu
- DuelundCAST Cu *
- DuelundCASTCu-Agハイブリッド
- DuelundCAST Cu-Sn *
- Elcod K78-19 200VDC
- エブコスB32523-Q3475-K26 MKT
- エブコスB32656-A6475-J MKP
- エブコスB32774-D1505-K MKP
- ERSE/パルスX 630VDC
- ERSE一時-X 1200VDC
- 名Evox-リファPHE 426
- 名Evox -Rifa PHE450
- Evox-RifaSMR
- HovlandMusiCap •Hovland (Robert Hovland) SuperCap *
- IncoSintex 45TD2BS
- IntertechnikAudyn CapFFCペーパーオイル
- IntertechnikAudyn Cap KpSn
- IntertechnikAudyn CapMKP-QS
- IntertechnikAudyn Cap Plus
- IntertechnikAudynキャップリファレンス*
- IntertechnikAudyn Cap TrueSilver
- IntertechnikAudyn True Copper *
- IntertechnikAudyn True Copper Max *
- JantzenAudioクロスキャップ
- JantzenAudio StandardZ-Cap
- JantzenAudio Superior Z-Cap *
- JantzenAudio Silver Z-cap
- ジャンセンオーディオシルバーゴールドZ-キャップ
- ジャンセンオーディオAlumen Z-キャップ*
- JBコンデンサJFX 250VDC
- JBコンデンサJFX 630VDC
- JBコンデンサJFXプレミアム250VDC
- JBコンデンサJFXプレミアム630VDC
- JBコンデンサJXL豪華100VDC
- JBコンデンサー-JSX250VDC
- JBコンデンサー-JSX630VDC
- JBコンデンサー-JSXスーパーリア250VDC
- JBコンデンサー-JSXスーパーリア630VDC
- ジュピターHTミツロウペーパークライオ
- ジュピターフラットスタックミツロウクライオ*
- ジュピターCuホイルペーパー&ワックス
- Miflex MKP-10 600VDC
- Miflex KPCU-01 600VDC *
- MONACOR MKPA 250VDC
- Mundorf MCAP 250VDC MKP
- Mundorf MCAP 400VDC MKP
- Mundorf MCAP 630VDC MKP
- Mundorf MCAP RXF
- Mundorf MCAP EVO
- Mundorf MCAP EVOオイル*
- Mundorf MCAP EVOシルバー/ゴールド/オイル
- マンドルフMキャップスプリームEVOオイル*
- マンドルフMキャップスプリームEVOシルバー/ゴールド/オイル
- マンドルフMキャップスプリーム*
- マンドルフMキャップスプリームシルバー/オイル*
- マンドルフMキャップスプリームシルバー/ゴールド
- マンドルフMキャップスプリームシルバー/ゴールド/油
- ノースクリーククレッシェンドフィルムとフォイル
- オブリガートアルミホイル*
- オブリガートフィルムオイル•パナソニックEZP-E1100VDC *
- ライクオーディオM-PP600VDC
- ライクオーディオQ-CAP600VDC *
- ライクオーディオS-CAP-2600VDC
- SCRシャトル- MKP-PB400VDC
- SolenFast Cap PB-MKP-FC400VDC
- SolenFast Cap PPE-MKP-FC630VDC
- SolenFast Cap SB Film & Foil 150VDC *
- SolenFast Cap Silver Sound700VDC
- SonicCraftSonicap
- SuperPPコンデンサ
- TRTワンダーダイナミ
- キャップ•VキャップCuTF銅フルオロポリマーパイバ
- ス*
- ビシェイMKT 1822 63VDC
- ビシェイMKP 1837 100VDC
- ビシェイMKP 1839HQ 630VDC
- ビシェイスブラーグ730P

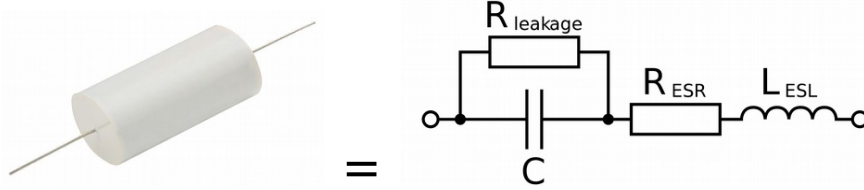
- Duelund錫メッキ銅バイパス
- Duelund純銀箔バイパス
- DuelundJDM錫メッキ銅バイパス*
- DuelundJDM銀箔バイパス*

- 100VDC *
- ジュピターワックスバイパス*
- KZKK78-34 *
- LeClanchéPPMMKP*
- LefsonCMOD SPK *
- LCRFSC管状箔ポリスチレン

- WIMA MKP4
- WIMA MKP10
- WIMA MKS4

*個人的なお気に入り！

コンデンサの音は違いますか？



過去のコンデンサは単なるコンデンサであり、このタイプのコンデンサは損失が最も少ないため、多くの人々が「最高」と見なしているポリプロピレンを使用した誘電体によって音質が決定されていました。しかし、21世紀の技術は私たちに新しい測定技術と洞察をもたらし、それ以上のものがあるようです。数年前には不可能だったことが測定できるようになりました。一言で言えば、マイクロフォニーがキーワードです-機械的共振、オーディオコンデンサの重要な機能。これは、静電スピーカーの動作のように、オーディオ信号がコンポーネントを通過する結果として発生するコンデンサプレートの物理的な変形です。この共振は、コンデンサのサイズ、形状、材料、および製造パラメータに依存します。この効果は、コンデンサのインパルス強度に影響を与えるため、長年にわたって知られています。ただし、エネルギーが低い場合、この効果がHi-Fiシステムのオーディオ再生に影響を与えるほど重要であるとは考えられていません。詳細については、クラリティキャップをお読みくださいコンデンサ内部の機械的共振に関する[ホワイトペーパー](#)。もう一つの興味深い記事は、1985年にMartin Collomsによって書かれ、音の違いについていくつかのコンデンサをテストしました。また、このページの上部にあるコンデンサの等価回路図を見てください。これも多くのことを説明しています。コンデンサは単なる静電容量Cではありません！



アンペアオームFP-CA-AU630VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「AmpOhmオーディオコンデンサは、高性能オーディオシステム用に特別に設計されています。コンデンサは手巻きで、絶縁銅リードを手はんだ付けしてから、プラスチックケースに組み立て、樹脂で密封します。樹脂充填端この構造により、ESRとインダクタンスが低く、温度と周波数の両方に対して高い安定性を備えたコンデンサが得られます。これらは、純粋な音が重要視されるラウドスピーカークロスオーバーネットワークやバルブアンプでの使用に最適です。ラインラベルの「アウターフォイル」を示します。

サウンド：Amp Ohm FP-CA-AUは非常にニュートラルなサウンドのコンデンサーで、音楽の再生にスムーズで落ち着いたアプローチを取ります。アコースティック楽器が自然な温かみのある音色を保つことができるように、ミッドレンジのバランスが非常に心地よいことがわかりました。絶対的なディテールと空気は、オーディンキャッププラスやマンドルフシュプリームレベルには達していませんが、開くのに時間がかかるので、箱から出して新鮮であると判断しないでください。空間性は広く、適度な深さですが、「ボウリング場」の深さが必要な場合は、（はるかに高価な）マンドルフシルバー/オイルをお勧めします。より豪華なAmpOhmコンデンサと比較すると、2Dで少し粗いですが、やはりコストがはるかに高くなります。

評決：8,5

アンペアオームPF-XAL-AL300VDCペーパーインオイルアルミホイル-10%公差

技術仕様（メーカーによる）：「AmpOhm Paper in Oil (PIO) コンデンサーは、高アルミホイルを使用して手巻きされています。組み立てる前にオイルを含ませ、オイルを充填します。コンデンサーは、フェノール樹脂でアルミニウムハウジングに密閉されます。各リードはエンドディスクのアイ

レットに手ではんだシールされています。リードは直径1.0mmで、錫メッキされた銅でできています。すべてのAmpOhmオーディオコンデンサは個別に手作業でテストされています。ラベルの線は外側のホイルを示しています。」

サウンド：Amp Ohm PF-XAL-AL 300VDCは、倍音のテクスチャーが非常に豊富で、非常に広々としています。箱から出して新鮮なとき、それらは少し「胸が張り裂ける」または「鼻」のように聞こえるかもしれませんが、かなりの時間（数百時間）の使用後にまろやかになります。それらの音のバランスは非常にニュートラルで滑らかで、ナチュラルやアナログのような言葉が思い浮かびます。イメージングの深さは非常に良好ですが、ワックス中の紙やオイル中のポリエステル製の安定した相手と同じレベルではありません。

評決：10,5



アンペアオームPF-XAL-AL630VDCペーパーインオイルアルミホイル-10%公差

技術仕様（メーカーによる）：「AmpOhm Paper in Oil (PIO) コンデンサは、高アルミホイルを使用して手巻きされています。組み立てる前にオイルを含ませ、オイルを充填します。コンデンサは、フェノール樹脂でアルミニウムハウジングに密閉されます。各リードはエンドディスクのアイレットに手ではんだシールされています。リードは直径1.0mmで、錫メッキされた銅でできています。すべてのAmpOhmオーディオコンデンサは個別に手作業でテストされています。ラベルの線は外側のホイルを示しています。」

サウンド：Amp Ohm PF-XAL-AL 630VDCは、基本的に上記のコンデンサと同じタイプですが、定格電圧が高くなっています。より厚い材料を使用するとより高い定格が得られるため、630VDCバージョン（65mm）は300VDCバージョン（45mm）よりも直径が大きくなります。どちらも同じ長さ（95mm）です。630VDCバージョンは、ビールやコーラの缶を思い出させます。より高いVDCタイプはまた、調和のとれたテクスチャーが非常に豊富で、非常に広々としています。音のバランスは非常にニュートラルで、低VDCタイプよりも少し滑らかに見えます。イメージング深度は非常に良好ですが、300VDCバージョンと同様に、ワックス中の紙やオイル中のポリエステルの安定した相手とはまったく同じレベルではありません。私のレビューノートにも次のように記載されています：黒い背景。

評決：11-

ワックスアルミホイルのアンブオームPF-XAL-W-AL630VDC紙-10%の公差

技術仕様（メーカーによる）：「Ampohm Audio Capacitorsは、さまざまなアプリケーションで使用される高性能オーディオシステム用に特別に設計されています。これらのペーパーインワックス (PIW) コンデンサは、高純度のアルミホイルを使用して手巻きされ、直径1.0mmの錫メッキ銅を使用しています。リードはエンドディスクのアイレットに手ではんだでシールされています。組み立て前にワックスを含ませ、フェノール樹脂とゴム製エンドディスクを使用してアルミニウムハウジングに密閉し、すべて個別に手作業でテストします。ラベルの線は外側の箔を示します。」

サウンド：Amp Ohmペーパーインワックスアルミホイルタイプは、Ampohmペーパーインオイルアルミホイルタイプと直接比較すると、わずかにフラットまたは凝縮されたサウンドに見えます。油中紙に比べると少し直接的ですが、油中ポリエステルタイプに比べるとのんびりしています。また、Ampohm PIOよりも「肉厚」が少なく、少し薄いことに気づきました。また、ワックス中のポリエステルタイプの非常にアナログなミッドレンジの特性と比較した場合、極端な周波数にわずかに重点が置かれ、ごくわずかなラウドネス効果が得られるようです。これは、このコンデンサの全体的な高品質のサウンドレベルを否定的に見ることを意味するものではありません。これは、スピーカーを特定の方向に微調整するときはその特性が役立つ可能性があるためです。

評決：10

Amp Ohm FE-XAL-AL 630VDCポリエステル (オイルアルミホイル) -10%の公差

技術仕様（メーカーによる）：「Ampohmオーディオコンデンサは、高性能オーディオシステム用に特別に設計されています。これらのポリエステルフィルムコンデンサは、高純度のアルミホイルを使用して手巻きされ、組み立てられる前にリードが手ではんだ付けされ、アルミニウムハウジングに密閉されています。フェノール樹脂とゴム製エンドディスク。直径1.0mmの錫メッキ銅リードアウトワイヤーは、エンドディスクのアイレットにはんだシールされています。この構造により、これらのコンポーネントは、カップリングコンデンサとして、または既存の設計のコンポーネントの代替品として使用するのに最適です。ラベルには外側のホイルを示しています。」

サウンド：Amp Ohmポリエステルインオイルアルミニウムホイルは、全体的に非常にコヒーレントでニュートラルです。このタイプは、Ampohmペーパーインワックスアルミホイルタイプと直接比較すると、心地よいミッドレンジハイライトを備えています。油中ポリエステルは非常に豊富で、部屋やホールの音響などの周囲情報を取得するのに非常に優れています。音楽は自然でフルボディの方法で提示されます。Duelund VSF-Cu銅箔と比較すると、画像はより「透けて見える」ようになっています。マンドルフシルバーゴールドオイルと比較して、プレゼンテーションはより豊かで、特に大量の

弦や大きなボーカル作品で目立ちます。小さなジャズトリオなどでは、シルバーゴールドオイルがマイクロディテールをもう少し強調しますが、全体的なコヒーレンスのレベルと同じレベルには達していません。

評決：11歳以上

Ansar CPAポリプロイレン450VDC-5%の許容誤差 (別名Ansar Supersound)

技術仕様 (メーカーによる) : 「汎用オーディオグレードコンポーネント。アキシャルデザイン。すべての一般的なオーディオ使用に理想的で、幅広い電圧と値が利用可能です。この範囲のコンポーネントは、主にスピーカークロスオーバーメーカー向けに設計されました。コンポーネントは次のとおりです。クロスオーバーネットワークなどの重要な信号経路で使用するための透明度の高いコンポーネントを製造することを目的として製造されています。これらは、品質とコストの最適な妥協点を提供するように設計された優れたオールラウンド製品です。業界全体で高く評価されています。英国を代表するスピーカーメーカーの多くが使用しています。」

サウンド : Ansar CPAは、スペクトルのトップエンドにより集中しているように見える、活気に満ちた、クリーンでクリアな性質を持っています。完全にニュートラルではありませんが、ミッドレンジや低音域で少し混雑しているように聞こえるシステムに、よりオープンなサウンドを提供したい場合に役立ちます。このような状況では、AnsarCPAオープンがうまく機能します。彼らはもう少し存在感と体で行うことができるトーンニュートラルなシステムで使用され、彼らはわずかに薄い性質に傾く傾向があります。この性質により、グランドピアノや大量の弦のようなアコースティック楽器は少し遠くに聞こえる可能性があります。たとえば、Jantzen Audio Standard Z-Capはよりニュートラルで体重が多いですが、AnsarCPAが生み出す最高の「輝き」を欠いています。良いことは、彼らが端の周りで荒くも荒くなることも決してないということです。画像の深さは、高品質のコンデンサよりもわずかに平坦ですが、他の汎用MKPと比較すると非常に優れた性能を発揮します。トップエンドのディテールは、Clarity CapSAで見られるわずかにロールオフされた性質よりも際立っています。クラリティキャップSAは、その見返りとして、低音域でより前向きに聞こえます。サイズが非常にコンパクトなので、スペースが重要な場合に便利です。

評決：7,5



Arcotronics MKP-C4G 600VDC-5%の許容誤差

技術仕様 : パワー半導体回路で使用することを目的とした自己修復金属化ポリプロピレンスナバコンデンサ。電子バラストやモーターアプリケーションなどの不要な電圧ピークを抑制または減衰します。

サウンド : Arcotronicsキャップは控えめなサウンドのコンデンサーで、ダイナミクスに関しては少し静かです。私は特にパーカッション音楽のミッドレンジ品質がとても好きです。ドラムなどは自然な音色がいい感じでした。ミッドレンジに焦点が当てられているようで、高音はわずかにロールオフされています。空間性が少し損なわれ、わずかに離れたコンパクトな画像になります。全体的なディテールは、たとえば標準のオーディンキャップよりもわずかに優れていますが、AmpOhmやMundorfSupremeとは競合しません。基本的なフィルターアプリケーションに適したMKP。

評決：7

オイル中のASCX386S MKP 600VDC-10%の許容誤差

技術仕様 : 産業用アプリケーションコンデンサ。記載されている許容誤差は+/- 10%と低いことを意味しますが、私はそれらすべてを測定し、それらはすべて記載されている静電容量にスポットオンでした。これが私が工業規格に基づいて構築されたものと呼んでいるものです！産業用に設計されているため、さまざまな温度条件で使用されるため、非常に大きな許容誤差を示していると思います。したがって、中の植物油は流暢さが異なります。しかし、通常の室温では、それらは最高の状態にあるようです。値は標準範囲とは異なりますが、1,0~60uFの値がありますが、100個以上注文しない限り、少量を入手するのは困難です。ASCは、これらの金属化ポリプロピレンタイプを、コンラッドジョンソンを含む他の著名なハイエンドオーディオ企業にも供給しています。ASCポリプロピレンとオイルコンデンサは、密閉された金属製の「オイル缶」構造と、底部にある大きな4方向はんだ/コネクタラグを備えています。コンデンサ自体は金属化ポリプロピレンフィルムでできており、構造は標準のMKPと似ていますが、植物油の槽に吊るされています。この油がオーディオ回路に減衰効果をもたらすと主張もあります。振るとオイルが飛び散る音が聞こえます！

音 : パーンインに時間がかかるため、最初は少し鈍い音になります。しかし、通常の使用の数日後、それらは広くてオープンなサウンドステージを提供します。素晴らしくニュートラルで、少し暖かくて青々とした音かもしれません。最初は印象的ではないが、しばらくすると成長するものの1つで、あなたはそれらの品質を評価することを学びます-素晴らしいです！生き生きとした明るいサウンドのフィルターが必要な場合は、これはキャップではありません (代わりに、Hovland Musicapを試してください)。滑らかで暖かくリラックスしたサウンドを探している場合は、これらを試してみてください。

評決：8-

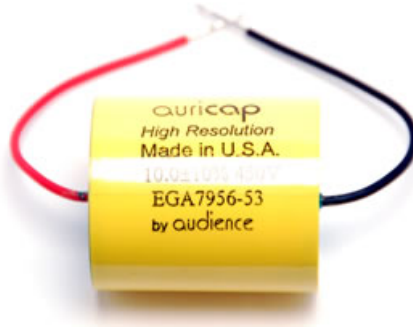
オーディエンスAuricap200VDC-10%の許容誤差

Technical specifications (according to manufacturer): "Auricap metalized Polypropylene capacitors are cylindrically wound with epoxy end fill and have very good volumetric efficiency. They are wound to exacting industry leading specifications to meet or exceed the

requirements of MIL-C-55514A and MIL-STD-E method 103B. As with all metalized polypropylene film capacitors Auricaps are self healing. Failure mode is as an open circuit. Auricaps are made with the very best film available and are constructed to center value. Special care is taken to insure industry leading ESR values. Auricaps are designed to be a general purpose capacitor for use in all applications where size, value and temperature considerations are suitable. They are useful in signal coupling, filtering and power factor correction applications. The outside foil connection of Auricaps is identified with either a black lead (when leads are red and black) or a shorter lead when leads are solid core type. This identification is not a voltage polarity indication but is a consideration for minimum noise pick up."

サウンド：これらのコンデンサーは、Jantzen SilverZ-CapやSilverGold Z-Capのような明るい色のコンデンサーと直接比較すると、少し前向きで、心地よく滑らかでクリアな表現になっています。Auricapは、オーケストラをコンサートホールに適切に配置し（録音が許可されている場合）、画像を奥行きよりも幅に投影するのに役立つ十分な情報を取得します。全体的なパフォーマンスは非常に満足のものであり、それについて正しい/完全なものがあります。

評決：9



オーディエンスAuricapXO 200VDC-10%の許容誤差

標準のAuricapと比較して、AuricapXOに欠点はありません。ユーザーは、標準のAuricapが知られているすべての素晴らしい美徳を今でも期待できます。簡単に言うと、Auricap XOは単純に透明度が高く、音楽をより深く聞くことができます。[」

サウンド：Auricap XOは、標準のAuricapよりも明らかに透明性が高いという点で、AudienceAVに同意できます。XOはまだ心地よくスムーズでクリアなプレゼンテーションをしていることがわかりましたが、少し前向きな性質はなくなっています。彼らはよりオープンで、より細かいディテールを持っています。これらの特性により、楽器の最先端をたどりやすくなり、録音の奥行き感が増します。非常にニュートラルなJantzenAudio Superior Z-Capと比較すると、同様のレベルの中立性を維持しながら、より明瞭になっています。詳細はたくさんありますが、他の「詳細な」コンデンサのようにXOがエッジの効いたシャープになることはありません。AuricapXOをJantzenAudio Amber Z-Capと比較すると、XOでは得られないものが明らかです。真の銅箔コンデンサだけが提供できる豊かで自然な音色です。しかし、これらのタイプのコンデンサは多数のAuricap XOを必要とするため、これは不公平な比較です。全体として、Auricap XOは、ディテール、透明度、滑らかさのバランスが取れていることがわかりました。お気に入りリストに追加しました。

評決：11



オーディオキャップPPMFMKP 200VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「PPMFオーディオキャップは金属化ポリプロピレンであり、マイラーまたは劣ったフィルムキャップからのアップグレードとして役立ち、スピーカークロスオーバーネットワークに理想的な大きさの値で入手できます。最高の素材で作られ、展示されています優れた電気的および環境的特性。優れたビルド品質と高い容量値により、この価格帯では通常見られない高品質の安定した長期性能が提供されます。金メッキされたOFHCリードは、長期的な高信頼性と優れたはんだ付け能力を提供します。金の非酸化性のため、銀線よりも優れています。」

サウンド：標準のMundorf M-Capよりもわずかに詳細、奥行き、分離がありますが、HovlandMusicapよりもわずかに小さくなっています。M-Capはより丸みを帯びたキャラクターを持ち、Audio CapPPMFはよりゆったりとしたキャラクターを持っています。残りの部分については、私はそれらがかなり中立であると思います。

評決：7,5

オーディオキャップシートPPTMKP-Sn 200VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「PPTシートオーディオキャップは、すべてのオーディオ回路と電源に最適なフィルム&フォイルコンデンサです。低歪み性能と長期信頼性を提供します。合理的な範囲で優れた電気的および環境的特性を示します。その音響特性は豊かで充実しており、その優れたビルド品質により、この価格帯では通常得られない高品質の安定した長期性能が保証されます。金メッキされたOFHCリード線は、長期的な高信頼性と優れたはんだ付け能力を提供します。、金の非酸化性により、銀線よりも優れています。」

サウンド：これらのキャップは、無駄のない臨場的な明るさを持っていると同時に、透明性に欠けています。人工的な透明度の形式は、上端の高音のまぶしさによって作成されます-少なくともラウドネス効果はありません。彼らは鈍い、活気のないスピーカーを開くのにうまく機能しますが、それだけです。大きな「鈍い響き」のキャップと平行する小さな値としてのみ使用してください。彼らは安いIntertechnikAudynキャップをきれいにきれいにします。

評決：6,5

Audiophiler Mkp kondensator 400VDC-3%の許容誤差

技術仕様：メーカーの仕様がないため、自分でいくつかの値を測定しました。一般に、静電容量の許容誤差（多くの場合約1%以内）に関して最大約6.8uFの値が適切に測定され、非常に高い周波数での損失もMKPコンデンサに期待できる範囲内であることがわかりました。6,8uFを超える値は、静電容量の許容誤差が大きいのに見えましたが（3%以内）、静電容量が増加するにつれて損失が大幅に増加しました。複数の小さな値のコンデンサを並列に配置して大きな値を作成すると、この問題が解決しました。

音：これらのコンデンサの音について話す前に、これらのコンデンサのデータについて少しお話ししたいと思います。まず第一に、私はこれらのコンデンサの名前でタイプミスをしませんでした、彼らは本当に「AudiophilerMkpkondensator」が側面に印刷されています。今では、中国のメーカーがドイツ語で名前を書いて面白く見せようとしているに違いないことはわかっていますが、まずは宿題をしてください。すべてのドイツ語の名詞は大文字で始まり、最後の単語にはスペルミスが含まれています。「AudiophilerMKPKondensator」と表示されているはずですが、さらに、これらのコンデンサについて私が見つけた唯一の情報は、Ebay、Amazon、AliExpressなどのサイトからのものでした。「Audiophiler」は独自のウェブサイトを持っていないようです（私が間違っている場合は訂正してください）ので、多くの誤植や間違った情報が見つかる可能性があります。たとえば、AliExpressの一部の会社はそれらをMKP（ポリプロピレン）として販売していますが、仕様ではポリエステルが方言として使用されていると述べています。一部は「MKP-CYCAP」として描かれていますが、「Mkpkondensator」として販売されています。私はそれらを「ホームアンプ」として販売している別の会社を見つけました;-)また価格設定は完全に不安定なようです。とにかく、あなたが何かを買う前にあなたが何を求めているかを知っていることを確認してください。今、私はそれを邪魔にならないようにしました、それらがどのように聞こえるかを説明する時間です。それらは、Intertechnik Audyn CapQS4のような標準のMKPとは少し異なる特徴を持っています。「Audiophiler」は低音域に重点を置いており、少し前向きまたは前向きに聞こえます。この性質により、それらは主観的によりダイナミックになり、特定のシステムで、またはソロピアノや弦楽四重奏などの特定の種類の音楽でうまく機能します。完全にニュートラルではありませんが、特定の状況で役立つ場合があります。彼らは私に彼らのプレゼンテーションでSolenPPE-MKP-FCを少し思い出させます。ボーカルを演奏すると、時々少しシャウトになることがあります。Bennic FPPと比較すると、「Audiophiler」は少し粗く、滑らかではありません。全体として、悪くはありませんが、特別なことは何もありません。Solenのように、それらは、工場で製造されたスピーカーによく見られる標準のMKTコンデンサーから、わずかに空間的でオープンな点で優れたステップアップです。ボーカルを演奏すると、時々少しシャウトになることがあります。Bennic FPPと比較すると、「Audiophiler」は少し粗く、滑らかではありません。全体として、悪くはありませんが、特別なことは何もありません。Solenのように、それらは、工場で製造されたスピーカーによく見られる標準のMKTコンデンサーから、わずかに空間的でオープンな点で優れたステップアップです。ボーカルを演奏すると、時々少しシャウトになることがあります。Bennic FPPと比較すると、「Audiophiler」は少し粗く、滑らかではありません。全体として、悪くはありませんが、特別なことは何もありません。Solenのように、それらは、工場で製造されたスピーカーによく見られる標準のMKTコンデンサーから、わずかに空間的でオープンな点で優れたステップアップです。

評決：7



Axon True Cap 250VDC-5%の許容誤差

技術仕様：SCR、Solen、Angelaブランドのコンデンサと外観が非常に似ている低コストのポリプロピレンコンデンサ。

サウンド：Axon True Capは、低音域にわずかに焦点を当てており、太くてジューシーなキャラクターになっています。彼らは空気とマイクロディテールを欠いていますが、この価格帯で何を期待できますか？それらもそれほど微妙ではありませんが、過酷になったり明るすぎたりすることはありません。基本的な標準品質のMKPです。Solen Chateauroux Fastキャップに似ていますが、透明度が少し高いため、評価が高くなります。彼らには何も悪いことはありませんが、エキサイティングなことも何もありません。たとえば、WIMA MKP4はよりオープンでスムーズで、より優れたイメージングを実現します。

評決：6,5

Bennic B03 100VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「双極電解コンデンサ;定格電圧を85°Cで1000時間印加した後の寿命試験：静電容量の変化は初期値の±20%以内、誘電正接は初期値の200%以内;貯蔵寿命：後85°Cで1000時間印加された定格電圧：静電容量の変化は初期値の±20%以内、誘電正接は初期値の200%以内、スリーブの標準色は黄色です。」

サウンド：ベニックB03はわずかな鼻の特徴があり、ディテールが欠けています。B03の周りでシステムに声をかけるように注意する限り、非常に低コストのソリューションで使用できます。B03をMonacorMKPAやJantzenAudio Cross Capなどの基本的なMKPと比較すると、MKPに費やした追加のお金は非常に価値があることがわかります。このようなMKPを使用すると、透明度と重量が向上します。複雑な材料がB03に供給されると、泥だらけになり始めます。個人的には、低周波補正ネットワークなどでのみB03を使用します。しかし、とにかくそれがあなたが双極電解質を使う唯一の場所だと思えます。

評決：5+



Bennic P03 100VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「双極電解コンデンサ;定格電圧を85°Cで1000時間印加した後の寿命試験：静電容量の変化は初期値の±20%以内、誘電正接は初期値の200%以内;貯蔵寿命：後85°Cで1000時間印加される定格電圧：静電容量の変化は初期値の±20%以内、誘電正接は初期値の200%以内、スリーブの標準色は黒。」

サウンド：Bennic P03はB03と性質が似ていますが、P03は2つの中でより成熟したサウンドであると言わなければなりません。それはよりバランスが取れており（鼻が少ない）、全体的に滑らかに聞こえます。Bennic P03にはわずかなラウドネス効果があり、少し前向きすぎる特定のシステムで機能します。P03は時々エッジの周りで少し荒くなることがありますが、実際にはベニックXPPに少し似ています。

評決：6-



Bennic FPP 400VDCおよび630VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「純銅リード、最小長30 mm、ソリッドリード直径0.8 mm、白いボディにカラーブラックテープ、UL難燃性ボディ樹脂、静電容量許容誤差±10% (K) または±5% (J) または±2.5% (H) または±1% (F) ; 1Khzで最大0.06%の散逸係数;動作温度-40°Cから+105°C;動作温度範囲で最大2%の静電容量ドリフト;絶縁抵抗C未満0.33μF、IR = 9000メガオーム (20°C、1分) Cが0.33μFを超える、IR = 7500メガオーム (20°C、1分) ;寿命テスト105°Cでの定格動作電圧の150% 1000時間。」

サウンド：Bennic FPPは、基本的なオールラウンドソリューション向けの適度にニュートラルなコンデンサです。ニュートラルであることは、すべての状況ですべてを大丈夫にします。さて、実際にはそれがすべて終わったところもあります。これは、ほとんどの標準品質のMKPと同様に、既存のスピーカークロスオーバーにうまく溶け込みます。JBコンデンサJSXと比較すると、FPPは空間的でもトーン的にもバランスが取れておらず、ニュートラルの暗い側にわずかにあります。Cornell Dubilier 940Cと比較すると、940Cはよりオープンでダイナミックなサウンドを提供し、さらに詳細になります。Bennic FPPの音質ラダーがどれだけ高いかを確認するために、Jantzen Audio SuperiorZ-Capに対してテストしました。スーパーリアーはすべての分野で優れていました（しゃれを意図した）。直接比較すると、Bennic FPPは空間情報が不足しているように見え、全体的な画像はスピーカーの周りに浮かぶのではなく、個々のスピーカーにくっついていました。しかし、私が言ったように、これは単なる現実のチェックです。JantzenAudioSuperior Z-Capはより高価なので、とにかくうまくいくと期待する必要があります。その価格がすべてを物語っているわけではありませんが、何年にもわたって、SuperiorZ-Capはスピーカーコンデンサーの中価格帯で確固たる基準として機能してきました。私はFPPをトーンダウンしているように見えるかもしれませんが、逆に、Bennic FPPは、ほとんどの状況に非常に簡単に溶け込む高品質のMKPです。ただそれから奇跡を期待しないでください。その価格がすべてを物語っているわけではありませんが、何年にもわたって、SuperiorZ-Capはスピーカーコンデンサーの中価格帯で確固たる基準として機能してきました。私はFPPをトーンダウンしているように見えるかもしれませんが、逆に、Bennic FPPは、ほとんどの状況に非常に簡単に溶け込む高品質のMKPです。ただそれから奇跡を期待しないでください。その価格がすべてを物語っているわけではありませんが、何年にもわたって、SuperiorZ-Capはスピーカーコンデンサーの中価格帯で確固たる基準として機能してきました。私はFPPをトーンダウンしているように見えるかもしれませんが、逆に、Bennic FPPは、ほとんどの状況に非常に簡単に溶け込む高品質のMKPです。ただそれから奇跡を期待しないでください。

評決：7



Bennic XPP 400VDCおよび630VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「純銅リード、リード長最小40mm、リード直径0.6mm、黒色テープ付きの黄色のepoxy本体、銀色の文言、許容誤差±10% (K) または±5% (J) または±2.5% (H) または±1% (F) ; 散逸係数 (tan d) 最大0.0007 (0.07%) at 1Khz; 温度範囲-40°C ~ +105°C; 絶縁抵抗Cは0.33μF未満、IR = 9000メガ-オーム (20°C、1分) -Cが0.33μFより大きい、IR = 7500メガオーム (20°C、1分) ; 寿命テスト85°Cで1000時間の定格動作電圧の150%、湿度最大5% DF最大2% IR最小7000メガオーム、相対湿度95%@40°C1000時間。」

サウンド：Bennic XPPは、BennicFPPよりもわずかにオープンなトップエンドを備えています。FPPは非常にニュートラルであるため、XPPのサウンドは少し「トッピー」になりますが、全体的に適度にニュートラルになります。個人的には、「安い」ものを少なくするために、XPPよりもFPPの方が好きです。XPPは、ほとんどの標準品質のMKPよりも詳細に見えますが、一貫性と概要が不足しているため、大規模なビッグバンド音楽、合唱団、交響楽団の音が混乱して混乱しています。ベニックFPPは、この点で優れたパフォーマンスを発揮します。XPPは、しばらく聞いてみると頭痛の種になります。安価なSolenPB-MKP-FCでさえ、聴き心地が良く、Solenはより広々として中立的です。BennicXPPからClarityCap CSAに切り替えると、音楽イメージの中立性と一貫性に関してすべてが元の位置に戻ります。XPPをWimaMKP-10と比較すると、Wimaはよりニュートラルで、XPPほど詳細ではないかもしれませんが、間違いなくより一貫性があります。Bennic XPPは、可能であればスキップするものです。

評決：6,5



蝉純アルミホイル100VDC-3%公差

技術仕様：台湾製のフィルムおよびフォイルタイプのMKP。

サウンド：Cicada Pure Aluminium Foilコンデンサーは、CicadaがMundorfの流動性と滑らかさを欠いていることを除いて、わずかにトップエンドのハイライトを備えているという点でMundorfSupremeと特徴が似ています。JupiterBeesWaxやObbligatoAluminiumタイプのような豊かで調和のとれた自然なコンデンサーと比較すると、Cicada Pure AluminiumFoilは少しラフでテクニカルに聞こえます。非常に長いバーンイン時間の後、彼らは多くのことをスムーズにしましたが、それでも一種の「ハイファイ」サウンドを維持しました。彼らは非常に正確で、詳細を取得するのに優れています。彼らはノートの最先端に重点を置き、いくつかの録音や音楽の種類でエキサイティングに聞こえることができる素晴らしいダイナミックスナップを持っています。しかし、私にとっては、最終的には、すべての状況で輝くことができるように、もう少し自然なハーモニーの豊かさと流動性で行うことができます。

評決：9歳以上



セミ純銅箔100VDC-3%公差

技術仕様：台湾製のフィルムおよびフォイルタイプのMKP。

サウンド：Cicada Pure Copper Foilコンデンサーは、アルミホイルタイプと特徴が似ていますが、はるかにリッチで流動性があり、他の高品質コンデンサーに近づいています。明らかに、それは2つの蝉の種類の中でより良いです。この豊かさと流動性はそれらをより一貫性のあるものにし、したがってマイナーなトップエンドの強調もあまり目立たなくなり、私が何を意味するかを知っていれば、良いコンデンサーを聞く代わりに音楽に入るのが簡単になります。ノートのリーディングエッジと素晴らしいダイナミックスナップは、音楽に合わせて、切り離されが少なくなっています。

評決：11

クラリティキャップPWAMKP 160VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「PWシリーズは、多くの海外ブランドよりも優れた音響性能を生み出す経済的なコンポーネントとして長い間確立されてきました。長年にわたり、多くの企業がこのシリーズをエントリーレベルの製品として使用して大成功を収めています。定格160Vdc、250Vdc、400Vdc、630Vdcで、オーディオエンジニアは、回路のコンポーネントを検討する際に最大限の柔軟性を提供します。それぞれ4μm、6μm、8μm、10μmの金属化フィルムから巻かれ、わずかに異なる音響性能とアスペクト比を使用してコンポーネントを選択できます。銅で覆われたスチール端子が標準ですが、他の端子もご希望に応じてご利用いただけます。テープと樹脂の色は、カスタム製品に示されているオプションで柔軟です。コンデンサには白いテープと赤い樹脂が付属します。」

サウンド：Clarity Capの範囲は、音のバランスが全体的に類似しており、範囲が広がると明瞭さと空間性が得られます。PWはかなりニュートラルで、少し暖かみのあるプレゼンテーションであることがわかりました。PXと比較すると、細部が失われていますが、暗く聞こえることはありません。標準のMundorfM-Capと比較すると、ステレオイメージは少し大きくなります。価格/品質比はとても良いです。予算が限られていて、スピーカーをできるだけスムーズにしたい場合は、このコンデンサをお勧めします。

評決：7

クラリティキャップAPWMKP 160VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「160Vdc、250Vdc、400Vdc、630Vdcの定格で利用可能で、回路のコンポーネントを検討する際にオーディオエンジニアに最大の柔軟性を提供します。それぞれ4μm、6μm、8μm、10μmの金属化フィルムから巻かれています。わずかに異なる音響性能とアスペクト比を使用して選択し、希望する最適なソリューションを提供します。銅被覆鋼端子が標準ですが、他の端子もご希望に応じてご利用いただけます。テープと樹脂の色は、カスタム製品に示されているオプションで柔軟です。指定がない限り、コンデンサは白いテープと赤い樹脂が付属しています。」

サウンド：正直なところ、Clarity Cap APWとPWAの違いは聞こえませんが、Clarity Capによると、それらは同じであると予想されていました。APWも中立で、少し暖かいプレゼンテーションであることがわかりました。PXと比較すると、詳細が失われています。価格/品質比はとても良いです。予算が限られていて、目立たないコンデンサをお探しの場合は、このコンデンサをお勧めします。

評決：7

クラリティキャップPXMKP 250VDC-5%の許容誤差

また、この構造により、自己インダクタンスとESR（等価直列抵抗）が低くなり、デバイスは温度と周波数に関して非常に安定しています。テープと樹脂の色は、カスタム製品に示されているオプションで柔軟です。特に指定のない限り、コンデンサには青いテープと青い樹脂が付属しています。」

サウンド：Clarity Capの範囲は、音のバランスが全体的に類似しており、範囲が広がると明瞭さと空間性が得られます。PXはニュートラルで、少し暖かみのあるプレゼンテーションであることがわかりました。標準のMundorfM-Capと比較すると、ステレオイメージはMundorfSupremeやAudynCap Plusよりも大きくなりますが、スペースが狭くなります。クラリティは、PWおよびM-Capからの優れたステップです。価格/品質比はとても良いです。あなたが素敵で、しかしそれほど高価ではないMKPを探しているなら、私はこのコンデンサを強くお勧めします。

評決：7,5



クラリティキャップSAMKP 630VDC-5%の許容誤差

優れた機械的安定性と結びついたポリプロピレンの本質的に低い散逸および誘電吸収係数は、非常に詳細な音響性能をもたらします。この構造により、自己インダクタンスとESRも低くなり、デバイスは温度と周波数に関して非常に安定しています。」

サウンド：Clarity Capの範囲は、音のバランスが全体的に類似しており、範囲が上がると、明瞭さと空間性が少し向上します。SAはニュートラルで、少し暖かみのあるプレゼンテーションですが、少し閉じています。クラリティキャップPXの定義と分離が優れているのに比べて、ステレオイメージも少し大きくなっています。トップエンドがわずかにロールオフされていることがわかりました。詳細が不足しているわけではありませんが、一部の録音では、透明度を少し上げたいと思っていましたが、全体としてはまだ非常に優れています。欠点として、ボーカルの「S」と「T」は少し可塑的である可能性があります。これはおそらく、上のオクターブにトランスパラーがなく、下のオクターブが少しマスクされているためです。約90%のClarity Cap SAと約10%のMundorf Supremeを使用してコンデンサを作成すると、非常にうまく機能します。

評決：8



クラリティキャップESAMKP 630VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「ESAシリーズのコンポーネントは、Clarity Capが最近実施した広範な研究プログラムで得られた知識を活用しています。研究プログラムでは、巻線コンデンサに固有の機械的共振をこれまで達成できなかったレベルまで低減する方法を検討しました。ESAコンデンサは、高く評価されているSA範囲と新しい妥協のないMR範囲の中間に位置するように設計されています。ポリプロピレンフィルムから製造されたコンポーネントは、おなじみのラップアンドエンドシールスタイルで供給され、ポリエステルテープで包まれ、エポキシでカプセル化されています。樹脂。」

サウンド：全体的な特徴はClarity Cap SAに似ていますが、より明瞭であるため、空間がわずかに増えています。SAと同様に、もう少し透明度を上げることができますが、ESAと並列に配置された小さなコンデンサを使用すると、これを改善できます。ESAはまた、わずかに暖かみのあるプレゼンテーションを持ち、約90%のクラリティキャップESAと約10%のマンドルフシュプリームを使用して合計値を作成することからも恩恵を受けます。これにより、他に何も変更することなく、トップエンドがうまく開きます。優れた全体的な品質と標準のClarityCapSAからのアップグレード。

評決：8,5



クラリティキャップCSAMKP 250VDCおよび630VDC-5%の許容誤差

CSAは、慎重に研究された同じマイクロフォニクスを使用して、処理パラメーターを削減します。銅コネクタテクノロジーは、エンド接続での粒界交差を劇的に低減し、エンド接続インピーダンスの当然の増加をもたらすことなく、コンデンサESRを低減するために設計でより狭いフィルムを採用できるようにします。可能な限り多くの結晶境界を排除するという哲学は、プレミアムグレードの1mm²錫メッキ無酸素銅リードの使用にまで拡張されています。」

サウンド：Clarity Cap CSAの音色は、すべてのClarity Capコンデンサーと共通しており、バランスがよく、疲れることはありません。CSAは、ESAの明快さ（しゃれを意図したもの）とより大きなMRの滑らかさを組み合わせた心地よい親密さを示しています。相対的に言えば、ESAからCSAへの音質のステップアップはMRからCMRへのステップアップよりも大きいことが実際にわかりました。CSAとCMRはどちらもClarityCapのCopperConnectテクノロジーを使用していますが、MR範囲よりもSA範囲に大きな影響を与えるようです。スケールを上げるよりも下げるほうが簡単かもしれませんが、それが私に出くわした方法です。とにかく、CSAと直接比較すると、ESAは少しラフに聞こえますが、CSAは、より文明的なイメージを生成し、同時によりニュートラルであるように見えます。「S」と「T」ESA（私はここで非常につまらない）で最初は少し荒い音でしたが、CSAでは粒子がなくなります。また、CSAはJantzen Audio AlumenZ-Capと非常によく混ざり合っていることがわかりました。最低20%のAlumenZ-Capと残りのClarityCap CSAを組み合わせることで、空間のリアリズムとトーンの豊かさが向上しました。それらはシームレスに混ざり合います。全体として、Clarity Cap CSAはバランスの取れたニュートラルコンデンサであり、低価格帯のコンデンサへの追加として歓迎されています。それらはシームレスに混ざり合います。全体として、Clarity Cap CSAはバランスの取れたニュートラルコンデンサであり、低価格帯のコンデンサへの追加として歓迎されています。それらはシームレスに混ざり合います。全体として、Clarity Cap CSAはバランスの取れたニュートラルコンデンサであり、低価格帯のコンデンサへの追加として歓迎されています。

評決：9



クラリティキャップMRMKP 630VDC-3%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「コンデンサのMR範囲は、オーディオグレードコンデンサに関する2年間の大規模な画期的な研究プログラムの結果です。結果として得られるコンデンサは、今日の高品質オーディオグレードコンデンサの最先端にあると信じています。部品は、巻線部品に固有の音響品質に対する共振の悪影響を大幅に低減するように製造されています。これにより、同等の音響特性が得られません。金属化されたポリプロピレンフィルムから製造され、部品が収容されています。全体的な音響性能を支援するために、着色されたアクリルチューブとエポキシ樹脂でカプセル化されています。」

サウンド：Clarity Cap DTACと同様に、Clarity Cap MRには、標準のClarity Capのような暗い特徴がなく、非常に空間的でクリアなサウンドになります。空間性は、個々の楽器とボーカルの非常に優れた分離によってサポートされるこのコンデンサの主な強みの1つです。音楽は非常に静かな背景の前に配置され、コンサートホールの自然な残響など、周囲の情報を簡単に区別できるように詳細が示されています。マンデルフシルバーゴールドオイルと比較すると、最終的には透明度が少し低くなり、低音域にわずかに焦点を当てて情報をより前もって提示します。比較すると、マンデルフSGOは高音域の高音域にわずかに焦点を当てています。

評決：10,5



クラリティキャップCMRMKP 400VDCおよび630VDC-3%の許容誤差

CMRは、同じマイクロフォニックスシリーズのフィルム構造とアクリルチューブダンピングを採用しています。銅コネクタテクノロジーは、エンド接続での粒界交差を劇的に低減し、エンド接続インピーダンスの当然の増加をもたらすことなく、コンデンサESRを低減するために設計でより狭いフィルムを採用できるようにします。可能な限り多くの結晶境界を排除するという哲学は、プレミアムグレードの1mm2錫メッキ無酸素銅リードの使用にまで拡張されています。」

サウンド：Clarity Cap CMRは、非常にニュートラルで「成熟した」サウンドであることがわかりました。このコンデンサを非常にバランスの取れたものにするために、スペクトルのどの部分も人為的に強化することはまったくありません。バランスが非常に良いと私が知っているJantzen Audio Superior Z-Capと比較すると、Jantzenを使用するとトーンが少し豊かになりますが、ClarityCapは絶対的なルーラーフラットにさらに近いと言えます。中立。Jantzen Audio Alumen Z-Capと比較すると、CMRのコントラストは低くなりますが、絶対的なルーラーフラットニュートラルに近くなります。実装の問題に至るまで、私が言うのが最善です。最高級のマンデルフコンデンサとの直接AB比較では、CMRは少しミッドレンジ前方に聞こえますが、実際にはマンデルフの特性について詳しく説明しています。sCMRではなく、すべてが相対的です。CMRは、説得力のあるダイナミクスを備えた非常に優れた最先端を持ち、画像全体が非常に一貫しているように見えます。また、CMRのベースとなっているClarity Cap MRとのクロスチェックを行い、この「CopperConnectTechnology」が何かを行うかどうかを確認しました。CMRは、より完全でより有機的であると私に思い浮かびます。MRは、低音と空気が少し多いようで、（比較的言えば）一種の非常に穏やかなラウドネス効果を与えます。2つから選択する必要がある場合、MRにはもう少し「フレア」があり、CMRはよりスムーズであると言えます。高解像度システムがすでにClarityCap MRコンデンサーを使用して調整されている場合、それらをすべてClarity Cap CMRに置き換えると、システムのサウンドが少しニュートラルになりすぎて、少し調整する必要があるかもしれません。しかし、最終的には、一貫性と優れた長期リスニング品質のために、MRよりもCMRを選択します。クラリティキャップCMRは、非常に簡単です。お気に入りリストに追加しました。

評決：11



クラリティキャップDTACMKP 630VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「特殊なスプレーと熱処理を施した幅の狭い10um（630Vdc）ポリプロピレンフィルムは、このコンデンサの優れた性能に貢献します。これらの対策と手はんだ付けされたM8オスまたはメス終端を組み合わせることで、ESRが大幅に向上します従来のアキシャルリードコンポーネントと比較して改善されています。コンポーネント内で可能な限り低い抵抗を生成するように設計されており、Clarity Capは音響性能に直接関係すると考えています。低ESRは、高品質のクロスオーバーネットワークに特に関係があり、ラウドスピーカーは最適な性能を発揮します。テープと樹脂の色は柔軟であり、特に指定がない限り、コンデンサには金のテープと黒色の樹脂が付属しています。」

サウンド：Clarity Capの範囲は、DTACを除いて、音のバランスが全体的に類似しています。それは他のクラリティキャップのような丸みを帯びた特徴を持っておらず、比較してはるかにきれいに聞こえます。ここでは少し誇張しているかもしれませんが、DTACはClarity CapSAのサウンドを少し安くします。マンドルフシルバ/ゴールドと比較すると、まだ少し丸みを帯びているように見え、明るすぎずにJantzen Audio SilverZ-Capと同じくらい透明で透明です。深み、周囲の情報、コンサートホールの残響をたくさん探している場合は、マンドルフシルバ/ゴールドを検討することをお勧めしますが、少し滑らかなトップエンドを好む場合は、クラリティキャップDTACが興味深い代替手段です。

評決：10

Cornell Dubilier 940C / 600VDC-10%の許容誤差

平均余命60.000時間@定格VDC70°C; ケース素材UL510ポリエステルテープラップ; 樹脂材料UL94V-0エポキシ充填; 端子材料は錫メッキ銅です。」

サウンド：Cornell Dubilier 940Cは、バランスの取れたソーディングコンデンサであり、誇張されたものは何もありません。これは良いことです。一般的な音色は非常に自然に見えます。たとえば、「Il Giardino di Giulio Caccini」のマルコ・ホルヴァートの声はよく表現されており、ある程度の暖かさがあり、隠された声は「叫び」ません。さらに、周囲情報の取得は940Cによってかなりうまく行われ、この記録が行われた建物のサイズを視覚化するのが容易になります。Cornell Dubilier 940Cの全体的なサウンドは非常に心地よく、いくつかの点で、暖かさやディテールの量のバランスが取れたクラリティキャップESAを少し思い出させます。クラリティキャップSAと直接ABで比較すると、より多くのスペース、特に奥行きがあります。クラリティキャップSAは、少し前に聞こえ、ペールもあります。大規模なリスニングセッション中に私が書き留めた他のことは、ライドシンバルの素敵なping、説得力のあるリアルなパーカッションでした。Cornell Dubilier940Cをお気に入りリストに追加したいと思います:-)

評決：8,5



Cornell Dubilier 940C / 0,01uF / 3000VDCバイパス-10%の許容誤差

平均余命60.000時間@定格VDC70°C; ケース素材UL510ポリエステルテープラップ; 樹脂材料UL94V-0エポキシ充填; 端子材料は錫メッキ銅です。」

サウンド：3000VDC Cornell Dubilier 940Cを値0.01uFのバイパスコンデンサとして使用することは、すべてを1つのコヒーレントサウンドにゲル化する低コストのバイパスコンデンサを探しているときに、まさに「アイシング」です。最高の価値！何年にもわたって、私はこれらを多くの異なる組み合わせで使用してきましたが、毎回、全体的なサウンドにさらに追加されました。より一貫性とより簡単。特に、お気に入りのコンデンサの組み合わせを見つけるために「調理」していて、さまざまなキャラクターを結合するだけでよい場合は特にそうです。940Cを追加すると、全体的に成熟したサウンドのスピーカーが作成されます。いいえ、それらは、自然さと豊かな音色、透明性と空気に優れたDuelundまたはVCapバイパスコンデンサよりも優れているわけではありません。DuelundとVCapは別のリーグに所属しています。音質だけでなく価格も;-)バイパスとして使用されるJupiterCopper Foil Paper& Waxと比較して、Jupitorはより豊かな倍音を持ち、トーン的にわずかに暖かいバランスを持っています。Vishay MKP1837は、以前は私のお気に入りの低コストバイパスコンデンサでしたが、現在はCornell Dubilier 940C / 0.01uF / 3000VDCです。それはかなりのマージンでビシエを上回っています:-)

評決：可能な限りどこでもそれらを使用してください！

Cornell Dubilier SFポリプロピレンオイル370VAC-10%公差

技術仕様（メーカーによる）：「タイプSFモーター運転および電源コンデンサー、オイル充填および含浸金属化ポリプロピレン。タイプSFは、冷凍および空調モーター運転アプリケーションで通常使用される単相モーターの始動トルクおよび力率補正を提供します。タイプSFは、電源アプリケーションでノイズ抑制、電圧調整、およびライン電流削減を提供するためにも使用できます。ハイライト：自己修復、最大10,000アンペアAFCの障害電流保

護、低エネルギー消費、1/4インチクイックコネクトラグ端子が標準です。EIA規格EIA-456-AおよびUL認定のファイル番号E71645に適合。このシリーズの耐用年数の目標は、全電圧、60 Hz、定格周囲温度で動作した場合、94%の生存率で60,000時間の動作寿命です。」

サウンド：ホールの音響や豊かな音色などは、Cornell DubilierSFの2つの長所です。この豊かな音色は、実際の銅箔コンデンサほどではありませんが、標準のMKPよりもはるかに優れています。非常にニュートラルなパナソニックEZPEと比較して、Cornell Dubilier SFは、より広々として滑らかでオープンに聞こえます。トーン的には、SFはニュートラルの滑らかな側にあるため、システムがニュートラルの「ホット」側に少しある場合に理想的です。このような場合、石油中のSFポリプロピレンは、システムをよりバランスの取れたものにするために、ある程度の暖かさをもたらします。サウンドステージは、ほとんどのMKPよりも少し後ろに描かれており、Cornell DubilierSFポリプロピレンオイルの「イーजीリスニング」の特徴をさらに高めています。

評決：9-



ドウカティ4.16.10400VAC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「誘電体はポリプロピレンフィルムであり、電極は真空蒸着によって得られた非常に薄い金属コーティングで構成されています。ケースとカバーは自己消火性のプラスチック素材で作られています。容量性エレメントはポリウレタン樹脂で密封されています。これらのコンデンサの主な特徴は次のとおりです。低損失の非誘導巻線。短絡を回避する自己修復特性。小さいサイズと限られた重量；漏れのリスクはありません。静電容量の許容範囲：±5%；動作周波数範囲：50÷60 Hz；個別のテスト電圧：端子間：2.15 Vn、2秒間。端子とケース間：3KVで2秒間。誘電正接 $\tan\delta$ ：<20 10⁻⁴ @ 20°C V = Vn、50Hz；自己消火プラスチック材料の保護ケースとカバー。端子：ツインケーブル、ユニポーラリード；保護度：端子付き：IP00；ツインケーブルIP55付き。ねじ込み固定ボルトM8”

サウンド：この産業用コンデンサ（ASCやIncoなど）は非常に優れています。バーンインに時間がかかるため、最初は少し鈍く聞こえます。しかし、通常の使用の数日後、それらは適度に広くてオープンなサウンドステージを提供します。素晴らしくニュートラルで、少し暖かい音かもしれません。最初は印象的ではないが、しばらくすると成長するものの1つであり、その品質を評価することを学びます。素晴らしいことです。究極のサウンドステージングやマイクロディテールではありません。生き生きとした明るいサウンドのフィルターが必要な場合、これはあなたのキャップではありません。しかし、滑らかで暖かくリラックスしたサウンドを探しているなら、これらを試してみてください。

評決：7,5

Duelund VSF-Cuスピーカーコンデンサ100VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「スピーカークロスオーバー用に特別に作られたコンデンサー、バーチャルスタックフォイルコンデンサー。このコンデンサーは生涯にわたる野心の実現です。銅箔と高密度紙で構成され、純粋なミネラルワックスに浸されています。純粋な繭シルクでコーティングされ、最後に天然素材から作られた特別なラッカーで処理されています。これは間違いなく「グリーン」製品です。実際の構造は、Duelund CoherentAudioのチーフエンジニアであるSteenDuelund氏によって監督されました。Duelund氏はコンデンサの特殊な特性、つまり平坦性により、スタックフォイルの動作方法を作成する機会が与えられ、非常に低いインダクタンスが保証され、内部共振のない形状をもたらす固体ブロックが形成されます。平坦性により、コンデンサを並列に接続することで、より大きな値を簡単に実現できます。」

サウンド：Duelund VSF-Cuは非常に自然な音色で、滑らかで、クリアで、オープンであると同時に、落ち着いて制御されていますが、音楽が必要とするときにダイナミクスを提供します。音のバランスはほぼ完璧で、特によく録音されたアコースティック楽器と人間の声で聞こえます。これにより、私のクラシック音楽コレクションは非常にリアルになります。また、オーケストラ内のすべての楽器が分離されていることにも非常に満足しています。弦楽器のセクションは、単なるグループではなく、はるかに個人のグループです。デュエルンドと直接比較すると、マンドルフシルバー/ゴールドが少しオーバーエッチングされていることがありますが、それらはわずかにトップエンドに重点を置いているようです。その見返りとして、DuelundVSF-Cuにはわずかなトップエンドのロールオフがあります。どちらが最適かは、システムの残りの部分と個人の好みによって異なります。

評決：12.5



Duelund RS-Cuスピーカーコンデンサ100VDC-標準許容誤差2%

技術仕様（メーカーによる）：「デュエルンドのすべての新しいRSシリーズは、コンデンサのVSFラインをさらに改良したものです。長年の研究開発の結果、デュエルンドは、CASTバージョンを作成します。ワックスを含浸させた誘電体を備えた高純度銅箔を使用し、反共振CAST材料で処理することで、RSシリーズが誕生しました。これらのコンデンサはさまざまな方法でCAST性能に近づきますが、コストは低くなります。コンデンサのエッジに最も近いリードアウトは、外側のフォイルに接続されているため、グランドへの最低インピーダンスパスに接続する必要があります。

サウンド：何時間ものバーンイン時間の後、私がメモに書き続けた主なことは、DuelundRS-Cuのサウンドがいかに自然であるかということでした。これは、最適な結果を得るために微調整したり、他のタイプ/ブランドと混合したりする必要がなかった数少ないコンデンサの1つです。私がテストしたすべてのスピーカークロスオーバーでは、毎回とても論理的に聞こえました。ツイーターにテキスタイル、マグネシウム、セラミック、ベリリウムのあるドームがあるかは問題ではないようです。DuelundRSは、ツイーターの音の特徴をそのまま表現しました。何も追加されておらず、何も隠されておらず、微調整する必要もありません。DuelundRSを古いRikeAudio S-Capと比較すると、ほとんどの銅製キャップとアルミニウム製キャップのように、RSがより豊かな音のバランスを提供することがわかりました。古いRikeAudio S-Capは、低音域ではより前向きで、少し前向きに見えました。直接比較すると、Duelund RSはより深みがあり、耳に対してより寛容でした。古いS-Capが荒いというわけではなく、まったくそうではありませんが、RSはもう少し「流れる」ように見えました。最高周波数に焦点を当てると、やはりデュエルンドRSが最も自然に聞こえるように見えました。私がRSをすべてと比較したさまざまな高品位のマンドルフコンデンサは、その領域を少し強調しているように見えました。これは、場合によっては便利または喜ばしいことですが、私にとっては、厳密には中立ではありませんでした。Duelund VCF-Cuと比較して、トップエンドが改善されています。とても素敵なコンデンサですが、私はいつもVSF-Cuがわずかにロールオフされたトップエンドを持っていることに気づきました。Duelund RSは、CAST-Cuと同様に、よりトップエンドの明瞭さを備えており、それとともに、より多くの空間性を備えています。それでは、変装したCAST-Cuを見えますか？いいえ、CAST-Cuは妥協のないコンデンサであり、バックグラウンドが黒く、RSよりも静かです。また、RS-Cuの画像深度はCAST-Cuとまったく同じではありません。しかし、前に述べたように、DuelundRS銅コンデンサは本物です頭を悩ませる必要はありません。スピーカークロスオーバーにこのコンデンサーを入れたら、二度と微調整する必要はありません。すべてがとても論理的に聞こえます。

評決：12.5



Duelund CAST Cuラウドスピーカーコンデンサ100VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「DuelundCASTコンデンサは、ホールド禁止のフラッグシップコンデンサです。構造は、仮想スタックフォイル設計の基盤の上に構築されていますが、独自のワックスペーパーインオイル誘電体を追加することで、いくつかの必要があります。非常に高圧下での含浸の日数。これにより、これまでにない機械的安定性を提供する驚異的な減衰特性を備えたフォームが作成されます。この製造プロセスに加えて、ハードプレス紙のリングがデザインの減衰特性を強化し、音楽の流れを楽しめます。Duelund CASTコンデンサは、スピーカー用およびDCアプリケーション用のCAST630vとして使用できます。

サウンド：CASTコンデンサーはVSFとすべて同じ特性を持っていますが、トップエンドの明瞭さが追加され、それとともに、より空間性があります。それらは（VSFのように）非常に自然で、滑らかで、透明で、開いています。調性のバランスは非常にニュートラルで、特にアコースティック楽器と人間の声を上手に録音すると、主にクラシック音楽で聞こえます。これはあなたが得ることができる絶対的な、支配者の平らかな中立性に最も近いです！VSFと同様に、個々の楽器の分離は非常に優れており、オーケストラでは、弦楽器セクションは単なるグループではなく、個人のグループです。ソプラノは耳に負担をかけずに透明感があり、管楽器（特に銅の部分）はざらざらすることなくその素晴らしい「金属」エッジを持っています。過去には、マンドルフシルバー/ゴールド/オイルのいずれかを選択する必要がありました（非常に良い深さ、イメージングとトップエンドの詳細）またはDuelund VSF（非常にニュートラルなプレゼンテーション）を使用すると、DuelundCAST-Cuの形で両方の長所を活用できます。完全に開花するまでにはかなりの時間が必要だと思ったので、バーンインする機会を与えてください。Duelund CAST-Cuは、入手可能な最もニュートラルなサウンドのコンデンサの1つです。

評決：14

Duelund CAST Cu-Agハイブリッドスピーカーコンデンサ100VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「DuelundCASTハイブリッド銀銅コンデンサの内部には2つのコンデンサがあります。小さな銀コンデンサによってバイパスされるメイン銅箔コンデンサです。両方とも一緒にポットに入れられます。リードアウトはから絡み合っています。CASTポッティング内に隠された純銅箔コンデンサと純銀バイパスコンデンサの両方。プレミアムVSF-CASTスピーカーコンデンサ;純銅/銀;デンマークで手作り。」

サウンド：CAST銅銀ハイブリッドコンデンサは、純銅バージョンと非常に似ていますが、トップエンドの開放性が追加されています。ハイブリッドは、特にアコースティック楽器で聞こえる、倍音のような非常に生命のある非常にニュートラルな音のバランスを持っているという点でCAST-Cuと同じですが、物事は少し明確で、より「そこに」あります。たとえば、William Lawesの「ConsortSets in Five & Six Parts」（JordiSavallがHesperionXXIで演奏）は、その豊かで構造化された性質で知られています。DuelundCAST-Cu-AgHybridを使用すると、この階層化された形式の音楽がより明白になります。純銅バージョンよりも具体的です。シルバーの含有量により、トップエンドがもう少し「輝き」、このタイプの音楽でよく知られているすべての豊かな倍音を簡単に区別できるようになります。Mundorf Supreme EVOシルバーゴールドオイルと直接比較すると、それらは暗く聞こえますが、Mundorfが（私の耳には）少しエネルギーが多すぎるトップエンドに焦点を合わせているため、それは相対的なものにすぎません。Duelund CAST-Cu-Ag Hybridは、私にとっては本物の音楽のように聞こえ、親密でもあります。デュエルンド銅銀ハイブリッドは自然な使いやすさを持ち、ほぼ完璧で、広々としていて、滑らかで、同時に開いています。Rs-Cuなどの低コストのデュエルンドと比較すると、RSは少し「落ち着いて」いて、トップオクターブではあまり明確に定義されていないように見えます。さて、Duelund CAST-Cu-Ag Hybridはそうであるに違いないと言う傾向があるので、このコンデンサの評価は少し難しいと思いました。デュエルンド銅銀ハイブリッドは自然な使いやすさを持ち、ほぼ完璧で、広々としていて、滑らかで、同時に開いています。Rs-Cuなどの低コストのデュエルンドと比較すると、RSは少し「落ち着いて」いて、トップオクターブではあまり明確に定義されていないように見えます。さて、Duelund CAST-Cu-Ag Hybridはそうであるに違いないと言う傾向があるので、このコンデンサの評価は少し難しいと思いました。特にデュエルンドの個別の0.01uF純銀バイパスコンデンサでこのような素晴らしい結果が得られた後は、デュエルンドCAST-Cuよりも「少なくとも2ポイント優れています」。非常に優れたパフォーマンス、トーン的にバランスの取れた、コヒーレントで音楽的なシステムがあり、それからもう少し「生命」を引き出したい場合は、DuelundCAST-Cu-Agハイブリッドが行く唯一の方法。これからは、オプションのエクストラとしてこのコンデンサーを冥王星スピーカーに供給します。それはそれがどれほど優れているかを証明します。あなたは失望することはありません:-)

評決：14,5

Duelund CAST Cu-Snラウドスピーカーコンデンサ100VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「この構造は、仮想スタックフォイル設計の基盤の上に構築されていますが、非常に高圧下で数日間の含浸を必要とする独自の油性パラフィン紙を追加することで構築されています。これにより、フォームが作成されます。これまでにない機械的安定性を与える信じられないほどの減衰特性を備えています。この鋳造プロセスに加えて、ハードプレス紙のリングがデザインの減衰特性を強化し、音楽が楽に流れるのを助けます。」

サウンド：Duelund CAST Cu-Sn錫メッキ銅箔コンデンサーで何ができるかを説明するのは難しいですが、声やアコースティック楽器のようなものを非常に説得力のあるものにする特定の豊かさや色があります。「色」とは、「色付き」という意味ではありません。より豊かで深みのある色に、よりニュアンスがあります。「有形」はそれらを説明するのに良い言葉だと思います。音は親密であると同時に開放的です。滑らかですが、決して暗くはありません。直接比較すると、CAST-Cu（缶詰ではない）はなんとなくひどい音に聞こえます。CAST-Cuは私が知っている中で最もニュートラルなサウンドのコンデンサであるため、ここでは注意する必要があります。CAST Cu-Snの音が異なるということは、それがニュートラルではないことを意味する可能性があります。しかし、何らかの理由で、それは単に2つのより現実的なものとして出くわします。また、0.01uFの純銀箔でCASTCu-Snをバイパスしてみました。これが非常に良い結果になると考えると、結局のところ、CAST Cu-Agは、ミックスに少しの銀を加えることが本当に違いを生むことができるという証拠です。しかし、私はそれ自体でCu-Snを好みます。バイパスコンデンサを追加すると、ディテールの量は増えますが、全体のサウンドのコヒーレント性が低下し（良いことではありません）、時には少し「神経質」になることもあります。Duelund CAST Cu-Snを他のコンデンサと比較すると、Cu-Snは、たとえば木星の銅箔紙とワックスよりも「成熟した」音に聞こえたようです。この「成熟」の感覚は、少し大きく、より広々としたプレゼンテーションによって作成されました。Cu-Snをマンドルフスプリームクラシックシルバーゴールドオイルに交換すると、トップエンドのディテールが向上しましたが、同時に全体的なサウンドはそれほど広がりがなく、実際には少しフラットでテクニカルなサウンドでした。今、私はここで気を悪くしています、マンドルフは非常に優れたコンデンサです、それはデュエルンドがさらに優れているということだけです。個人的な趣味を邪魔しすぎると、ここに夢中になる可能性があります。ですから、現実のチェックとして、私ははるかに低コストでありながら非常に優れたJantzen Audio Alumen Z-Capを試し、Duelundを本当に高く評価すべきかどうかを確認しました。Jantzen Audioコンデンサは100VDCアルミホイールタイプ、Duelund CAST Cu-Snは100VDC銅ホイールタイプです：大きな違いです！Duelund CAST Cu-Snを使用すると、あらゆる種類の音楽の流れがより複雑になり、コンデンサをテストしていることを忘れてしまいました。tは何年もその経験をしました。たとえば、ケンドリック・ラマーのアルバム「ダム」を聴いていると、ラマーはいつもよりも「カッコいい」（「カッコいい」=「スワッグ」）ように見えました。Duelund CASTCu-AgとCASTCu-Snを直接ABで比較すると、Cu-Agの場合、サウンドは最上部でより詳細になりますが、Cu-Snの場合と同様に、全体のサウンドには一部があります。それにもっと体。ですから、今では、私の音楽ができるだけニュートラルで自然で、できるだけ一貫していることが好きだということを知っておく必要があります。Duelund CAST Cu-Snは、これらすべてのことを非常に高いレベルで実行します。さらに、「そこにいる」効果も追加します。CASTCu-Sn錫メッキ銅箔コンデンサは特別なものです。ラマーはいつもよりも「涼しい」ように見えました（そこにいるすべての若者にとって「涼しい」=「盗品」）。Duelund CASTCu-AgとCASTCu-Snを直接ABで比較すると、Cu-Agの場合、サウンドは最上部でより詳細になりますが、Cu-Snの場合と同様に、全体のサウンドには一部があります。それにもっと体。ですから、今では、私の音楽ができるだけニュートラルで自然で、できるだけ一貫していることが好きだということを知っておく必要があります。Duelund CAST Cu-Snは、これらすべてのことを非常に高いレベルで実行します。さらに、「そこにいる」効果も追加します。CASTCu-Sn錫メッキ銅箔コンデンサは特別なものです。ラマーはいつもよりも「涼しい」ように見えました（そこにいるすべての若者にとって「涼しい」=「盗品」）。Duelund CASTCu-AgとCASTCu-Snを直接ABで比較すると、Cu-Agの場合、サウンドは最上部でより詳細になりますが、Cu-Snの場合と同様に、全体のサウンドには一部があります。それにもっと体。ですから、今では、私の音楽ができるだけニュートラルで自然で、できるだけ一貫していることが好きだということを知っておく必要があります。Duelund CAST Cu-Snは、これらすべてのことを非常に高いレベルで実行します。さらに、「そこにいる」効果

も追加します。CASTCu-Sn錫メッキ銅箔コンデンサは特別なものです。Duelund CASTCu-AgとCASTCu-Snを直接ABで比較すると、Cu-Agの場合、サウンドは最上部でより詳細になりますが、Cu-Snの場合と同様に、全体のサウンドには一部があります。それにもっと体。ですから、今では、私の音楽ができるだけニュートラルで自然で、できるだけ一貫していることが好きだということを知っておく必要があります。Duelund CAST Cu-Snは、これらすべてのことを非常に高いレベルで実行します。さらに、「そこにいる」効果も追加します。CASTCu-Sn錫メッキ銅箔コンデンサは特別なものです。Duelund CAST Cu-Snは、これらすべてのことを非常に高いレベルで実行します。さらに、「そこにいる」効果も追加します。CASTCu-Sn錫メッキ銅箔コンデンサは特別なものです。Duelund CAST Cu-Snは、これらすべてのことを非常に高いレベルで実行します。さらに、「そこにいる」効果も追加します。CASTCu-Sn錫メッキ銅箔コンデンサは特別なものです。

評決：15



左から右へ：Duelund CASTCu銅箔/ CASTCu-Sn錫メッキ銅箔/ CASTCu-Ag銅および銀箔ハイブリッド。後部にはデュエルンドRS-Cuのペア。すべてのコンデンサの値は同じで、3,3uF / 100VDCです。

Duelund錫メッキ銅箔バイパスコンデンサ0.01uF / 600VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「精密スピーカーコンデンサー；錫メッキ銅箔；デンマークで手作り」。

サウンド：これらの0.01uF錫メッキ銅箔バイパスコンデンサは、操作するのが本当に楽しいです。ほとんどの銅箔バイパスコンデンサと同様に、トーンのリアリズム、親密さ、倍音の豊かさが増します。V-Cap CuTFと直接比較すると、音は少し前向きに聞こえますが、それは音質の違いとは関係なく、個人的な好みとシステムのマッチングにかかっています。値0.01uFの範囲のトップマンドルフコンデンサは、明るさを追加するために比較して見ましたが、この明るさは、記録に融合するのではなく、記録の上に座っているようなものでした。マンドルフはその点で少し人工的なものに出くわしました。シルバーバイパスと比較して、錫メッキされた銅バイパスは少し暗いと思いますが、録音に含まれるすべての情報はより自然な方法で出くわすようです、より多くのドライブとより多くの体があります。多分それは私が一般的な音楽を聴く方法なので、これをもっと深く説明させてください。妻と私はどちらも、楽器を演奏することが日常的に行われている家族の出身です。私たちは自分たちの家族でこれを続けています。私たちの主な楽器はバイオリンとコントラバスで、子供たちはアコースティックドラム、ピアノを演奏し、オペラや演劇の制作を見つめてきました。すべての楽器はアコースティック楽器であり、スピーカーで再生するのは非常に複雑です。コントラバスにこだわると、低音だけではありません。アコースティックアップライトベースのサウンドは、スプルースとメイプルのボディが共鳴し、ステンレス鋼の弦が黒檀の指板で振動し、カルスが覆われている複雑な混合物です。指板を弾くか、樹脂で覆われた馬の尻尾「ひもをお辞儀する髪。Duelund Tinned Copperバイパスを使用すると、この複雑なミックスと音色の相互作用が非常に自然な方法で発生するため、音楽をより深く理解することができます。私にとっては本物の音楽に近いです。Duelund Cu-Agバイパスがローパスネットワークのウーファーまたはミッドレンジドライバーと並列に最適に機能することがわかった場合、Duelund Cu-Snバイパスは、ミッドレンジまたはツイーターの直列コンデンサーと並列に配置すると最適に機能するようです。パスネットワーク。Duelundが自社で生産を移した2020年春以降、DuelundCu-Sn錫メッキ銅箔バイパスコンデンサの価格が大幅に引き下げられました。この新しい低価格で、すべてのDIYオーディオ愛好家のツールボックスの一部となるはずの本当に簡単なものになりました。Duelund Tinned Copperバイパスを使用すると、この複雑なミックスと音色の相互作用が非常に自然な方法で発生するため、音楽をより深く理解することができます。私にとっては本物の音楽に近いです。Duelund Cu-Agバイパスがローパスネットワークのウーファーまたはミッドレンジドライバーと並列に最適に機能することがわかった場合、Duelund Cu-Snバイパスは、ミッドレンジまたはツイーターの直列コンデンサーと並列に配置すると最適に機能するようです。パスネットワーク。Duelundが自社で生産を移した2020年春以降、DuelundCu-Sn錫メッキ銅箔バイパスコンデンサの価格が大幅に引き下げられました。この新しい低価格で、すべてのDIYオーディオ愛好家の

のツールボックスの一部となるはずの本当に簡単なものになりました。Duelund Cu-Agバイパスがローパスネットワークのウーファーまたはミッドレンジドライバーと並列に最適に機能することがわかった場合、Duelund Cu-Snバイパスは、ミッドレンジまたはツイーターの直列コンデンサーと並列に配置すると最適に機能するようです。パスネットワーク。Duelundが自社で生産を移した2020年春以降、DuelundCu-Sn錫メッキ銅箔バイパスコンデンサの価格が大幅に引き下げられました。この新しい低価格で、すべてのDIYオーディオ愛好家のツールボックスの一部となるはずの本当に簡単なものになりました。Duelund Cu-Agバイパスがローパスネットワークのウーファーまたはミッドレンジドライバーと並列に最適に機能することがわかった場合、Duelund Cu-Snバイパスは、ミッドレンジまたはツイーターの直列コンデンサーと並列に配置すると最適に機能するようです。パスネットワーク。Duelundが自社で生産を移した2020年春以降、DuelundCu-Sn錫メッキ銅箔バイパスコンデンサの価格が大幅に引き下げられました。この新しい低価格で、すべてのDIYオーディオ愛好家のツールボックスの一部となるはずの本当に簡単なものになりました。DuelundCu-Sn錫メッキ銅箔バイパスコンデンサの価格が大幅に引き下げられました。この新しい低価格で、すべてのDIYオーディオ愛好家のツールボックスの一部となるはずの本当に簡単なものになりました。DuelundCu-Sn錫メッキ銅箔バイパスコンデンサの価格が大幅に引き下げられました。この新しい低価格で、すべてのDIYオーディオ愛好家のツールボックスの一部となるはずの本当に簡単なものになりました。

評決：並列に接続しているコンデンサに約2ポイントを追加します。



Duelundピュアシルバーフォイルバイパスコンデンサ0.01uF / 600VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「精密スピーカーコンデンサー;純銀箔;デンマークで手作り」。

サウンド：私はこれらの0.01uF純銀箔コンデンサを多くの異なるシステムのバイパスコンデンサとして使用しました。ほぼすべての場合において、全体的な開放性とトーンのリアリズムが改善されました。トーンのリアリズムとは、アコースティック楽器とボーカリストがはるかに具体的に親密に見えたことを意味します。Duelund Silver Bypass Capacitorは、倍音に特定の倍音の豊かさをもたらします。たとえば、金管楽器では、音色が一種の「輝き」または「輝き」を獲得し、非常にリアルになります。ビッグバンドの音楽は、実生活と同じように、私が何を意味するのかを知っていれば、同時に明るく暖かいです。そして今、決まり文句のために：Duelund Silver Bypass Capacitorは実際にサウンドからカーテンを取り除き、録音に深みと洞察をもたらし、一般的に物事をきれいにするのに非常に良い仕事をします。これは、特定のタイプのバイパスキャップで発生する可能性のある、過酷になることも、スペクトルのどの部分にも人為的な強調を加えることなく行われます。Duelund Cu-Sn錫メッキ銅箔バイパスと比較して、シルバーフォイルバイパスは少し明るく、少し乾燥しています。これにより、私はそれらを最も使いたい場所にたどり着きます。（ミッド）ウーファークロスオーバーの2次または3次ローパスネットワークのコンデンサーと並列です。それらの明快さと開放性は、（例えば）アコースティックドラムセットのサウンドをよりリアルにします。ドラムの皮膚に当たるピーターヘッドのより鮮明な画像を提供することにより、バスドラムの鮮明度を向上させます。Cu-Agバイパスがないと、バスドラムのように聞こえます。Cu-Agがウーファーローパスコンデンサの両端に接続されているため、パール、ヤマハ、ルートヴィヒ、グレッチのいずれのドラムキットを聴いているかを簡単に判断できます。お分かりでしょうが、このような小さな値のコンデンサで何ができるかは非常に興味深いものです。Duelundが自社で生産を移した2020年春以降、DuelundCu-Ag純銀箔バイパスコンデンサの価格が大幅に引き下げられました。この新しい低価格で、すべてのDIYオーディオ愛好家のツールボックスの一部となるはずの本当に簡単なものになりました。

評決：並列に接続しているコンデンサに約2ポイントを追加します。



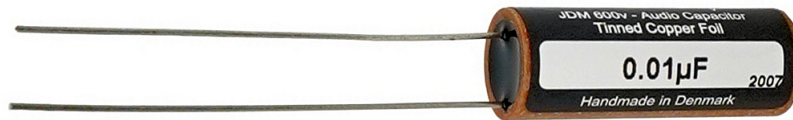
DuelundJDM錫メッキ銅箔バイパス0.01uF / 600VDC-許容定格なし

は外部フォイルに接続されているため、グラウンドへの最低インピーダンス経路、通常は信号出力に接続する必要があります。JDMシリーズは、製造中止になったデュエルンド錫メッキ銅箔精密バイパスコンデンサの代替品です。

サウンド：最初は、古い錫メッキ銅箔バイパスコンデンサとこの新しいバージョンの違いはそれほど大きくはありませんでした。新しいJDMシルバーバイパスコンデンサを最初にテストした後、私はもっと期待していました。しかし、より長い火傷の後、物事は改善し始めました。おそらくシルバーバイパスのより明確な性質のために、違いは最初からのものとより明白でした。JDMの錫メッキされた銅は、少し暗い性格で、より「壁の花」のように見えました。とにかく、バーンインが邪魔にならないので、JDM錫メッキ銅箔バイパスコンデンサは、豊かで有機的な特徴を持つ古いモデルと特徴が似ていることがわかりました。古いタイプとの相対的な違いを前向きに説明します。そのため、古いモデルよりも倍音が豊富で有機的です。たとえば、スピーカーの高音域が適切にレンダリングされ、すでにニュートラルなトーンである場合、メインのツイーターコンデンサーと並列にJDM錫メッキ銅箔バイパスを追加すると、全体的なサウンドがより説得力のあるものになります。以前は、全体的なパフォーマンスにおいて、純銀箔バイパスよりも錫メッキ銅箔バイパスを好んでいましたが、現在は相対的な差が小さくなっています。それはより多くの音楽/録音品質/個人的な好み/システムに依存します。したがって、システムに豊かさとリアルなトーンを追加したい場合は、DuelundJDM錫メッキ銅箔バイパスコンデンサを使用することを強くお勧めします。以前は、全体的なパフォーマンスにおいて、純銀箔バイパスよりも錫メッキ銅箔バイパスを好んでいましたが、現在は相対的な差が小さくなっています。そ

これはより多くの音楽/録音品質/個人的な好み/システムに依存します。したがって、システムに豊かさやリアルなトーンを追加したい場合は、DuelundJDM錫メッキ銅箔バイパスコンデンサを使用することを強くお勧めします。以前は、全体的なパフォーマンスにおいて、純銀箔バイパスよりも錫メッキ銅箔バイパスを好んでいましたが、現在は相対的な差が小さくなっています。それはより多くの音楽/録音品質/個人的な好み/システムに依存します。したがって、システムに豊かさやリアルなトーンを追加したい場合は、DuelundJDM錫メッキ銅箔バイパスコンデンサを使用することを強くお勧めします。

評決：並列に接続しているコンデンサに約2ポイントを追加します。



DuelundJDMシルバーフォイルバイパス0.01uF / 600VDC-許容定格なし

は外部フォイルに接続されているため、グランドへの最低インピーダンス経路、通常は信号出力に接続する必要があります。JDMシリーズは、製造中止になったデュエルンドピュアシルバーフォイルプレジジョンバイパスコンデンサの代替品です。」

サウンド：JDMシルバーは古いモデルと特徴が似ているため、透明度と開放性が「輝き」と組み合わせられています。古いモデルと比較して、滑らかさが増しています。この追加された滑らかさにより、さらに幅広いアプリケーションに適しています。以前は全体的なパフォーマンスで錫メッキ銅バイパスを好みましたが、現在はJDM錫メッキ銅よりもJDMシルバーに傾いています。透明度と滑らかさのブレンドは中毒性があります。パーカッション楽器のJDMシルバーが本当に好きです。たとえば、スティックの定義は、アタック、明るさ、暖かさの正しいバランスで明確に定義されています。金管楽器を聴くと、同様の効果が見られます。たとえば、ムーンチャイルドのNPRミュージックタイニーデスクコンサートのオープニングナンバー「マネー」は、アルトサクスのイントロで始まります。テナーサクスとフリューゲルホルン。3つのゲルは非常にうまく調和し、楽器の青々とした風切り音は、明るく同時に暖かい前線によって強調されています。ボーカルにもメリットがあり、より具体的になります。したがって、JDM錫メッキ銅バイパスのように強くお勧めします。

評決：並列に接続しているコンデンサに約2ポイントを追加します。



Elcod K78-19 200VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「金属化ポリプロピレンフィルムコンデンサ。DC、AC、リップル電流回路およびパルスモードで動作するように設計されています。設計：接着テープで包まれ、コンデンサの端は化合物で密封されています。動作時間15000時間。保管寿命12年間。」

サウンド：Elcod K78-19は、ニュートラルでバランスの取れたコヒーレントなサウンドのコンデンサです。全体的なサウンドにはボディがあり、さまざまなシステムのすべてのタイプの音楽で非常にうまく機能しているようです。この価格帯では空間情報が平均を上回っており、わずかに温かみのあるプレゼンテーションであるため、長時間のリスニングセッションに最適です。さらに、詳細レベルは適切であり、多すぎたり少なすぎたりすることはありません。繰り返しますが、全体的に非常にバランスが取れています。K78-19とK78-34を比較すると、K78-19は、K78-34よりも少し前向きで、ゆったりとした音がします。

評決：7,5



Epcos B32523-Q3475-K26 MKT 250VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「金属化ポリエステルフィルムコンデンサ（MKT）B32520 ... B32529汎用（スタック/巻線）。一般的なアプリケーション：ブロッキング、カップリング、デカップリング、自動車用RFIのバイパス、最大動作温度：125° C;誘電体：ポリエチレンテレフタレート（ポリエステル、PET）;リード間隔5~15 mmのスタックフィルム技術=注文コードの7桁目のコードC、D、またはE;リード間隔10~27.5mmの巻線コンデンサ技術=コードN、注文コードの7桁目のQまたはR;プラスチックケース（UL 94 V-0）;エポキシ樹脂シーリング（UL 94 V-0）;特徴：高いパルス強度、高い接触信頼性;端子：平行線リード、リード-リクエストに応じて、無料の缶詰の特別なリード長を利用できます。」

音：驚くほど良い音のポリエステルタイプ。音のバランスについては、Epcos B32656MKPタイプよりも実際に好みます。Vishay MKT1822ほど一貫性はありませんが、それでも満足しています。Vishay MKT1822が実際に直接信号パスでうまく機能するのに対し、ウーファーインピーダンス補正ネットワークでうまく機能すると想像できます。

評決：6

Epcos B32656-A6475-J MKP 750VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「金属化ポリプロピレンフィルムコンデンサ（MKP） B32651 ... B32656高パルス（巻線）。代表的な用途：電子バラスト、スイッチモード電源；最大動作温度110°C；誘電性ポリプロピレン（PP）；VR 1250VDC用の内部直列接続を備えた巻線コンデンサ技術；プラスチックケース（UL 94 V-0）；エポキシ樹脂シーリング；高いパルス強度、高い接触信頼性；端子：平行線リード、鉛フリー錫メッキ；特別なリード長リクエストに応じて利用可能です。」

サウンド：2Dのフラットな画像で、一種の「プラスチック」のように聞こえます。ミッドレンジはきびきびしていて、基本的な品質のポリプロピレンタイプのすぐ上にそれらをもたらすいくつかの心地よい高音域があります。ウーファーの平行セクションとスピーカークロスオーバーのミッドレンジセクションには問題ありませんが、個人的にはツイーターの直接信号パスには使用しません。

評決：7



Epcos B32774-D1505-K MKP 1300VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「金属化ポリプロピレンフィルムコンデンサ（MKP） B32774 ... B32778 MKP DCリンク；高密度シリーズ；コンパクト設計の一般的なアプリケーション：周波数変換器、産業用およびハイエンド電源、ソーラーインバーター；最大動作温度：105°C（ケース）；誘電体：ポリプロピレン（MKP）；プラスチックケース（UL 94 V-0）；エポキシ樹脂シーリング（UL 94 V-0）；最大110uFのコンデンサ値；優れた自己修復性特性；過電圧機能；高電流機能による低損失；高信頼性；長い耐用年数；端子：平行線リード、鉛フリー錫メッキ。」

サウンド：外観とサウンドはEvovx-Rifa PHE 426に似ています。スナッピーでダイナミックですが、ミッドレンジではかなり前向きで前向きです。トップエンドの高音域にはわずかな軸葉がかかっているため（Evovx-Rifaほど強くはありません）、輝きと透明性が少し欠けています。EpcosB32656-A6475-Jよりも「プラスチック」の味が少ない。ウーファーの平行セクションとスピーカークロスオーバーのミッドレンジセクションには問題ありませんが、個人的にはツイーターの直接信号パスには使用しません。

評決：7+

Erse Pulse-X MKP 630VDC-5%の許容誤差

等価直列抵抗をさらに低減し、長期的な信頼性を向上させるために、鉛は鉛フリーの銀はんだではんだ付けされます。次に、PulseXキャップを防災ポリエステルテープで包み、両端をエポキシで充填します。最終梱包の前に、各PulseXキャップは、認定されたプレミアム品質のWayne Kerr静電容量ブリッジでテストされ、公称値を中心とした±3%の許容誤差が保証されます。PulseXキャップは、ほぼ完全なコンデンサの兆候を示します。全高調波およびIMD歪みと位相歪みは事実上測定不可能ですが、すべての損失はあらゆる面でほぼゼロです。PulseXキャップを使用すると、音楽を正確に、あらゆる点で無着色にすることができます。」次に、PulseXキャップを防災ポリエステルテープで包み、両端をエポキシで充填します。最終梱包の前に、各PulseXキャップは、認定されたプレミアム品質のWayne Kerr静電容量ブリッジでテストされ、公称値を中心とした±3%の許容誤差が保証されます。PulseXキャップは、ほぼ完全なコンデンサの兆候を示します。全高調波およびIMD歪みと位相歪みは事実上測定不可能ですが、すべての損失はあらゆる面でほぼゼロです。PulseXキャップを使用すると、音楽を正確に、あらゆる点で無着色にすることができます。」次に、PulseXキャップを防災ポリエステルテープで包み、両端をエポキシで充填します。最終梱包の前に、各PulseXキャップは、認定されたプレミアム品質のWayne Kerr静電容量ブリッジでテストされ、公称値を中心とした±3%の許容誤差が保証されます。PulseXキャップは、ほぼ完全なコンデンサの兆候を示します。全高調波およびIMD歪みと位相歪みは事実上測定不可能ですが、すべての損失はあらゆる面でほぼゼロです。PulseXキャップを使用すると、音楽を正確に、あらゆる点で無着色にすることができます。」すべての損失はあらゆる面でほぼゼロです。PulseXキャップを使用すると、音楽を正確に、あらゆる点で無着色にすることができます。」すべての損失はあらゆる面でほぼゼロです。PulseXキャップを使用すると、音楽を正確に、あらゆる点で無着色にすることができます。」

サウンド：同じブランドのTransient-Xと比較すると、Pulse-Xははやや鈍く2Dに聞こえます。高音はわずかに「どろどろした」マナーで生成されます。これは、並列セクションで使用し、それほど重要ではないミッドレンジ直列コンデンサとして使用する場合は問題ありませんが、ツイーターの直接信号パスで何かを探している場合は、はるかにオープンでダイナミックで、バックグラウンドノイズが少ないTransient-Xを選択してください。大規模なバロック合唱団のようなものは混乱し、Erse Pulse-Xは、プログラムの素材が複雑になると、明確な概要を維持していないようです。しかし、Transient-Xは別の価格帯にあるため、厳密な比較ではありません。Pulse-Xは基本的に、Axon True Cap、Intertechnik Audyn Cap QS、Jantzen Audio Cross Cap、SCR Chateauroux MKP-PB、Solen Fast CapPB-MKP-FCなどのコンデンサと同じリーグに属しています。

評決：6,5

Erse Transient-X MKP 1200VDC-3%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：NA

サウンド：Erse Transient-Xは、攻撃的になることなく「顔の中に」ディテールがたくさんあります。十分なディテールを聞きながらバランスをとるのに適していますが、あまり多くはありません。これらのコンデンサは、システムに明確さを加える必要がある場合に非常に役立ちます。ヒコリーの5Aから7Aのスティックサイズに変更するなど、ドラムセットのライドシンバルのスティックの定義を改善するのに適しているようです。彼らはまた、ギターの最先端をうまく引き出します。Erse Transient-Xのキャラクターは、クラシック音楽にはあまり適していません。トップエンドでハーモニックコヒーレンスが不足しており、未処理のアコースティック音楽で最も顕著です。要約すると、それらは鈍いシステムをクリアするのに非常に優れていますが、クラシック音楽を聴かない場合に限りです;-)

評決：9,5

Evox-Rifa PHE 426 MKP 250VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「単一の金属化ポリプロピレンフィルムパルスコンデンサ。SMPS、TV、モニター、電気バラスト、および安定した動作を必要とする他の高周波アプリケーションでのパルス動作。真空蒸着アルミニウム電極を備えたポリプロピレンフィルムコンデンサ。錫メッキされたワイヤのラジアルリードコンデンサ巻線の両端の接触金属層に電気的に溶接されています。UL94V-0の要件を満たす自己消火材料でのカプセル化。電圧とリード間隔に応じて、2つの異なる巻線構造が使用されます。」

サウンド：Evox-Rifa PHE 450と同様に、PHE 426は透明でクリアなサウンドですが、粒子の粗さは少なくなります。高音域にはまだわずかな釉薬がかかっていますが、0.01uFのVishayMKP1837を平行に置くことで取り除くことができます。イメージングは、適切なサイズのサウンドステージで非常に優れていますが、平均的な分離しかありません。ダイナミクスは素晴らしく、きびきびして、高音は非常に詳細です。オブリガートアルミドライタイプに似た特徴を持っていますが、アナログ感が欠けているだけです。マンドルフRXFと比較して少し明るいですが。このコンデンサは価格/品質比が高く、他のコンデンサと組み合わせてカスタムコンデンサを作成すると、非常に良い結果が得られます。

評決：7+



Evox-Rifa PHE 450 MKP 250VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「高周波、高電流ストレスアプリケーション向けの二重金属化ポリプロピレンフィルムパルスコンデンサ。代表的なアプリケーション：SMPSおよび電子バラストの保護回路。UL94V-0の要件を満たす自己消火性材料でカプセル化されています。」

サウンド：Evox-Rifa PHE 450は非常に透明でクリアなサウンドのコンデンサーで、少し「新鮮」なサウンドになることもありますが、このキャラクターは、より丸いキャラクターのコンデンサーを追加することで補正できます。約10で非常に良い結果が得られました。油中のアンジェラ（ジェンセン）紙から構成される合計値の%。それ自体で、ミッドレンジが少し露出不足で、高音域にわずかな釉薬がかかっています。これも、0.01uFのVishayMKP1837を平行に配置することで取り除くことができます。イメージングは、適切なサイズのサウンドステージで非常に優れていますが、平均的な分離しかありません。ダイナミクスは素晴らしく、きびきびして、高音は非常に詳細です。私はPHE450にあまり熱心ではないように思われるかもしれませんが、これはその特徴を言葉で説明しようとする方法にすぎません。価格を考えると、それでも非常に素晴らしい小さなコンデンサです。

評決：7

Evox-Rifa SMR 63VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「金属化ポリフェニレンサルファイド。構造：真空蒸着アルミニウム電極を備えたポリフェニレンサルファイドフィルムコンデンサ。錫メッキされたワイヤのラジアルリードは、コンデンサ巻線の端の接触金属層に電気的に溶接されています。自己カプセル化-UL 94V-0の要件を満たす消火材料。一般的なアプリケーション：自動車およびその他の周囲温度の高いアプリケーション、高い安定性と低損失を必要とするアプリケーション、オーディオアプリケーションで優れた音質を提供します。」

サウンド：ニュートラルの明るい側でわずかに聞こえる非常にコンパクトな小さなコンデンサ。たとえば、Clarity Cap APWやPWAよりも鮮明で、適度に広い画像がありますが、奥行きがありません。そのため、サウンドステージは左から右への配置では良好ですが、2Dではなく前後の配置では不十分です。その音響特性は、ポリエステルVishayMKT1822の音響特性に非常に近いものです。PCで使用するために設計された素敵なコンパクトなビルドは、他の低価格のブランドよりもそれを好む理由になる可能性があります。

評決：6

Hovland Musicap MKP 100VDC-2,5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「ポリプロピレンフィルムと導電性フォイルの別々の層;大きな柔軟な16ゲージ、撚り線、銀メッキ銅リード;錫メッキとリードの取り付けに使用される鉛フリーの銀含有はんだ;米国で製造はんだ付けされたリード端子;非常に低いDA、DF、ESR;品質保証のための100%事

前テスト;一貫した均一な巻線張力。」あなたがそれらを絞ると、それらの静電容量が変化するので、それらはわずかに波打っています！

サウンド：「Musicapsは、優れたダイナミクス、スピード、フォーカス、正しい音色と被写界深度、そして優れたトランジェント間の沈黙を提供します」これについてはこれ以上同意できません。しかし、私は彼らと愛/憎しみの関係を持っていると言わなければなりません：彼らはすべてのタイプのツイーターと交尾するわけではありません。とても素敵なソフトドームツイーターと直列にすると、他のキャップと一緒に使用した場合と比較して、そのようなツイーターから通常よりも詳細を引き出すように見えます。Scanはソフトドームを話すことで良い結果が得られました。DynaudioD260Esotecの場合、この価格帯でこれ以上の上限を想像することはできませんでした。しかし、ツイーターが明るい側またはクリニク側で少しである傾向がある場合、それらはひどい音になります。もちろん、Audyn CapやLeClanchéを使用した場合と比較して、より詳細で優れたサウンドステージが得られますが、たとえば、AurigaのFocalツイーターで試してみましたが、まったく機能しませんでした。耳が痛い！ここに良いヒントがあります：スキヤンスピークD2905-9700でコンボを微調整するとき、私はホブランムジカブとマンドルフスプリームキャップの50/50%の組み合わせが最良であることがわかりました。

評決：8



Hovland SuperCap (Robert Hovlandシリーズ) MKP 200VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「フィルム&フォイルポリプロピレンコンデンサーは米国で精密に製造されています。リードは、PTFE（テフロン®）絶縁を備えた22ゲージの細いストランドの銀メッキ銅です。回路内のコンデンサーの向き：外側のフォイルはコンデンサーに印刷された背の高い垂直バーで示されます。通常、外側のフォイルリードはコンデンサーを通過する信号の「宛先」に接続し、残りの内側のフォイルリードはソースに接続する必要があります。

サウンド：エッジの効いた、または攻撃的になることなく、非常に詳細です。コントラストが高く、トップエンドがわずかに強調されていますが、常に滑らかなソーディングです。たとえば、Jantzen Audio SilverZ-Capよりも青々と暖かくなります。時々、高音域でわずかな「ラウドネス」のキャラクターが聞こえましたが、心配する必要はありません。全体的にクリーンで親密なキャラクターと優れた画像の奥行きを組み合わせることで、音楽情報の総量で失われる可能性のあるもの（標準品質のMKPを使用）をバックグラウンドで選択できます。このキャラクターはまた、プログラム素材の音質を非常によく判断することができます、彼らは正直です。私がむしろ好きな品質。

評決：10



Inco Sintex 45T D2BS MKP 425VAC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「交流で使用する金属化ポリプロピレンフィルムコンデンサー。これらのコンデンサーの最も具体的な用途は、単相および三相モーターを単相電源の主電源に接続する場合、単相および三相モーターの始動と運転に関するものです。」「モーター運転アプリケーション用の自己修復金属化ポリプロピレンコンデンサー。スタッドマウントM8、フレキシブルワイヤーエンド、プラスチックケース。」

サウンド：この工業用タイプのコンデンサー（ASCのような）はとてもいいです！パーンインに時間がかかるため、最初は少し鈍く聞こえます。しかし、通常の使用の数日後、それらは適度に広くてオープンなサウンドステージを提供します。素晴らしくニュートラルで、少し暖かい音かもしれません。最初は印象的ではないが、しばらくすると成長するものの1つであり、その品質を評価することを学びます。素晴らしいことです。究極のサウンドステージングやマイクロディテールではありません。生き生きとした明るいサウンドのフィルターが必要な場合、これはあなたのキャップではありません。しかし、滑らかで暖かくリラックスしたサウンドを探しているなら、これらを試してみてください。

評決：7,5

Intertechnik Audyn Cap Fine First FFCアルミホイル/オイル中の紙400VDC-20%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「鉱油含浸の信号コンデンサ、アノード：アルミニウム、0.01 uF~4.7 uFの静電容量範囲、定格電圧：400VDC、接続リード長：最小50mm、損失係数tan：1 KHzで0.002未満、構造：紙/アルミニウム/オイル。アクティブオーディオ用の高品質コンデンサで、チューブアンプに最適です。」

サウンド：Intertechnik Audyn Fine First Capは、音楽へのアプローチにおいてスムーズで落ち着いていると思います。それは大音量で再生され、常に文明化されたままになります。音響楽器の質感は非常に自然で、ビッグバンドのサウンドは豊かで豊かですが、マスプラスがフルスチームで得られる素晴らしいラフなエッジとパワー感を見逃すことがあります。大規模な交響楽団は、現実的で特大ではない音場の周りに十分な間隔があります。FFCはそれほど広くはなく、高品位のマンドルフコンデンサほどの深さもありますが、それでも非常に説得力があり現実的です。Fine First Capは、ソロピアノ音楽で多くのポイントを獲得し、楽器のサイズと質感を非常に信頼できる形で表現します。わずかにロールオフされた倍音の倍音ですが、豊かな自然な音色。

評決：10+



IntertechnikAudynキャップKPSN 160VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「スズ箔コンデンサ、接続リード：錫メッキ銅、静電容量範囲0,10uF~4,7uF、公称電圧：160VDC / 250VDC / 630VDC、C許容値：±2%」。

サウンド：Intertechnik Audyn Cap KP SNは、高品質のコンデンサと比較するとわずかにフラットな画像ですが、基本的な品質のMKPよりも少し詳細でパフォーマンスが優れています。騒々しい通路では物事は少し圧縮される可能性があります、それはそれらを何倍もの価格のコンデンサと比較するときだけです。したがって、基本的に、Intertechnik Audyn Cap KP SNは、標準のMKPとハイグレードタイプの間の音のギャップを非常にうまく埋めているようです。安い兄弟のオーディンキャップMKP-QSからの良いステップアップ。

評決：8,5



IntertechnikAudynキャップMKP-QS400VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「中品質のスピーカークロスオーバーでの使用には、Intertechnik MKPQSシリーズのコンデンサをお勧めします。400VDC/ 250VACと630VDC / 400VACの2つの定格電圧が利用可能です。」

サウンド：Audyn Capは、標準品質の工場で製造されたスピーカーによく見られる安価な電解コンデンサからの優れたステップアップです。彼らには何も悪いことはありませんが、エキサイティングなことも何もありません。電解質と比較して、それらははるかに詳細で滑らかで、より広いステレオイメージを持っています。Audyn Cap Plusと比較すると、それらは鈍く、どろどろとしていて、閉じているように聞こえます。すべての単純なフィルターアプリケーション、特に信号パスにない場合の基本的な古き良きMKP。双極電解質の優れた代替品。

評決：6,5



Intertechnik Audyn Cap Plus MKP 800VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「これらの低損失コンデンサは、極端なインパルス/電力処理用に開発されました。重要な設計/構造上の特徴は、フォイル（電極）と端部間の接続の電力処理です。AudynCapPlus電極をエンドリードに接続するシステムが大幅に改善されています。AudynCapPlusは、

金属箔の層が片側の金属化された「ブラインド」層と組み合わせられる内部直列接続システムも利用しています。二重の金属化性能の結果として電極：ポリプロピレン巻線：誘導フリー：2巻線直列接続層：真空金属化ボディ：アルミニウム、合成材料（プラスチック）。

サウンド：Audyn Cap Plusは素晴らしいコンデンサです！それらは最初は少し硬く前向きに聞こえ、バーンインするのにかなりの時間がかかるため、一種のミッドレンジヘイズがあります。しかし、通常の使用で数週間後、それらは時間の経過とともに良くなるだけの深みのある空間サウンドを提供します。音楽のニュアンスをうまく再現。明快さ、深さ、細部、そして開放性がそこにあります。初めてこれらに切り替えたとき、「これだ！」と思いました。（しかし、それは数年前のことです）。それらは、同等に優れているがより透明なサウンドのマンデルフシュプリームキャップと比較して、少しミッドレンジのフォワードに聞こえます。

評決：9-



Intertechnik Audyn Cap Tri-Reference MKP 600VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「非常に高い長期安定性、機械的に安定化、振動のない鋳造、誘導のない巻線技術、金属化フィルム、自己修復設計、特殊な接触面と巨大な銅板により、エンドプレートは従来のコンデンサでは、2つのはんだポイントを介してのみ接触が行われます。導電性が向上し、Tritecマルチストランドワイヤにより表面が大きくなり、ハウジングが安定し、従来のMKPと比較して損失係数が減少します。

サウンド：Audyn Cap Referenceは非常に優れたコンデンサです！十分なバーンイン時間の後、それらは非常に優れた低音域のアーティキュレーションを生成します。Mundorf Supreme SilverGoldのErseTransient-Xと直接比較すると、それほど直接的ではありませんが、個人的にはそれが好きです。Jantzen Audio SuperiorZ-Capは少し緊張しているように見えます。Intertechnik Audyn Cap Tri-Referenceは非常に一貫性があり、Clarity CapMRやJupiterCondensers BeesWaxほど「丸い」ものではないかもしれませんが、背景が黒く、少し鮮明です。Tri-Referenceは広々としていて、個々の楽器をリアルな量の細かいディテールでうまく分離していることがわかりました。スペクトルのどの部分も誇張することなく、録音の奥深くまで聞くことができます。彼らの全体的な性格については、素敵な「一体感」があるようです。

評決：11歳以上



Intertechnik Audyn True Copper Cap MKP 630VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「オーディオファン向けの高品質ポリプロピレンコンデンサ。電極：銅箔、Tritecエンドリード、誘導自由巻線技術、自己修復設計、カプセル化；エポキシ樹脂、接続：7x0,50mmTritecワイヤ。0,10 uF~2,20 uFの静電容量値；公称電圧：630 VDC；C公差：±2%；温度範囲：-25C~ + 70C；絶縁抵抗30000 / CMohm；uF）IEC60384-1、EN130000；唐：1 kHz25Cで0,0002未満 "。

サウンド：Audyn True Copper Capは非常に空間的で、個々の楽器の周りにたくさんの空気があります。非常に素晴らしく、コヒーレントなサウンドで、豊かな自然の倍音があり、全体としてかなり音楽的です。木管楽器は自然な使いやすさで出くわし、金管楽器は明るく暖かく聞こえます-非常に説得力があります。オーディントゥルー銅キャップは、暖かさとディテールの完璧なバランスを持っています。詳細と空間情報の量により、録音会場の音響をよく聞くことができ、ステージの周りにオーケストラを正しく配置できます（もちろん録音品質は許されます）。本当にとても素敵で、私の個人的なお気に入りの1つです！

評決：12歳以上

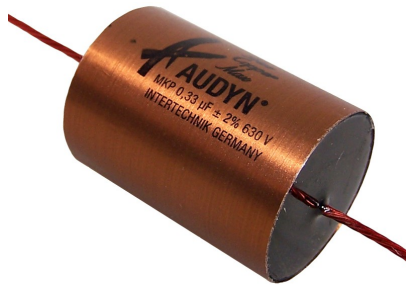


Intertechnik Audyn True Copper Max MKP 630VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「AudynTrueCopperシリーズのコンデンサーの第3世代。CopperCapMaxは、Audyn True Copper、Audyn Reference、およびAudynPlusの技術と利点を妥協することなく1つのコンポーネントに組み合わせています。銅-非常に高級なオーディオ愛好家向けの銅-ポリプロピレンコンデンサ。特性：フルOFC銅箔、銅金属化箔誘電体、非誘導自己修復構造、Tritec 7x0.5 mm錫メッキリード線は、柔軟な接続により大きな表面を提供します。630VDC、許容誤差：2%;温度：-25C~ + 70C; IEC60384-1、EN130000; Ris over 30000 / C (Mohm、uF) ; 端子間のテストV : Ur : 630VDC、Ut : 650VDC25Cで1分;テストVの短絡接続された端子とケース : 1000VDC、25Cで1分; Audyn Copper Maxは、銅キャップに追加されます。コッパーマックスはコッパーキャップに取って代わることはありません。」

サウンド：Audyn True Copper Maxは非常に正直で、ニュートラルで自然です。Audyn True Copper Capと同様に、True Copper Maxは、豊かな自然の倍音を備えた非常に素晴らしくコヒーレントなサウンドを備えており、すでに優れた銅キャップよりもさらに説得力のある方法でそれを実現します。木管楽器は自然な安らぎに出くわし、金管楽器は明るく暖かく聞こえます。オーディントゥルーカッパーキャップは、暖かさでディテールの完璧なバランスを持っています。ボーカルは有形であり、周囲にスペースがあります。詳細の量により、詳細になりすぎることなく、録音会場の音響をよく聞くことができます。たとえば、高グレードのマンドルフコンデンサと直接ABを比較すると、Copper Maxは低音域に少し焦点を合わせているように見えるかもしれませんが、それはマンドルフが sは、エネルギーの大部分をトップオクターブのハイライトに費やします。コッパーマックスは、マンドルフスプリームEVOシルバーゴールドオイルよりもはるかにリッチでフルボディのサウンドを備えています。ジュピターカッパーフォイルペーパー&ワックスほどリッチではないかもしれませんが、それほど遠くはありません。Intertechnik True Copper MaxをさまざまなDuelundコンデンサと比較すると、Duelundの「署名」は一般的に少しだけリッチであることがわかりましたが、CopperMaxもそれほど遠くありませんでした。本当にとても素敵で、私の個人的なお気に入りの1つです。現在、PlutoneDIYスピーカーキットに標準で使用されています。

評決：12.5



Intertechnik Audynキャップトゥルーシルバー1000VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「銀金属化ポリプロピレンコンデンサー;純銀線回路;誘導自由巻線技術;ファイファイラー巻線技術;頑丈なプラスチックハウジングは外部損傷から保護します;自己修復設計;ハウジング：プラスチックチューブエポキシカプセル化;接続：ソリッドコアシルバーワイヤ;静電容量範囲0,10uF~15uF;公称電圧：1000VDC; C公差：±2%;温度範囲：-25C~ + 70C唐：1kHzで0,0002未満 "。

サウンド：Intertechnik Audyn Cap True Silverは、少し「トッピー」になることがあります。これは、使用するシステムとフィードするプログラムの素材によって異なります。Audyn Cap True Silverは、Jantzen Audio Silver Z-Capの特徴を思い出させますが、Audyn Cap TrueSilverは2つのうちよりニュートラルであることがわかります。細部の山と多くの透明性があり、すべて他の品質とバランスが取れていますが、既存のシステムのアップグレードとして実装する場合は注意が必要です。このコンデンサーを新しいクロスオーバーデザインのベースとして使用し、システムの他の部分との優れた相乗効果を生み出すことができる場合は、豊かなディテール、バランスの取れた、過度のエッチングがない音楽で報われるでしょう。

評決：11-



Jantzen Audio Cross Cap MKP 400VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「フィンランドで製造および金属化された高品質の箔から作られた高品質で手頃なエントリーレベルのPPコンデンサ。このコンデンサは実質的に歪みがなく、ニュートラルなサウンドプロファイルを備えています。パッシブクロスオーバー。コンデンサは金属化（ZnAl）ポリプロピレンフォイルから巻かれています。前面にはZn粉末が散りばめられており、端子リードとの確実な接触が保証されます。エポキシ樹脂が充填されています。端子リードは丸い錫メッキの4N銅線で作られています。コンデンサのパラメータは、標準IEC384-16、定格電圧：400V DC、コンデンサの許容誤差：5%、気候カテゴリ：40/85/21。」

サウンド：多くの基本的な品質のMKPと同様に、洗練されていませんが、全体的な音のバランスは非常にニュートラルです。コストが非常に低いため、たとえば低予算のシステムで電解コンデンサがよく見られるウーファアのローパスの並列コンデンサに最適です。基本的な品質の並列補正ネットワークでも問題ありません。また、サイズが非常にコンパクトであるため、スペースが重要な場合に便利です。

評決：7+



Jantzen Audio Standard Z-Cap 400VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「アルミニウムと亜鉛の粒子で金属化された非常に高品質のドイツ製フォイルを備えたシングルフォイルPPコンデンサ。PCOCC銅（無酸素）製の端子リードを備えています。定格電圧：400VDC、非誘導構造、端子リード線はPCOCC銅（純銅大野連続製造ワイヤー）、容量許容差：+/- 5%、損失係数：1K 0.00002、無極性コンデンサーから作られています。

サウンド：Jantzen Audio Cross Capからの明瞭さのステップアップですが、Jantzen Audio Superior Z-Capの洗練された機能が欠けています。広範囲にわたるバーインの後、それらはうまく滑らかになります。ABを直接比較すると、クロスキャップのサウンドが少しミッドレンジ前方になります。スーパーZキャップは、より大きく静かなイメージを描きます。標準のZキャップは、明るすぎずにうまくレンジングできるコンデンサを探している場合に適しています。マンドルフEVOと比較すると、標準のZキャップはわずかにニュートラルですが、違いはわずかです。標準のZ-Capには、Audyn Cap QSのような「どろどろした」サウンドはなく、音のバランスは非常にニュートラルです。彼らは「S」と「T」の音を少し強調していますが、それはすべての低コストのコンデンサにとってはごく普通のことです。低コストであるため、直列信号パスの予算に敏感なシステムや、低予算のシステムで電解コンデンサがよく見られるウーファアのローパスにある高品位の並列コンデンサに最適です。サイズがコンパクトなので、スペースが重要なときに便利です。

評決：8-



Jantzen Audio Superior Z-Cap 800VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「アルミニウムと亜鉛の粒子で金属化された非常に高品質のドイツ製フォイルを備えたダブルフォイルスーパーPPコンデンサ。PCOCC銅（無酸素）製の端子リードを備えています。誘電性流体の代わりに窒素を充填し、より多くの製品を提供します。コンデンサあたりの箔と蒸発のリスクを排除します。定格電圧0,10µF-0,33µF：1200VDCまたは600VAC、定格電圧0,47µF-22µF：800VDCまたは425VAC、非誘導構造、端子リードは純銅大野連続製造線で作られています（無酸素）、容量許容差：+/- 2%、定格電圧：800-1200VDC、損失係数：1K 0.00002 10K 0.00001、無極性コンデンサ」。

サウンド：非常にニュートラルで一貫性のあるバランスで、何も強調されていないようです。つまり、ポジティブな意味です。それらは、より高価な兄弟であるシルバーZキャップよりもプレゼンテーションが少しフラットですが、深さと空間情報の点でクラリティキャップESAよりも優れています。クラリティキャップESAと直接比較すると、低音域での先行感が少なく、バイオリンなどのアコースティック楽器のテクスチャーが優れています。高音域の高音域では、マンドルフスプリームシルバー/ゴールドよりもわずかにはっきりしています。これは、おそらく優れた空間情報と分離を説明しています。Jantzen Audio Silver Z-Capと比較すると、2つのうちでより音楽的であることがわかります。Jantzen Audio Superior Z-Capは、すべての分野で優れた性能を発揮し、非常にバランスの取れたコンデンサを探しているなら、簡単です。

評決：10+



Jantzen Audio Silver Z-Cap 800VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「ダブルフォイルスーパーPPコンデンサ。アルミニウムと亜鉛粒子で金属化された非常に高品質のドイツ製フォイルを備えています。誘電性流体の代わりに窒素が充填され、コンデンサあたりのフォイルが多くなり、蒸発のリスクがなくなります。亜鉛/アルミニウム金属化ポリプロピレン、定格電圧0,10uF-0,33uF：1200VDCまたは600VAC、定格電圧0,47uF-22uF：800VDCまたは425VAC、非誘導構造、端子リードは純銀（直径1 mm）製、コンデンサ許容誤差：+/- 2%、定格電圧：800-1200VDC、損失係数：1K 0.00002 10K 0.00001、無極性コンデンサ」。

サウンド：わずかに安価なSuperior Z-Capよりも透明で、非常に詳細です。時々私の好みには詳細すぎて、Superior Z-Capよりも一貫性が低くなりますが、このcapは、すでにニュートラルの明るい側にあるシステムでのみ問題になります。それらは高音域にいくらか重点を置いています。たとえばクラリティキャップESAよりも文明的です。彼らはいわゆる「ハイエンド」の才能を持っています。客観的に言えば、それらは優れたZキャップよりも優れていますが、よりニュートラルな表現であるため、私は優れたZキャップを好みます。Jantzen Audio Silver Z-Capを「オーディオファン」コンデンサーと呼び、Jantzen Audio SuperiorZ-Capを「ミュージカル」コンデンサーと呼ぶことができると思います。

評決：11-



Jantzen AudioシルバーゴールドZ-Cap250VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「99%の銀と1%の金粒子を含む金属化フォイルを使用した非常に高品質のドイツ製フォイル。端子リードは純銀製。非誘導構造、端子リードは純銀製（1直径mm）、容量許容差：+/- 2%、定格電圧：250~1200V DC、損失係数：1K 0.00002 10K 0.00001、無極性コンデンサ」。

サウンド：Silver Z-Capと同様に、Jantzen Silver Gold Z-capは非常に詳細で、時々私の好みには詳細すぎますが、Silver Z-Capよりも分析性は低いと思いますが、滑らかであるため、聞いてください。彼らはニュートラルののんびりした側に少しあるスピーカーの既存のクロスオーバーをアップグレードするのに向かいます。彼らはそのようなシステムにいくらかの生命とエネルギーを送り込みます。Jantzen Audio自身は、「より高い解像度、より多くのサウンドステージ。多くのダイナミクス。速い反応、ライブ感、自然なサウンド」と述べています。最後のビット、ライブポップミュージック感、ライブクラシック音楽感、そしてナチュラルを除いて同じです。音、いや。しかし、それでも全体的に非常に素晴らしいコンデンサです。

評決：11-

Jantzen Audio Alumen Z-Cap 100VDC-3%の許容誤差

ただし、明るさが少し劣るシステムを好むお客様のために、明るさが少し弱く、トップエンドのバランスが少し自然になります。Alumen Z-Capは、特定のクロスオーバーデザインで、サウンド全体でより「ニュートラル」な表現を提供します。「ニュートラル」とは、Super PPキャップの明るさを強調しすぎる可能性があるものから、フォーカスがシフトすることを意味します。ミッドレンジの深さとツイーターの存在の間のより均一なバランスに置き換えられました。」

サウンド：Jantzen Audioは、このAlumenZ-Capで何をしているのかを知っているようです。彼らは「現代的」に聞こえない現代のコンデンサーを作成しました。これは私が何を意味するかを説明する奇妙な方法かもしれませんが、私にとっては「モダン」と「ヴィンテージ」の両方の長所を組み合わせています。音楽が流れ、スムーズな表現であると同時に、コントラストが高い。Alumen Z-Capは自然な方法で高解像度を備えており、これらの「ハイエンド」コンデンサのいくつかで通常得られるグレアはありません。一方の暖かさともう一方の開放性の間には、決定的なバランスがあります。ト

的に言えば、同様の高品質レベルにあるのは、マンドルフスプリームEVOゴールドオイルの正反対です。マンドルフMキャップスプリームEVOシルバーゴールドオイルは、非常にクリーンで詳細でオープンなサウンドで、コントラストがたくさんあります。非常に深みがあり、細部にまでこだわっています。Jantzen Audio Alumen Z-Capもオープンで、コントラストも豊富ですが、温かみのある色調で仕上げています。マンドルフは状況によってはニュートラルのリーンサイドに少し入ることができますが、ジャンセンはすべての条件下で一貫性を維持します。これらのキャラクターの組み合わせとバランスは的確であり、Jantzen Audio AlumenZ-Capsは素晴らしい臨場感のある音楽を作成します。AlumenZ-CapをJupiterHT BeesWax Paperのような他のアルミオイルコンデンサと比較すると、「モダン」に聞こえない現代のコンデンサの意味がわかります。Jupiter HT Beeswaxは、同様のクリアでオープンなプレゼンテーションを備えていますが、必要に応じて、少し丸みを帯びた柔らかく、より「ヴィンテージ」な表現もしています。直接比較すると、Alumen Z-Capはよりニュートラルです（ご想像のとおり、私の音楽はニュートラルに聞こえるのが好きです）。非常にニュートラルなDuelundRS銅箔と比較して、Duelundはより豊かな倍音を提供しますが、上部の輝きはわずかで、結局、デュエルンドは本当の絶対的な中立性が何であるかをあなたに示します-それを得るためにはもっと多くのお金を使う必要があります。それを考えると、Jantzen Audio Alumen Z-Capは絶対にお買い得です！また、Jantzen Audio AlumenZ-CapはClarityCapCSAおよびCMRと非常によく混ざり合うことがわかりました。どちらのタイプも、AlumenZ-Capとシームレスに融合します。全体的に、CMRとの組み合わせは、広くて深いイメージで、より豊かで広々としています。それはより大きなイメージを描きます。CSAとの組み合わせにより、画像がより前方に投影され、少し明るく聞こえます。CSAを使用したわずかに明るいプレゼンテーションは、場合によっては歓迎されることもありますが、長期間にわたって、AlumenZ-Capを使用したClarityCapCMRのより滑らかなサウンドを好みました。Jantzen Audio AlumenZ-Capをお気に入りリストに追加しました。

評決 : 11,5

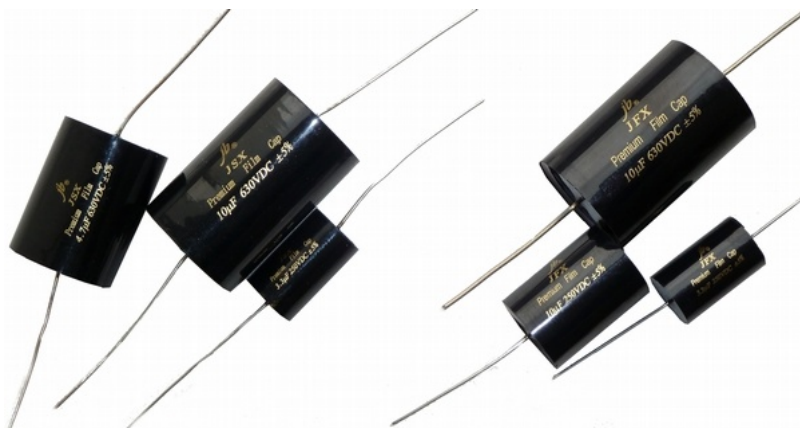


JBコンデンサJFX250VDCおよび630VDC-5%の許容誤差（旧モデル）

技術仕様（メーカーによる）：「ペミウムメタライズドポリプロピレンフィルムコンデンサ;迅速な過渡設計;非常に低い誘電正接;非常に低い誘電正接;非常に低いESR;非常に低いインダクタンス;大電流オーディオパルスの優れた処理;静電容量範囲0,047- 100uF;静電容量許容誤差±3%および±5%@ 1KHz;誘電正接0.002@1KHz;リード錫メッキ純銅。」

サウンド：まず、JBコンデンサーは、JFXコンデンサーのさまざまな値と電圧定格の幅広い選択肢を送ってくれてとても親切でした。これにより、さまざまなスピーカーでコンデンサをテストするのが簡単になり、公差定格も確認できました。私が受け取ったすべてのコンデンサは、5%の許容範囲内で十分に測定されました。彼らはどのように機能しますか？まあ、（彼らが開く必要がある）十分なバーンイン時間の後、彼らは広くてオープンなサウンドステージを提供します。素晴らしくニュートラルですが、署名は少し前向きでフラットにすることができます。場合によっては、「フラット」なサウンドがうまく機能することがあります。たとえば、物事を飼いならしただけの場合や、古い電解質やMKTを交換していて、トーンバランスをあまりシフトしたくない場合です。そうでないものの1つ 最初は印象的ですが、しばらくするとある種の成長が見られます。パラレルウーファーセクションで使用する場合や、それほど重要ではないミッドレンジ直列コンデンサとして使用する場合にも問題ありません。しかし、ツイーターの直接信号経路で何かを探している場合は、他の場所を探すことをお勧めします。同様の範囲では、たとえば、JSXタイプはよりオープンで明確であり、特に高電圧タイプです。テスト中に、JBコンデンサJFXは、数年前にテストしたErse Pulse-Xの多くを実際に思い出させたので、Erseを再度取り出して、同じテストループに接続しました。それらは非常に似ているように見えるので、正直なところ、私がJBコンデンサJFXを聴いているのか、ErsePulse-Xを聴いているのかわかりませんでした。大規模なパロック合唱団のようなJFXのものが混乱しているため、プログラムの資料が複雑になったときに、それらは明確な概要を維持していないようです。また、真ちゅうはそのような管楽器に非常に典型的なその輝きを逃しました。Axon True Cap、Intertechnik Audyn Cap QS、ErsePulse-XなどのコンデンサのリストにJBコンデンサJFXを追加したいと思います。価格/品質比は非常に優れています。あなたが素敵な、しかしそれほど高価ではないMKPを探しているなら、私はこのコンデンサを強くお勧めします。

評決 : 6,5

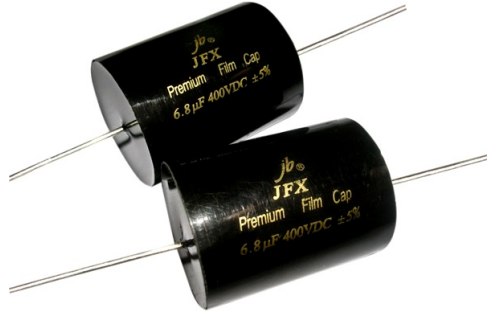


JBコンデンサJFXプレミアム250VDCおよび630VDC-3%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「パッシブ可燃性GB10191-88 IEC384-16;動作温度-55°C~ + 85°C;静電容量範囲0,047-100uF;静電容量許容差±3% (I) /±5% (J) @ 1KHz;誘電正接= 0,002 @ 1KHz;錫メッキされた純銅をリードします。」

サウンド：サウンド：JBコンデンサJFXプレミアムは、この価格帯の他の標準MKPと比較すると、かなり整理されたサウンドです。すべての基本的なMKPと同様に、複雑なプログラム材料が供給されると、少し混乱する可能性があります。特定の整頓が行われているため、開始する前にさらに進んでいます。JFXプレミアムは、適度にバランスが取れており、ニュートラルでポジティブです。何も突き出していない方法。あなたが非常に公正な価格で基本的なMKPを探しているなら、JBコンデンサJFXプレミアムは良い候補です。

評決：7



JBコンデンサJLX100VDC-3%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「JLX-高級アルミホイルおよびフィルム金属化ポリプロピレンコンデンサ-アキシアル。最高級の純アルミホイルコンデンサ;高精度容量±3%;非常に低い誘電吸収係数;非常に低い散逸係数;非常に低い低ESR、非常に低いインダクタンス、リード径1.0錫メッキ銅線、容量範囲1~10uF、最新のハイエンドツイーターおよびミッドレンジドライバー用に特別に設計された豪華なコンデンサー。」

サウンド：JBコンデンサJLXの物理的なサイズと形状は、Jantzen Audio Alumen Z-Cap100VDCおよびCicadaPure Aluminium Foil100VDCと非常によく似ています。JLXのトップエンドは明確で、Alumen Z-Capよりも詳細ですが、滑らかさが劣ります。ミョウバンのより滑らかな性質は、直接のAB比較でそれをより親密に聞こえさせます。さらに、ミョウバンはより良い深さ、イメージング、そしてわずかに豊かなトーンを持っていました。蟬の純粋なアルミホイルと比較して、JLXアルミホイルと金属化ポリプロピレンははるかに開放的で透明であり、閉鎖性が低いように聞こえます。マンドルフの厩舎とは異なる種類のコンデンサーを使用すると、Supreme ClassicはJLXよりも成熟度が低くなりますが、トップエンドでは同様の明瞭さがあります。JLXを使用したボーカルはより豊かで、SupremeClassicのサウンドを少し前向きにします。あなたの顔にもう少し。マンドルフのEVO範囲から、SupremeEVOオイルもJLXと比較して少し概要が欠けています。しかし、マンドルフのスケールをSupreme EVOシルバーゴールドオイルに上げると、はるかに優れた残響情報が得られ、より低レベルの詳細が蓄積されます。これにより、Supreme EVOシルバーゴールドオイルは、JLXが混乱しがちな複雑なオーケストラ音楽の概要を維持します。直接比較すると、JLXはかなり当たり障りのないように聞こえます。全体として、私が試したJBコンデンサからは、JLXがこれまでで最高のコンデンサであることがわかりました。おそらく、高級なマンドルフやJantzenAudioのアルミホイルAlumenZ-Capとはまったく同じレベルではありませんが、それでも適度に中性で非常に使いやすいコンデンサです。しかし、マンドルフのスケールをSupreme EVOシルバーゴールドオイルに上げると、はるかに優れた残響情報が得られ、より低レベルの詳細が蓄積されます。これにより、Supreme EVOシルバーゴールドオイルは、JLXが混乱しがちな複雑なオーケストラ音楽の概要を維持します。直接比較すると、JLXはかなり当たり障りのないように聞こえます。全体として、私が試したJBコンデンサからは、JLXがこれまでで最高のコンデンサであることがわかりました。おそらく、高級なマンドルフやJantzenAudioのアルミホイルAlumenZ-Capとはまったく同じレベルではありませんが、それでも適度に中性で非常に使いやすいコンデンサです。直接比較すると、JLXはかなり当たり障りのないように聞こえます。全体として、私が試したJBコンデンサからは、JLXがこれまでで最高のコンデンサであることがわかりました。おそらく、高級なマンドルフやJantzenAudioのアルミホイルAlumenZ-Capとはまったく同じレベルではありませんが、それでも適度に中性で非常に使いやすいコンデンサです。

評決：11



JBコンデンサJSX250VDCおよび630VDC-5%の許容誤差（旧モデル）

技術仕様（メーカーによる）：「パッシブ可燃性GB10191-88 IEC384-16;動作温度-55°C ~ + 85°C;静電容量範囲0,1-100uF;静電容量許容誤差±3% (I) /±5% (J) @ 1KHz;誘電正接= 0,001 @ 1KHz;銀メッキ銅線をリードします。」

サウンド：まず、JBコンデンサーは、JSXコンデンサーのさまざまな値と電圧定格の幅広い選択肢を送ってくれてとても親切でした。これにより、さまざまなスピーカーでコンデンサをテストするのが簡単になり、公差定格も確認できました。私が受け取ったすべてのコンデンサは、定格5%の許容範囲内で十分に測定されました。サウンド的には、JSXはJFXと同じファミリーであると聞くことができますが、私はJFXよりもJSXの方が好きです。なぜなら、それらはよりクリアで（特に高電圧タイプ）、混乱が少なく、音楽コンテンツを追跡しやすいからです。私のお気に入りの低コストコンデンサの1つであるマンドルフEVOオイルと比較すると、JBコンデンサJSXにはまだある程度の明瞭さが欠けており、少し前向きに聞こえることは明らかです。マンドルフEVOオイルはとにかくトップエンドの部分を強調します、したがって、その比較は完全に公平ではないかもしれません。しかし一方で、トップエンドの透明度に関して、両方のコンデンサがニュートラルのどちら側にあるかを説明しています。EVOオイルがはるかに優れているのは、空間情報を再現することです。画像はJSXではある程度の奥行きがありませんが、JFXほどではありません。JBコンデンサを他の格安航空会社と比較すると、Jantzen Audio CrossCapまたはJantzenAudio StandardZ-Capに最も近いと言えます。それらをObbligatoアルミホイルMKPと比較すると、高品位タイプと比較した場合、どちらも少し前向きに聞こえるという点で類似点がありますが、少なくともObbligatoアルミホイルMKPはよりオープンな色調バランスを示しています。これらの基本的な品質の多くと同様に、MKPのJBコンデンサJSXは洗練されていませんが、全体的な色調バランスはかなりニュートラルです。価格/品質比はとても良いです。あなたが素敵で、しかしそれほど高価ではないMKPを探しているなら、私はこのコンデンサを強くお勧めします。優れた全体的な品質と標準のJFXからのアップグレード。

評決：7,5

JBコンデンサJSXスーパーリア250VDCおよび630VDC-3%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「パッシブ可燃性GB10191-88 IEC384-16;動作温度-55°C + 85°C;静電容量範囲0,1-100uF;静電容量許容誤差±3% (I) /±5% (J) 1KHz;誘電正接= 0,001 @ 1KHz;銀メッキ銅線をリードします。」

サウンド：白いJBコンデンサーJSXスーパーリアは、古い黒のJSXタイプと特徴が似ていますが、明瞭さが増し、少しオープンなサウンドになっています。これは、ジャズトリオやその他の小さなアンサンブルの録音で特に効果的であり、詳細を簡単に見つけることができます。クラリティキャップSAとESAは、より多くの画像の深さとより豊かな倍音を提供し、マンドルフEVOオイルは、ノートの前縁をよりシャープにしますが、これらのコンデンサはより高い価格帯にあることを述べておく必要があります。ここで私たちが見ている音質の範囲についてのアイデアを提供するだけです。個人的には、JFX Premiumの方が少し表現力があり、一貫性があるのが好きですが、よりクリーンなプレゼンテーションを探している場合は、JSXSuperiorがうまく機能すると想像できます。

評決：7+



ジュピターコンデンサー-HT蜜蝋紙600VDC-5%の公差

技術仕様（メーカーによる）：「古いコンセプトの新技術-古い音と新しい音の洗練されたユニークなブレンド。新しい高温シリーズが元の蜜蝋/紙のデザインに取って代わります。木星コンデンサーHTコンデンサーラインは強化蜜蝋紙を備えています誘電体および（さらに改良された含浸技術を備えた）は、非ドリップ/メルトケーシングに入れられ、より高い動作温度に耐えることができます。自然な音が要求されるDIYおよびOEMの使用に最適です。動作温度：70°C;電圧：600VDC-テスト済み1200VDCで2段階の製造、アルミニウム箔、シルバーリード線20AWG、極低温処理、米国製の米国材料。」

サウンド：Jupiter HT BeesWax Paperは非常に広々としていて、調和のとれた質感が豊富であることがわかりました。それらは明確でオープンですが、どの領域にも決して強調されすぎていません。AmpOhmアルミホイルタイプと比較して、木星はより多くの空気を持っており、AmpOhmがより前後に投影するにつれて、より広い画像を生成します。それでも、デュエルンドVSFほどニュートラルでコヒーレントなサウンドではありませんが、最

高級のマンドルフと同じ高品質レベルです。彼らはマッチする豊かなミッドレンジを備えた素敵な肉質の高音域を持っています。それらはすべての条件下でうまく機能し、好みがないようです。私は彼らが聞くのをとても喜んでと思います。

評決 : 11,5



ジュピターコンデンサーフラットスタックミツロウクライオコンデンサ100VDC / 300VDC / 400VDC-5%の許容誤差

より高い絶縁抵抗をもたらし、より高い動作温度を可能にする、誘電特性を強化する新しい独自の手段が開発され、採用されました。ワックスと紙の構造により、静電的および機械的なリングのない、非常によく機械的に減衰されたコンデンサが得られます。公差±5%標準; 定格電圧100VDC (VTタイプ) 300VDCおよび400VDC (HTタイプ); 直径1mmの純銀リードアウト。最高気温+ 70°C; 蜜蝋含浸紙誘電体; アルミホイル電極材料; 極低温処理。」公差±5%標準; 定格電圧100VDC (VTタイプ) 300VDCおよび400VDC (HTタイプ); 直径1mmの純銀リードアウト。最高気温+ 70°C; 蜜蝋含浸紙誘電体; アルミホイル電極材料; 極低温処理。」公差±5%標準; 定格電圧100VDC (VTタイプ) 300VDCおよび400VDC (HTタイプ); 直径1mmの純銀リードアウト。最高気温+ 70°C; 蜜蝋含浸紙誘電体; アルミホイル電極材料; 極低温処理。」

サウンド : Jupiter Flat Stackedコンデンサーは、非常に広々としていて、肉厚の高音と豊かなハーモニックテクスチャーを備えているという点で、HT BeesWax Paperタイプとサウンドが似ています。HT BeesWax Paperタイプと比較すると、フラットスタックコンデンサは実際にはさらに肉厚で親密であり、直接ABと比較すると、HTBeesWaxは少し前向きに聞こえます。Flat Stackedは、Rike Audio S-Capよりも暖かく、質感が豊かですが、プレゼンテーションが少しゆったりとしていて、好みに応じて少しロマンチックなサウンドになりますが、逆に「遅い」とは言えません。Rike Audio S-Capは、木星よりも少しダイナミックでオープンに見えますが、「あなたの顔の中に」あります。FlatStackedをJantzenAudio Superior Z-Capと比較すると、Flat Stackedでより豊かでカラフルな画像が得られます。特に、倍音の倍音がテクスチャーに対してより多くのレイヤーを持ち、物事をより説得力のあるものにするソロピアノのようなものを聴くときに顕著です。Jupiterは、あるタイプを別のタイプよりも優先することなく、すべてのタイプの音楽を使用することがわかりました。これは私の意見では良いことです。また、より高い電圧タイプは、少し広範に聞こえるかもしれませんが、直接のAB比較では注目に値します。全体的にとってもいいです！もう1つのプラスポイント：紙ベースのコンデンサの許容誤差は比較的小さいため、通常、このタイプのコンデンサでは許容誤差が大きくなります。倍音の倍音がテクスチャーに対してより多くのレイヤーを持ち、物事をより説得力のあるものにするソロピアノのようなものを聴くときに特に顕著です。Jupiterは、あるタイプを別のタイプよりも優先することなく、すべてのタイプの音楽を使用することがわかりました。これは私の意見では良いことです。また、より高い電圧タイプは、少し広範に聞こえるかもしれませんが、直接のAB比較では注目に値します。全体的にとってもいいです！もう1つのプラスポイント：紙ベースのコンデンサの許容誤差は比較的小さいため、通常、このタイプのコンデンサでは許容誤差が大きくなります。しかし、直接のAB比較では注目に値します。全体的にとってもいいです！もう1つのプラスポイント：紙ベースのコンデンサの許容誤差は比較的小さいため、通常、このタイプのコンデンサでは許容誤差が大きくなります。しかし、直接のAB比較では注目に値します。全体的にとってもいいです！もう1つのプラスポイント：紙ベースのコンデンサの許容誤差は比較的小さいため、通常、このタイプのコンデンサでは許容誤差が大きくなります。

評決 : 12



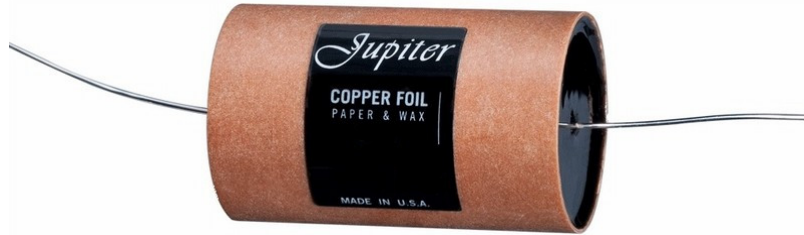
ジュピターコンデンサー銅箔紙とワックス100VDC-5%の公差

技術仕様（メーカーによる）：「公差+/- 5%;動作温度：80°C;電圧：100VDC;誘電体：紙およびワックス純銅箔CDA-101無酸素、純度99.99%;銀4Nワイヤーリード20AWG ; RoHS準拠; Made in USA "

サウンド : Jupiter Copper-Foil Paper & Waxは、コンデンサーに必要なものがすべて揃っているようです。一貫性のある有機的な表現、ディテールと滑らかさが密接に関連し、適切に制御され、焦点が合った画像、豊かで透明な倍音、それらはすべてそこにあります。画像は静かな背景に対して作成されているため、録音場所の検索が良好で、広々としたサウンドになります。たとえば、ジョルディ・サバルの「Esprit d'Armenie」のマルチチャンネル

ル録音では、目を閉じると、ミュージシャンがわずか数メートル離れた古い教会の建物に座っているかのように見えます。アコースティック楽器の質感と音色はとてモリアルに見えます。木星を他の高品質コンデンサと比較して、マンドルフスプリームシルバーゴールドオイルと同じくらいの細かいディテールが得られますが、重量と一貫性が増します。木星の最高の透明度もそれに一定の豊かさを持っています。有機的なテクスチャーと滑らかさはデュエルンドRSのものに似ていますが、トップオクターブに少し「輝き」があります。絶対的な支配者のフラットな中立性にできるだけ近づきたいのであれば、DuelundRSがあなたのお気に入りになるとおもいます。上部の空気を少し増やしたい場合は、Jupiter Copper-Foil Paper & Waxが真剣な代替手段です。個人的な好みの問題だと思えます。別の銅箔コンデンサーであるRikeAudio Q-Capに切り替えると、ソロピアノで特に目立つボディが増えます。しかし、Q-Capはそうではありません。木星をとても説得力があり愛らしいものにするのと同じ青々とした親密な性格を持っています。木星をデュエルンドCAST-Cuと比較すると、背景が少し黒く、CAST-Cuの方が少し「そこにいる」効果があることがわかりましたが、木星はデュエルンドよりも風通しが良いように見えました。とにかく、Jupiter Copper Foil Paper & Waxは私のお気に入りのコンデンサーの1つです！

評決：13,5



ジュピターコンデンサー銅箔紙とワックス/0.01uF / 600VDCバイパス-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「公差.001uf - .047uf +/- 10%、.1uf - 4.7uf +/- 5%;動作温度：80°C;電圧：600VDC - 1200VDCでテスト済み;誘電体：紙&ワックス;純銅箔- CDA-101無酸素、純度99.99%;銀4Nワイヤーリード20AWG; RoHS準拠; Made in USA "

サウンド：スピーカーのクロスオーバーでバイパスコンデンサとして使用されるJupiter Copper-Foil Paper & Waxは、暖かさとディテールのバランスが取れており、全体的に非常に心地よいサウンドを生み出します。私はそれらを差し込んでそこに置いたままにしておく、聞き取りやすいことに気づきました。木星とデュエルンドバイパスタイプを比較すると、デュエルンドの方が背景が黒く、「そこにいる」効果が強いことがわかりましたが、木星のコストは約半分なので、非常によくできています。低価格のCornellDubilier 940C / 0,01uF / 3000VDCと比較して、木星はより自然な倍音でより成熟した音になります。

評決：高品質の銅箔バイパスコンデンサの世界への非常に手頃なチケット！

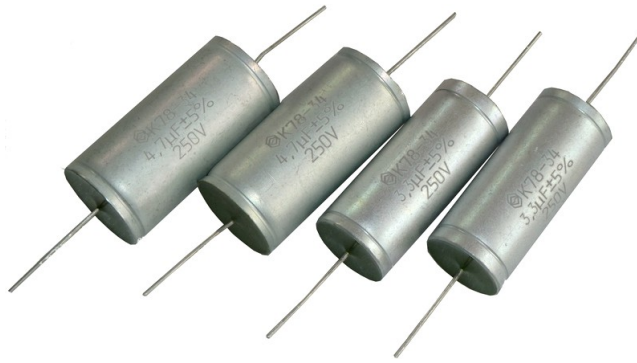


KZK K78-34 250VAC / 375VDC-5%の許容誤差

当社独自の電気的および熱処理により、コンデンサの非常に安定したパラメータを取得でき、高次高調波の過酷さを伴わずに自然な楽音を得ることができます。技術仕様：250Vdc、400Vdc、630Vdc、1000Vdcの定格で利用可能。静電容量範囲0.01~100µF; 静電容量許容誤差±5%; 誘電正接が0.002未満; 動作温度範囲-60°C~ +85°C; 100.000MOを超える絶縁抵抗。平均余命219.000時間; ケース材質：アルミチューブ」平均余命219.000時間; ケース材質：アルミチューブ」

サウンド：KZK K78-34は、フルボディで少し暖かみのあるサウンドのコンデンサーで、トップエンドは非常に滑らかです。音色のバランスは、高音域の下部に少し注意を払うため、たとえばマンドルフコンデンサーほど詳細ではありませんが、長時間のリスニングセッションで非常に心地よい親密なキャラクターになります。滑らかなトップエンドは、ニュートラルの少し暗い側にある穏やかで自然な表現を提供します。現実のチェックとして、私はK78-34を絶対定規フラット（そしてはるかに高価な）DuelundRS-Cuと比較しました。Duelundは、ABの直接比較で、トップエンドでよりオープンで、全体的にバランスが取れているように聞こえました。K78-34をIntertechnikAudynQ4やSolenFast Cap PB-MKP-FCなどの標準品質のMKPと比較して、スケールのもう一方の端に切り替えます。K78-34のプレゼンテーションがいかに素晴らしくフルボディで豊かであるかに気づきます。複雑なオーケストラ作品や大規模な合唱曲では少し泥だらけになることがありますが、それはニュートラルの少し暗い側にあるためだと思えます。サウンドステージはスピーカーの少し前に配置されており、全体的なサウンドが非常に親密になっています。サウンドステージを少し後ろに配置する傾向があるさまざまなマンドルフコンデンサとは対照的です。K78-34の上端に輪郭が描かれた詳細の山がないことは、非常に便利な場合があります。たとえば、システムがニュートラルのホットサイドにある場合、K78-34はすべてをうまくバランスに戻す必要があります。複雑なオーケストラ作品や大規模な合唱曲では少し泥だらけになることがありますが、それはニュートラルの少し暗い側にあるためだと思えます。サウンドステージはスピーカーの少し前に配置されており、全体的なサウンドが非常に親密になっています。サウンドステージを少し後ろに配置する傾向があるさまざまなマンドルフコンデンサとは対照的です。K78-34の上端に輪郭が描かれた詳細の山がないことは、非常に便利な場合があります。たとえば、システムがニュートラルのホットサイドにある場合、K78-34はすべてをうまくバランスに戻す必要があります。。

評決：8,5



LCRコンデンサFSC管状フォイルポリスチレン0.01uF160Vdc-2,5%公差

技術仕様（メーカーによる）：「ポリスチレンは、非常に高い絶縁抵抗と低損失を備えた優れた誘電体材料です。アルミニウム箔電極を使用し、端子線を溶接して、低電圧および高周波で十分な性能を確保します。低温係数。容量許容誤差が小さい。容量安定性が非常に高い。電力係数が低い。絶縁抵抗が高い。物理サイズが小さい。これらは、IFトランス、調整回路、パルスネットワーク、実験室標準、タイミング回路、アナログおよびデジタルコンピューティング回路などでの使用が推奨されます。優れた品質が有利に使用されるアプリケーション。マーキング：可能な限り、容量許容誤差と動作電圧は、黒いデジタル文字で明確に示されます。ただし、小さなコンポーネントでは、許容誤差のために文字コードが使用されます。」

サウンド：Vishay MKP1837のように、小さな並列コンデンサとして使用すると、実際に問題が解決します。それらはほとんどのコンデンサから粒子の粗いエッジを取り除きます。それらは明瞭さと詳細を増し、楽器を互いによりよく分離できるようにします。オーケストラのヴァイオリンは、1つの塊ではなく、個々のヴァイオリンのグループです。彼らは消えることをしません-VishayMKP1837と同じように行動しますが、彼らは近づきます。また、ペーパーインオイルタイプなどの「アナログ」サウンドコンデンサとよく一致し、スペクトルの上端での明瞭度が向上することもわかりました。

評決：詳細なサウンドのバイパスコンデンサを探している場合は、VishayMKP1837の代替品。これらは注意して実装する必要があります。スピーカーのクロスオーバー全体で使用すると、トーンバランスが少し明るい側に傾く可能性があります。



ルクランシエPPMKP 250VDC-5%の許容誤差

技術仕様：産業用アプリケーションコンデンサ。記載されている許容誤差は+/- 5%であることが意図されていますが、私はそれらすべてを測定し、それらはすべて記載された静電容量にスポットオンでした。

サウンド：Mundorf M-CAPに似ていますが、ミッドレンジに至るまで詳細があります。心地よい開放感と滑らかさ。油中のASCMKPよりも深さが浅い。私はこれらがとても好きです！

評決：7,5

Lefson C-MOD SPK 200VDC- ?%許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：Lefson C-MOD SPKは、高電流および高レベル信号用の高性能オーディオカップリングモジュールです。オーディオカップリングシステムの観点から注意深く設計されているため、「コンデンサ」ではなく「カップリングモジュール」と名付けられています。非常に低損失の操作は、その最高の機能の1つであり、これは当社の「ワイヤーライク」テクノロジーです。LEFSON C-MOD SPKは、大電流および高レベルのAC信号（電力増幅、スピーカー）を処理するように特別に設計されており、スピーカーのクロスオーバーフィルターでオーディオコンデンサーが必要な場合に最適なソリューションです。すべてのC-MOD製品と同様に、フランスのワークショップで完全に手作りされています。構成に完全に一致するように、ワイヤの長さでLefson C-MODSPKの静電容量値をカスタマイズできます。Lefson C-MODSPKの主な機能は次のとおりです。無極性容量性モジュール；非常に低い損失。カスタム容量値；銀メッキ銅線；スピーカーのクロスオーバーに適しています。Lefson C-MODは、20時間のバーンイン時間で販売されています。最適な結果を得るには、少なくとも80時間は音声信号で焼き付ける必要があります。」

サウンド：Lefson C-MON SPKは、ラフなエッジのない、クリアでニュートラルで具体的なミッドレンジで音楽に流れをもたらします。このクリアで滑らかな音色は、シルバーフォイルコンデンサーで得られるものと似ています。鉢植えのエンクロージャー内に小さなシルバーフォイルバイパスコンデンサーがミックスに追加されていても、私は驚かないでしょう。しかし、それは単なる憶測です。C-MOD SPKは、銅箔コンデンサーのような素晴らしく豊かな有機品質を備えていませんが、中毒性のある「シースルー」の性質でポイントを獲得します。Jantzen Audio Alumen Z-Capと比較すると、Jantzenのコントラストは高くなりますが、Lefsonは画像をより成熟した方法で表示します。レフソンが生み出す透明度の量は、マンドルフスプリームEVOシルバーゴールドオイルのそれと似ていますが、エッジがないため、耳に心地よくなります。ソロピアノ音楽は明確に定義されており、ミドルより上ではリアルにダイナミックです。マンドルフは、金管楽器のような音を素晴らしく光沢のあるものにするために、最上部にもう少し重点を置いています。Lefson C-MOD SPKは何も強調せず、（ABの直接比較では）低音域で少し前向きに聞こえるので、よりスムーズになり、長期間のリスニングセッションに適しています。長期間のリスニングは、Jupiter BeesWax HTが非常に適しているものです。レフソンとそのコンデンサーを比較すると、BeesWaxHTはC-MODSPKよりも親密で暖かいことがわかります。ABの直接比較では、レフソンは木星よりも少し平らで液体が少ないように聞こえますが、一方、レフソンには、前述したこの「シースルー」の性質があります。しかし、すべてが相対的です、BeesWax HTは、特定の状況ではレフソンよりも親密である可能性があります。次に、レフソンはマンドルフスプリームシルバーゴールドオイルよりも親密であることがわかりました。特にポーカーが目立ちます。たとえば、ダイアナ・クラールがアルバム「フロム・ディス・モーメント・オン」で「デイ・イン、デイ・アウト」を歌っているのは、レフソンと一緒に私のリスニングルームにいました。私のリスニングノートには、個々の合唱団のメンバーの良好な分離と、コンサートホールの音響と残響が簡単に区別できることも記載されていました。ビッグバンド音楽や大規模な交響楽団に非常に適しています。滑らかで、ニュートラルで、詳細であると同時に、私はこれらがとても好きです！

評決 : 12.5



Miflex MKP-10 600VDC-2%の許容誤差

コンデンサはさらに、電流振幅と周波数が22kHzに増加したパルスを使用した独自のテストを含む、一連の特定のテストと測定にかけられます。MKP-10コンデンサは、気候カテゴリーの温度範囲内のDCおよびAC回路で使用できます。DC電圧値またはAC電圧振幅は、指定された定格電圧を超えてはなりません。」

サウンド：ニュートラルでコヒーレントですが、前方にわずかにミッドレンジがあり、より「ゆったりとした」コンデンサよりも主観的に大きく聞こえます。その点で、彼らは私にIntertechnik Audyn Cap Plusを少し思い出させますが、全体的に私はAudyn CapPlusを高く評価しています。楽しみのために、MiflexMKP-10とWimaMKP-10を比較して、両方のタイプ番号が同じであることを確認しました。Miflexは、Wimaと直接比較すると少し混雑しているように聞こえました。次に、すべてのクラリティキャップと比較すると、クラリティキャップPXまたはSAとほぼ同じレベルですが、クラリティキャップから得られる暖かきのヒントはありません。それが良いことか悪いことかはあなた次第ですが、個人的にはクラリティキャップを好みました。そして物事を見通しに入れるために：クラリティキャップCSAはより親密で、少しトップエンドのディテールがあり、より高い範囲のクラリティキャップCMRははるかに広々としていました。MiflexMKP-10をIntertechnikAudyn Cap MKP-QSと比較すると、Miflexにはミッドレンジの前向ききのヒントがまだありましたが、少し豊かに聞こえるという点でMiflexが有利であることがわかりました。この前向ききは、MKP-10のわずかにロールオフされた上端にも部分的に関係していると思います。これにより、品質の低い録音が顔に少し聞こえることがあります。しかし、スピーカーを声に出すときにMiflex MKP-10の特性を考慮に入れると、それらは優れた代替手段になる可能性があります。Miflexにはまだミッドレンジの前向ききのヒントがありましたが、この前向ききは、MKP-10のわずかにロールオフされた上端にも部分的に関係していると思います。これにより、品質の低い録音が顔に少し聞こえることがあります。しかし、スピーカーを声に出すときにMiflex MKP-10の特性を考慮に入れると、それらは優れた代替手段になる可能性があります。Miflexにはまだミッドレンジの前向ききのヒントがありましたが、この前向ききは、MKP-10のわずかにロールオフされた上端にも部分的に関係していると思います。これにより、品質の低い録音が顔に少し聞こえることがあります。しかし、スピーカーを声に出すときにMiflex MKP-10の特性を考慮に入れると、それらは優れた代替手段になる可能性があります。」

評決 : 8-



Miflex KPCU-01 600VDC-5%の許容誤差

インダクタンスと抵抗により、特定のオーディオシステムの音質が向上します。コンデンサは、電流振幅と周波数が22kHzに増加したパルスを使用した独自のテストを含む、一連の特定のテストと測定にかけられます。KPCU-01コンデンサは、ダイマチックカテゴリーの温度範囲内のDCおよびAC回路で使用できます。DC電圧値またはAC電圧振幅は、指定された定格電圧を超えてはなりません。」

サウンド：Miflex KPCU-01は、有機的な方法で音楽に質感をもたらします。時には、プレゼンテーションは非常に具体的なものになる可能性があります。たとえば、Garry WillisのアルバムRetroでは、5弦ベースを張り直したようです。楽器の倍音がより明確になり、ベースラインがわかりやすくなります。これは、トップエンドを人為的に強調することによって行われるのではなく、より「適切」です。長期のリスニングセッションは非常に喜ばしいことであり、それは音について人工的なものは何も示していません-それどころか。しばらくすると、音が大きくなります。KPCU-01を他のフィルムコンデンサと比較すると、Duelund CASTCuとCASTCu-Sn、およびJupiter Copper Foil Paper&Waxよりも前向きなサウンドであることがわかりました。直接比較すると、KPCU-01はトップエンドの透明度が少し劣りますが、トーンが豊富で、滑らかで一貫性があります。Jupiter Copper Foil Paper&Waxを使用すると、音楽はより「完全」に聞こえるように見えました。MiflexKPCU-01とDuelundRS-Cuの間のAB切り替えにより、RS-Cuは2つのより定規のフラットニュートラルであることが明らかになりましたが、KPCU-01は非常に説得力のある倍音を出しました。一方、Jantzen Audio Alumen Z-Capと比較すると、Miflexを使用すると、より多くの流れと空気により豊かなトーンが得られます。別の例：マンドルフス プリムクラシックシルバークラシックシルバーゴールドオイルは、直接ABと比較すると、Miflexよりもボディが少なく、自然な色調パレットが少ないように聞こえます。」

とても素敵なコンデンサー、KPCU-01。ワックス音楽はもっと「完全」に聞こえたようです。MiflexKPCU-01とDuelundRS-Cuの間のAB切り替えにより、RS-Cuは2つのより定規のフラットニュートラルであることが明らかになりましたが、KPCU-01は非常に説得力のある倍音を出しました。一方、Jantzen Audio Alumen Z-Capと比較すると、Miflexを使用すると、より多くの流れと空気により豊かなトーンが得られます。別の例：マンドルフスプリームクラシックシルバーゴールドオイルは、直接ABと比較すると、Miflexよりもボディが少なく、自然な色調パレットが少ないように聞こえます。とても素敵なコンデンサー、KPCU-01。ワックス音楽はもっと「完全」に聞こえたようです。MiflexKPCU-01とDuelundRS-Cuの間のAB切り替えにより、RS-Cuは2つのより定規のフラットニュートラルであることが明らかになりましたが、KPCU-01は非常に説得力のある倍音を出しました。一方、Jantzen Audio Alumen Z-Capと比較すると、Miflexを使用すると、より多くの流れと空気により豊かなトーンが得られます。別の例：マンドルフスプリームクラシックシルバーゴールドオイルは、直接ABと比較すると、Miflexよりもボディが少なく、自然な色調パレットが少ないように聞こえます。とても素敵なコンデンサー、KPCU-01。Jantzen Audio Alumen Z-Capと比較すると、Miflexを使用すると、より多くの流れと空気により豊かなトーンが得られます。別の例：マンドルフスプリームクラシックシルバーゴールドオイルは、直接ABと比較すると、Miflexよりもボディが少なく、自然な色調パレットが少ないように聞こえます。とても素敵なコンデンサー、KPCU-01。Jantzen Audio Alumen Z-Capと比較すると、Miflexを使用すると、より多くの流れと空気により豊かなトーンが得られます。別の例：マンドルフスプリームクラシックシルバーゴールドオイルは、直接ABと比較すると、Miflexよりもボディが少なく、自然な色調パレットが少ないように聞こえます。とても素敵なコンデンサー、KPCU-01。

評決：13歳以上



Monacor MKPA 250VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「ハイエンドクロスオーバーネットワーク用の最高品質のコンデンサ、金属化ポリプロピレンフィルム、超低損失係数、耐老化性、軸方向設計」。

サウンド：Monacor MKPAは、Solen Silver Soundを少し思い出させますが、それほど洗練されていません。Solen PPE-MKP-FCと比較して、私は実際には少し滑らかであるためにMonacorを好みます。SolenPPE-MKP-FCピアノは時々少し硬く聞こえることがあります。モナコールにはこの「問題」はありません。全体として、モナコールは優れた汎用コンデンサであると言えます。

評決：7+



Mundorf MCap MKP 250VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「MCapはオーディオファンの金属化ポリプロピレンコンデンサです。使用する材料の選択では、音響特性に特別な注意が払われました。実質的に誘導のないタイプの構造とMCapの低損失係数MCapは、ニュアンスに富んだ鮮やかな音楽再生の基盤を形成します。オーディオファンのMKPコンデンサーのMCapシリーズは、不足による音響品質の低下を回避するために、完全な250VDCラインナップによって拡張されました。スペースの不足または予算の引き締め。」

サウンド：Mundorf MCap 250VDCは、私が最初にテストした400VDCタイプとまったく同じトーンバランスを持っています。唯一の違いは、VDC定格の高いMCapと比較して、細部と画像サイズが非常に少ないことです。

評決：7-



Mundorf MCap MKP 400VDC-3%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「マンドルフMCapは、高品質の金属化ポリプロピレンコンデンサです。製造時に細心の注意を払うことで、一定の高品質と最小の電気的および機械的公差を保証することを目的としています。したがって、最終検査では、1.5%の容量が測定されているため、3%の保証値をはるかに超えています。実質的に誘導のないタイプの構造とMCapの低損失係数により、非常に「迅速な」コンデンサが得られます。Audiodata、Sonus Faber、LumenWhiteなど多くの人が使用しています。

サウンド：MundorfMCapはIntertechnikMKPQSよりも少し優れていると思います。極端なことは何もありませんが、特にフィルター内のすべてのコンデンサーがMCapの場合は目立ちます。Audyn Cap MKP-QSよりも少し活気があり、スペーリングが優れており、ミッドレンジの開放性がわずかに高くなっています。

評決：7

Mundorf MCap MKP 630VDC-3%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「マンドルフMCapは、高品質の金属化ポリプロピレンコンデンサです。製造時に細心の注意を払うことで、一定の高品質と最小の電気的および機械的公差を保証することを目的としています。したがって、最終検査では、1.5%のコンデンサが測定されているため、3%の保証値をはるかに超えています。」私はそれらが1%以内の精度であることがわかりました。

サウンド：Mundorf MCapは、3つの異なるVDC定格（250/400 / 630VDC）で利用できます。VDCレーティングが上がると、個々の楽器（たとえば、大量のバイオリン）の分離と見なすほど、画像サイズが深くなり、細部の量も増えます。違いは非常に小さく、音のバランスにまったく変化はなく、すべて同じ性質を持っています。一部の種類の音楽では、まったく違いが聞こえませんでした。高品質のシステムで高品質の録音を行うと、相対的な違いが聞こえました。衝撃的なことは何もありませんが、ほとんどの場合、目立ちます。また、これらの相対的な違いは、ABが3つを切り替えたときにのみ区別できました。つまり、250VDCタイプを聞いていて、「

評決：7+

Mundorf MCap RXF MKP 600VDC-3%の許容誤差

ケーシング内の巻線の追加のグラウトは、コンデンサにマイクロフォニック効果からの持続的な保護を提供し、さらに巻線の振動を防ぎます。これはすべて、エネルギーの損失とトーンの歪みを最小限に抑えることを目的としています。MCap RXFは、驚くほど自然で音色の活気と音楽サウンドの透明なニュアンスのあるダイナミクスで、最初の段階でその魅力を納得させます。これにより、すべてのコンデンサに適切な音楽ベンチマークが設定されます。コストの理由から高価なSupreme巻線技術。」

サウンド：標準のMCapと比較して、よりクリーンで透明性が高くなっています。MCapは、もう少しミッドレンジに焦点を当てています。RXFは、エッジの効いたものではなく、きちんと詳細に描かれています。RXFは、他の部分よりもトップエンドに注意を引く傾向があります。このトップエンドの焦点は、周囲情報の取得と残響に関するポイントを収集します。しかし、私は下の高音域が少し「あなたの顔に」、いくらかの洗練を欠いているのを見つけます。それらは時間とともに良くなりますが、わずかなまぶしさは残ります。Supremeは空間情報が似ていますが、はるかに洗練されているため、より優れています。また、Clarity Cap PXはより滑らかで丸みを帯びているため、長期間のリスニングでスコアが高くなります。これは、よく録音されたクラシック音楽で最も明白です。全体として、私はまだRXFについて非常に前向きであり（特に価格を考慮して）、予算に敏感なユーザーにとっては歓迎すべき到着だと考えています。また、特に大きな値が必要な場合は、通常のアキシャルコンデンサよりもコンパクトに構築されているため、スペースが限られている既存のクロスオーバーの便利なアップグレードになる可能性があります。

評決：8



Mundorf MCap EVO 450VDC-3%の許容誤差

可能な限り厚い金属層で気化させた最も純粋なポリプロピレン箔のみを使用しています。さらに、異常な非対称ワイヤ長により、PCボードへの水平方向と垂直方向の両方の取り付けが可能です。全体として、新しいMCap EVOの上記の機能は、カラフルな活気、優れたマイクロダイナミック、強化された透明性、信頼性、3次元ステレオフォニーをもたらします。RXFの直接の後継者として、MCap EVOは、オーディオフィンのEVOラインナップへの驚くほど安価なエントリーを示しています。」信憑性と3次元ステレオフォニー。RXFの直接の後継者として、MCap EVOは、オーディオフィンのEVOラインナップへの驚くほど安価なエントリーを示しています。」信憑性と3次元ステレオフォニー。RXFの直接の後継者として、MCap EVOは、オーディオフィンのEVOラインナップへの驚くほど安価なエントリーを示しています。」

サウンド：コンパクトに構築されたMundorf MCap EVOアルミニウムは、基本的に全体的に聴き心地が良く、よく知られているMundorfサウンドの特徴を備えています。適度にニュートラルで、より高い周波数にわずかに重点を置いているため、より暗く、より丸みを帯びたタイプよりも少し透明に聞こえます。高級なマンドルフEVOコンデンサーと比較すると、画像の奥行きが不足しているため、少しフラットに聞こえることがありますが、これに重くなりすぎないでください。EVOアルミニウムは低価格のコンデンサーなので、奇跡を期待しないでください。Vishay MKP1839HQと直接比較すると、よりオープンであり、より高価でありながら非常に手頃な価格のIntertechnik Audyn Cap Plusと比較すると、EVOアルミニウムは透明性が高く、同時に一貫性が低くなっています。Audyn Cap Plusは、よりバランスの取れた、トーン的に均一なプレゼンテーションを備えています。

評決：7,5



Mundorf MCap EVOオイル450VDC-3%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「MCapEVOオイルは、MCap EVOの音響特性と、オイル含浸コンデンサの音響上の利点を完璧に組み合わせています。さらに、追加のラッピングとレッドメタリックの刻印により、適切な品質が得られます。見て、触覚。」

サウンド：コンパクトに構築されたマンドルフMCap EVOオイルは、基本的なMCap EVOアルミニウムからの大きな一歩であり、実際には3つのEVOタイプの中で私の個人的なお気に入りですが、より高価な兄弟であるEVOシルバーゴールドオイルは依然として優れていますが、風通しの良いトップエンドのディテール。MCap Evo Oilはボーカルに特に適していることがわかりました。男性と女性の声は、ある程度の豊かさを備えた、よくレンドリングされた比較的自然的な響きで出てきます。管楽器（金管楽器または木管楽器）もEVOオイルで説得力があるように聞こえますが、それらには自然なエッジがあるようです。画像の奥行きは、マンドルフの最高範囲の高レベルには達していませんが、EVOオイルのもう1つの強力な機能です。全体として、MCap EVOオイルは、ピアノ音楽に興味がない限り、EVO範囲の全体的なパフォーマンスが最も優れているようです。その場合、MCap EVOシルバーゴールドオイルは、トップレジスタの明確さのために多くのポイントを獲得します。Intertechnik Audyn Cap Plusよりも明るく、価格はほぼ同じですが、同時に完全なサウンドではありません。EVOオイルはJantzenAudioの優れたZ-Capと混合するのが好きで、EVOオイルのわずかに明るい性質は、非常にニュートラルで広々としたサウンドの優れたZ-Capとうまく調和していることがわかりました。たとえば、大きな値のミッドレンジ直列コンデンサに使用する場合：Jantzen Audio SuperiorZ-Capの約3分の1とMundorfMCap EVOオイルの3分の2を混合すると、バランスの取れたリッチで広々としたコンボがリーズナブルな価格で形成されます。Intertechnik Audyn Cap Plusよりも明るく、価格はほぼ同じですが、同時に完全なサウンドではありません。EVOオイルはJantzenAudioの優れたZ-Capと混合するのが好きで、EVOオイルのわずかに明るい性質は、非常にニュートラルで広々としたサウンドの優れたZ-Capとうまく調和していることがわかりました。たとえば、大きな値のミッドレンジ直列コンデンサに使用する場合：Jantzen Audio SuperiorZ-Capの約3分の1とMundorfMCap EVOオイルの3分の2を混合すると、バランスの取れたリッチで広々としたコンボがリーズナブルな価格で形成されます。Intertechnik Audyn Cap Plusよりも明るく、価格はほぼ同じですが、同時に完全なサウンドではありません。EVOオイルはJantzenAudioの優れたZ-Capと混合するのが好きで、EVOオイルのわずかに明るい性質は、非常にニュートラルで広々としたサウンドの優れたZ-Capとうまく調和していることがわかりました。たとえば、大きな値のミッドレンジ直列コンデンサに使用する場合：Jantzen Audio SuperiorZ-Capの約3分の1とMundorfMCap EVOオイルの3分の2を混合すると、バランスの取れたリッチで広々としたコンボがリーズナブルな価格で形成されます。

評決：8,5



Mundorf MCap EVOシルバーゴールドオイル450VDC-3%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「まったく新しいMCap EVOシルバーゴールドオイルは、MCap EVOオイルの可聴機能とシルバーゴールドメタライゼーションの機能を組み合わせて、息を呑むほど美しい音楽パフォーマンスを実現します。MCapEVOシルバーゴールドオイルの美しさ音楽のパフォーマンスは、マンドルフのトップラインの最高のコンデンサーによってのみ超えられます。」

サウンド：Mundorf MCap EVOシルバーゴールドオイルは、インストルメンタルクラシック音楽に関しては本当に際立っています。特にグランドピアノのフェエチがあれば、MCap EVOシルバーゴールドオイルが気に入るはず！C5以上の範囲の豊かな透明度は中毒性があり、ヤマハコンサートグランドサウンドを非常に明瞭でリアルに明るくします。全体的なサウンドはクリーンで風通しが良く、実際にはMundorf Supremeよりも細かいディテールがありますが、全体像を維持することで物事が複雑で騒々しいときにSupremeが勝ちます。EVOシルバーゴールドオイルの歯擦音は明確な性質があるため、より文明的で一貫性のあるMCapSupremeよりも少しはっきりしています。MCap EVOシルバーゴールドオイルは、燃え尽きて落ち着くまで

に少し時間がかかります。箱から出してすぐに、私は彼らがかなり緊張していることに気づきました。落ち着くために少なくとも50時間与えてください。MCap EVOシルバーゴールドオイルの大きなプラスポイントの1つは、非常にコンパクトな構造であるということです。MCapSupremeと比較すると、サイズは3分の1から4分の1であり（静電容量の値によって異なります）、高品質のコンデンサと利用可能なスペースははかり限られています。EVOシルバーゴールドオイルは、ニュートラルの「トッピー」側にわずかにある場合があるため、たとえばIntertechnik Audyn Cap Plusのように、少しミッドレンジの前方に聞こえるコンデンサーとうまく混ざります。

評決：9-

Mundorf MCap Supreme EVOオイル800VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「MCapSupreme EVOは、2015年の完全に新しい開発です。これは、Evolution巻線技術の優れたインパルス再生と、コンデンサー内の卓越したホログラフィック3次元性を組み合わせたもので、アルミニウムのメタライゼーション。最新かつ最高の巻線プロセスを実行した後、コンデンサを手作業でアルミニウムチューブに入れて、マイクロフォニーを最小限に抑えます。非対称のリードにより、クラシック、水平、または垂直に組み立てることができます。リードが短いほど、MCap Supreme EVOオイルは、そのオイル含浸のおかげで、存在感とダイナミクスがさらに向上します。誘電体：ポリプロピレン（PP）、金属化：アルミニウム、タンド：0,0002 @ 1kHz-0,0001 @ 10kHz。"

サウンド：マンドルフMCap Supreme EVOオイルは、SupremeEVOシルバーゴールドオイルよりも少し落ち着いた印象を与えます。また、直接比較すると、マイクロディテールが少なく、背景が黒くなく、コントラストが低くなります。しかし、価格の約4分の1で何を期待しますか？スケールを下げて、それらをSupreme Classic Silver Oilと比較すると、EVOが少しクリアで透明性が高く、Classicは少し滑らかで、より豊かな倍音がありました。たとえば、大きなクラッシュシンバルとライドシンバルは、Supreme EVOオイルの方が「輝き」がありますが、SupremeClassicシルバーオイルの方がよりリアルで説得力のある「メタリックな暖かさ」があります。しかし、繰り返しになりますが、クラシックが約3倍の価格であるとしたら、何を期待しますか？次の比較は、SupremeEVOオイルよりもわずかに安い標準のMCapSupremeClassicとの比較でした。ここで、EVOは（文字通り）わずかに高い定義と精度を備えた最先端を持っていました。しかし、Supreme Classicは、（直接比較して）もう少し暖かさや「青々とした」ものも非常に素晴らしかったです。新しいSupremeEVOシリーズを一般的にEVOシリーズおよびClassicSupremeレンジと比較すると、MundorfはEVOの詳細で正確な性質とSupremeの豊かで広々とした性質を組み合わせることに成功したようです。基本的なEVOの範囲よりも成熟したサウンドで、SupremeClassicの範囲よりもコントラストが高くなっています。実際にもっとコントラストが必要な場合はあなた次第です。新しいSupremeEVOシリーズを一般的にEVOシリーズおよびClassicSupremeレンジと比較すると、MundorfはEVOの詳細で正確な性質とSupremeの豊かで広々とした性質を組み合わせることに成功したようです。基本的なEVOの範囲よりも成熟したサウンドで、SupremeClassicの範囲よりもコントラストが高くなっています。実際にもっとコントラストが必要な場合はあなた次第です。

評決：10,5



Mundorf MCap Supreme EVOシルバーゴールドオイル800VDC-2%の許容誤差

コンデンサの巻線は、マイクロフォニーを最小限に抑えるために、手作業でアルミニウム管に挿入されます。直接金メッキされた非対称の純銅線により、クラシックな水平スタイルまたは垂直スタイルで組み立てることができます。短いリード線は、コンデンサの外側のフォイルも示します。MCap Supreme EVOシルバーゴールドオイルは、そのオイル含浸のおかげで、さらに優れた存在感とダイナミクスを提供します。誘電体：ポリプロピレン（PP）；金属化：99%銀+ 1%金；tan d：0,0002 @ 1kHz-0,0001 @ 10kHz。」誘電体：ポリプロピレン（PP）；金属化：99%銀+ 1%金；tan d：0,0002 @ 1kHz-0,0001 @ 10kHz。」誘電体：ポリプロピレン（PP）；金属化：99%銀+ 1%金；tan d：0,0002 @ 1kHz-0,0001 @ 10kHz。」

サウンド：マンドルフMCap Supreme EVOシルバーゴールドオイルは、非常にクリーンで詳細なオープンサウンドのコンデンサです。スプリームクラシックシルバーゴールドオイルの安定した相手よりもさらに細かく詳細に説明されています。サウンドステージは、多くのコントラスト、深い深み、そして微細なディテールの山で作られています。この非常に正確な性質により、Supreme EVOシルバーゴールドオイルは、落ち着いた滑らかなサウンドシステムと非常によく調和し、明るくなりすぎずに優れた最先端を提供することがわかりました。音の減衰量と録音会場の音響リバーブは、SupremeEVOシルバーゴールドオイルのその他の優れた属性です。コンデンサの選択も実装とシステムマッチングの問題であることを私は知っていますが、クラシックはもう少し寛容で、トップ2で少しスムーズなので、SupremeEVOシルバーゴールドオイルよりもSupremeClassicシルバーゴールドオイルを好むことがよくあります。オクターブ。Supreme EVOシルバーゴールドオイルが最高のパフォーマンスを発揮するには、システムの残りの部分が完全に完璧である必要があります。システムに少しでもエッジの効いたヒントがある場合、私が何を意味するかを知っていれば、EVOは全体的なトーンバランスを「正確な」方向に傾けすぎる可能性があります。ソフトドームツイーターと組み合わせると、コンデンサーの先端がソフトドームの滑らかな特性と非常によく混ざり合うのが最適な組み合わせであることがわかりました。金属製のドームと一緒に使用すると、全体的な音が明るくなりすぎます。または、逆にみると：最初にSupremeEVOシルバーゴールドオイルを中心にスピーカーを構築し、次にシステムの残りの部分をそれに合わせて微調整します。新しいSupremeEVOシリーズを一般的にEVOシリーズおよびSupremeClassicシリーズと比較すると、MundorfはEVOの詳細で正確な性質とSupremeの豊かで広々とした性質を組み合わせることに成功したようです。EVOの範囲よりも成熟したサウンドで、SupremeClassicの範囲よりもコントラストが高くなっています。実際にもっとコントラストが必要な場合はあなた次第です。全体として、Mundorf MCap Supreme

EVOシルバーゴールドオイルは、使用するツイーターの選択に関して少しうるさい場合でも、入手可能な最高のコンデンサーの1つであることがわかりました。ソフトドームツイーターとの組み合わせで最高の結果が得られました。

評決 : 12-



Mundorf MCap Supreme MKP 800VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「1. 特殊な誘導フリー巻線技術：2つのコンデンサ巻線がインターリーブされ、インダクタンスが互いに効果的に相殺されます。これら2つの巻線は直列に接続されています。つまり、2uFの巻線が2つ必要です。1uFのMCapSupremeコンデンサを1つ作成します。これは、従来の技術を使用して4uFの全容量を生成するのに必要な量と同じです。2. 入手可能な最良の材料：MCap Supremeに使用されるポリプロピレンフィルムは、非常に低い損失特性を備えています。およびアルミニウムケース：これにより、マイク効果のフィードバックが防止され、重要な信号の詳細が保護されます。」

サウンド：MCap Supremeは、奥行きのあるオープンで空間的なサウンドを提供します。高音域から低音域まで、誇張することなくディテールと深みのある音楽のニュアンスをうまく再現しています。サウンドステージの良いクリアで透明なサウンドキャップ。これらは、標準品質のMKPと比較して、明瞭さ、フォーカス、ダイナミクスが大幅に向上し、マンドルフMCap EVOシルバーゴールドオイルよりも「肉厚」で、より成熟し、少し暖かい音になります。改善の程度は、ハイエンドケーブルおよび相互接続へのアップグレードに匹敵します。何年も前に初めてオーディションを受けたときは感動しましたが、今でも使いたいです。複雑な材料を供給すると安価なコンデンサが失われる可能性があります、Mundorf MCap Supremeは、本格的なオーケストラなどの概要を把握しています。

評決 : 10



Mundorf MCap Supreme Silver Oil MKP 1200VDC-2%の許容誤差

また、オイル含浸コンデンサ設計の利点が、ポリプロピレン箔のよく知られた長期安定性および誘導のないSUPREME性能のための内部直列配線とうまく組み合わせられたのはこれが初めてです。その活気に満ちた音楽の再生は、特にその微妙にダイナミックなスピード、正確さ、そして際立った細かいディテールに感銘を与えます。」

サウンド：MCap Supreme Silver Oilは私のお気に入りのコンデンサーの1つです！私はマンドルフが述べていることを強調することしかできません：素晴らしく広々とした詳細なサウンド再生、完全に滑らかな音色の豊かさと多様性。最高のニュアンスと微妙な違いを引き出すこのコンデンサーの能力は、音楽をより生き生きと「ジューシー」に聞こえさせます。上から下まで音楽のディテールと深み。非常に滑らかで液体です。誇張すると、標準のSupreme Capのサウンドが少し荒くなります！

評決 : 11

Mundorf MCap Supreme Silver Gold 1200VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「MCapSupreme Silver Goldのコンデンサフォイルのメタライゼーションは、1%の純金を混合した純銀で構成されています。金は銀の結晶構造を変化させ、非常に優れた導電性を最大化します。MCap Supremeの優れた特性（音楽再生の高解像度と聴覚的雰囲気）は、シルバー/ゴールドを利用することで、再び聴覚的に強化され、微妙なニュアンスのある音色が大幅に強化されています。このコンデンサーでは、MCapSupremeのシルバー/ゴールドの速度と精度が調和して組み合わせられています。美しさと優雅さで。」

サウンド：非常にクリアで透明、豊かな質感の高音、非常に広々としています。前から後ろ、左から右、個々の楽器の非常に優れた分離、真っ黒な背景、クリーンでダイナミック、マイクロディテール情報の山、ディテールは少しハイライトされますが、心配する必要はありません。誰もがそう言うので、このコンデンサは良いはずだと簡単に思いますし、非常に高価ですが、私は客観的な見方を維持しようとしたのですが、それでも非常に感銘を受けました。シルバー/オイルを非常にニュートラルと表現するのであれば、私が何を意味するのかを知っていれば、シルバー/ゴールドを非常に自然なものと表現します。ピオラダガンバのようなアコースティック楽器は本当にリアルに聞こえます。Duelund VSF-Cu銅箔コンデンサと比較すると、トップエンドでは少し明るく聞こえますが、しかし、鈍いサウンドシステムを明るくしたい場合や、ベルやチャイムなどを使っていわゆるハイエンドの録音を掘り下げたい場合は、これがプラスのポイントになる可能性があります。それらは決して過酷ではなく、時々ニュートラルの明確な側面にあります。

評決 : 12-

Mundorf MCap Supreme Silver Gold Oil 1200VDC-2%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「MCapSupreme Silver Gold Oilは、間違いなく当社のオイル含浸コンデンサの最上位モデルです。Silver/ Oilバージョンと比較して、技術的にはさらに長寿命です。さらに重要なことは、音響的には、シルバー/ゴールド/オイルバージョンは、その素晴らしい自然な歌声と並外れたマイクロダイナミックにより際立っています。容量：0.010uF-10uF;誘電体：ポリプロピレン;メタライゼーション：99.99%シルバー、1%ゴールド;シルバーの純度：最小99.97%typ. 99.99%;金の純度：最小99.97%typ. 99.99% "。

サウンド：このレベルでは、非常に深刻なコンデンサについて話しているの、私の調査結果は他のエキゾチックなタイプと比較しています。それらはマンドルフシルバーゴールド（オイルなし）よりも豊かでより良い層状であり、より開放的でより空間的に見えます。Duelund VSF-Cuと比較すると、倍音はそれほど豊富ではありません。Duelund VSF-Cuは、より滑らかな倍音とより良いミッドレンジバランスを作成しますが、マンドルフシルバーゴールドオイルは、画像の奥行きに非常に優れています。ポウリング場の奥行きと呼んでください。直接比較すると、Duelund VSF-Cuはよりフラットに聞こえ（もう少し2D）、上部が少し丸みを帯びています。ほとんどのマンドルフコンデンサのように、シルバーゴールドオイルはトップエンドの強調のわずかなヒントを持っています、これはおそらく知覚された空間性とマイクロディテールに貢献しています。しかし、私はそれと一緒に暮らすことができるとも幸せです、

評決 : 12歳以上



ノースクリーククレッシェンドフィルムアンドフォイルMKP200VDC-10%公差

技術仕様（メーカーによる）：「1996年にリリースされたこれらのコンデンサは、豊かで豊かなミッドレンジとロマンチックでありながら詳細なトップエンドで設計されました。他の大型フィルムアンドフォイルコンデンサとは反対の色調です。厚い200の適切なアプリケーションボルトフィルムは、中音域から高音域までの音色の連続性をもたらし、中音域と上位オクターブのバランスを正しく取ります。クレッシェンドコンデンサーの極端な上端は柔らかく、非常に静かです。ほとんどのツイーター回路で単一のコンデンサーとして動作するように設計されており、高電圧のクレッシェンドコンデンサーと並列化およびカスケード接続することもできます。また、高性能ミッドレンジ回路用の他のほとんどのベースキャップと組み合わせると、優れた並列キャップになります。究極のミッドレンジ性能を実現するために、大きな純粋なフィルムとフォイルのスタックで構成できます。」記載されている許容誤差は+/- 10%と低いことを意味しますが、すべてを測定したところ、すべて約1%以内でした。記載されている静電容量-最悪の静電容量は10,12uFと測定されました。

サウンド：上記はすべてセールストークです！さて、それらは個々の楽器の良好な分離と素晴らしい深いサウンドステージを備えた非常に優れたコンデンサですが、主な欠点はそれらが一種のラウドネスを内蔵していることです、私はコンポーネントがよりニュートラルであることを好みます。Hovland Musicap（彼らが私に最も思い出させる）と同様に、私は彼らと愛/憎しみの関係を持っています：彼らはすべてのタイプのツイーターと交尾するわけではなく、ほとんどのアルミニウムとチタンのドームに優れたマッチをしません。HATT-MkIIIで試してみたところ、ツイーターのLPアド機能を上げたいと思いました。とても素敵なソフトドームツイーターと直列に接続すると、他のより丸いサウンドのキャップと一緒に使用した場合と比較して、そのようなツイーターから通常よりも詳細を引き出すように見えます。（Mezzo）Proteusで使用されているSeas Excelツイーターで良い結果が得られましたが、他のソフトドームも同じように役立つはずですが、あなたのシステムが少し明るい側またはクリニック側にある傾向がある場合、それらはひどく聞こえるかもしれません。ただし、Audyn Cap QSまたはLeClanchéを使用した場合と比較して、より詳細で優れたサウンドステージが得られます。ここに良いヒントがあります：他のキャップと組み合わせるとそれらを使用してください。安価なIntertechnikAudyn Capをクリーンアップして、バランスの取れたサウンドを作成します。

評決 : 8

オブリガートアルミホイルMKP630VDC-5%公差

技術仕様（メーカーによる）：中国製、超タイトな巻線、ポイドなし、ドイツから輸入された厚塗りアルミニウムフィルム。非常に低いインダクタンス。リードアウトは錫メッキ銅、ソリッドコアです。

サウンド：アナログは、これらのコンデンサーを説明しようとする中で頭の中でポップアップし続ける言葉です。それらは豊かな質感を持ち、リアルなダイナミクスと周囲情報の優れた検索を備えたオープンで滑らかな画像を生成します。クラリティキャップDTACよりも奥行きがわずかに浅いですが、非常に詳細で、過酷になることはありません。彼らは彼らについてある種の詳細な暖かさを持っているようです。クラリティキャップPXと直接比較すると、ミッドレンジまでは同じリーグに属していると言えます。ただし、オブリガートは中高音域と高音域でより明確に定義されています。アコースティックギターやソロバイオリンアタックなどの音色は、明瞭さが増し、分離が良くなるように見えますが、画像は平坦ではないようです。したがって、楽器の音色は少し正確で、間に空気が多くなり、サウンドシーンの自然さが増します。それらはより高い定義を持っていますが、滑らかなクラリティキャップPXよりも決して過酷でも過酷でもありません。そして私にいくつかの素晴らしいが柔らかい内部の詳細を聞かせてください。それがおそらく私がそれらを「アナログ」と定義する理由です。

評決 : 10-

オブリガートフィルムオイルMKP630VDC-5%の公差

技術仕様（メーカーによる）：中国製、超タイトな巻線、ポイドなし、ドイツから輸入された厚塗りアルミニウムフィルム。非常に低いインダクタンス。リードアウトは錫メッキ銅、ソリッドコアです。

サウンド：音楽への心地よい「アナログ」アプローチで、クリアでスムーズなプレゼンテーションと優れた分離性を備えています。左から右へのイメージングと前から後ろへのサウンドステージはリアルですが、ドライタイプのオブリガートほどオープンではありません。また、全体的なバランスは、Obbligatoアルミホイールタイプよりも少し前向きで、特に箱から出してすぐに新鮮です。ですから、彼らにバーンインする時間を与えてください。

評決：9



パナソニックEZP-E1100VDC-10%公差

技術仕様（メーカーによる）：「パナソニックEZP-Eコンデンサは、セグメント化されたパターンとポリプロピレンフィルムを備えた金属化誘電体で構成されています。ケースとシーリング樹脂の使用により、これらのフィルム抵抗は難燃性です。自己保護機能を備えたこれらのコンデンサは、自己修復性があり、安全性の高いオプションです。低損失、低ESR、高信頼性、長寿命、錫メッキワイヤ端子。DCフィルタリングおよびDCリンク回路に推奨され、適切なアプリケーションには風力発電が含まれます。、産業用電力供給業者、電化製品およびソーラーインバーターのインバーター回路。」

サウンド：パナソニックEZP-Eは、低予算から中予算の範囲で利用できる最もニュートラルなサウンドのコンデンサの1つだと思います。目立つものは何もありません、そして私はそれを前向きに意味します。非常にニュートラルであるということは、それらを他のさまざまなコンデンサと混合して、お気に入りの「味」を得ることができることを意味します。たとえば、Tempo Twoスピーカーでこれを行いました。ニュートラルウーファー、ニュートラルツイーター、ニュートラルPanasonic EZP-Eを用意し、Mundorf SupremeEVOオイルでコショウと塩を少し加えます。簡単に言えば、パナソニックEZP-Eは煩わしくなく、仕事をこなすだけです。

評決：8歳以上

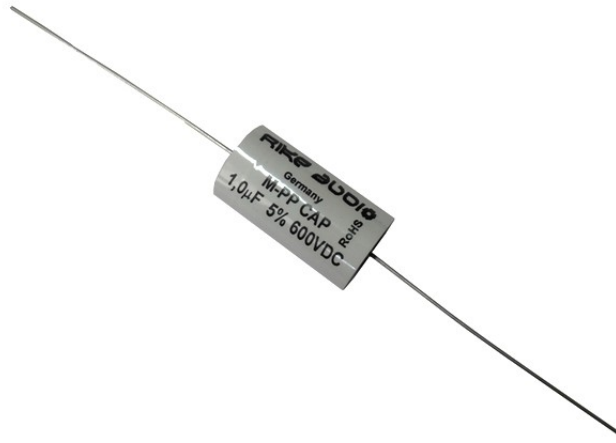


Rike Audio M-PP 600VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「金属化ポリプロピレンフィルムコンデンサ、静電容量公差5%、定格電圧600VDC、リード径1,0mm錫メッキ銅」

サウンド：Rike Audio M-PPは、たとえばClarity Cap SAよりも少し前方に配置され、AudienceAuricapよりもわずかに詳細なレンジリング画像を生成します。相対的に言えば、画像もかなり大きく、（より高価な）Jantzen Audio Superior Z-Capができるほど大きくはありませんが、IntertechnikMKP-QSのような標準のMKPよりも大きくなっています。Rike Audio M-PPでは、高音域の上部にいくらか重点を置いているMundorf EVOオイルのようなコンデンサーとは対照的に、低音域に少し重点が置かれているようです。彼らはこの色調のバランスを持っていますが、もう少し「体」で行うことができるわずかに軽量のプレゼンテーションがまだあります。しかし、それは私がしばしば低コストのコンデンサで奨励するものなので、何も心配する必要はありません。

評決：8

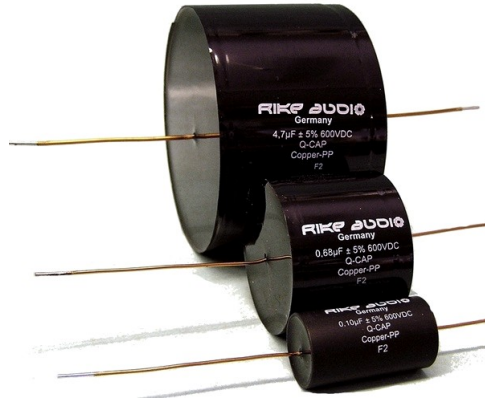


Rike Audio Q-CAP 600VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「銅箔およびポリプロピレンフィルムコンデンサ、静電容量許容値5%、定格電圧600VDC、リード径1.5mm純銅」

サウンド：Rike Audio Q-Capはニュートラルで、ダイナミクスと滑らかさのバランスが良く、きびきびとしていて、きちんとしていて、リッチであることがわかりました。Intertechnik Audyn Cap Tri-Referenceに切り替えると、少し鈍いように聞こえますが、Q-Capに戻すと、何が起きているかに近づくことができます。トライリファレンスは厳密に言えば絶対的な中立に近いものです。Q-Capの一般的な概要は非常に優れており、直接AB比較ではフローがわずかに多いJupiterCopper-Paper-Waxよりも少しダイナミックな表現があります。Q-Capは、マンドルフスプリームシルバーゴールドオイルと同じ程度ではありませんが、細部にまでこだわっています。これにより、Q-Capの全体的なプレゼンテーションをよりリラックスして聞くことができます。Rike Audio Q-Capを非常にニュートラルな（そしてより安価な）Jantzen Audio Superior Z-Capと比較すると、追加料金が何であるかがわかります。Q-Capは、特に幅のようなものに関しては、より大きな画像を生成します。サウンドステージ。また、オーケストラでの楽器のより説得力のある配置があります。サウンドステージの前には、ボーカリストとソロバイオリンが立っています。コンデンサを評価するときに私が耳にすることの1つは、楽器の音色を決定する倍音がどれだけうまく表現されているかです。これはRikeAudioQ-Capが非常にうまく機能します。24ビット/ 96kHzのflacで伝統的な中国の古箏音楽を聴いたり、マルチチャンネルSACDでアルメニアのドゥックアンサンブルを聴いたりすると、豊かな音色で非常に具体的なプレゼンテーションの印象を受けました。直接比較すると、マンドルフスプリームシルバーゴールドオイルは、これらの伝統的な楽器の最上位のレジスターで少し「プラスチック」に聞こえるようになりました。一方、マンドルフスプリームシルバーゴールドオイルはジャズドラムキットと非常によく合い、ライドシンバルとブラシにもう少し「エッジ」を与えました。一般に、Q-Capを他の銅箔タイプと比較すると、銅箔の間に紙を使用する他のタイプは「伝統的」に聞こえ、銅の間にポリプロイレンを使用するQ-Capはホイルは「モダン」に聞こえます。どちらも他よりも優れているわけではなく、ただ異なるだけであり、それはあなたが好むキャラクターに一致する個人的な好みとシステムに依存します。全体として、私はRike Audio Q-Capがとても好きです。これは、コンデンサのトップレンジへの歓迎された新参者です。これらの伝統的な楽器の最上位のレジスターにあります。一方、マンドルフスプリームシルバーゴールドオイルはジャズドラムキットと非常によく合い、ライドシンバルとブラシにもう少し「エッジ」を与えました。一般に、Q-Capを他の銅箔タイプと比較すると、銅箔の間に紙を使用する他のタイプは「伝統的」に聞こえ、銅の間にポリプロイレンを使用するQ-Capはホイルは「モダン」に聞こえます。どちらも他よりも優れているわけではなく、ただ異なるだけであり、それはあなたが好むキャラクターに一致する個人的な好みとシステムに依存します。全体として、私はRike Audio Q-Capがとても好きです。これは、コンデンサのトップレンジへの歓迎された新参者です。ライドシンバルとブラシにもう少し「エッジ」を与えます。一般に、Q-Capを他の銅箔タイプと比較すると、銅箔の間に紙を使用する他のタイプは「伝統的」に聞こえ、銅の間にポリプロイレンを使用するQ-Capはホイルは「モダン」に聞こえます。どちらも他よりも優れているわけではなく、ただ異なるだけであり、それはあなたが好むキャラクターに一致する個人的な好みとシステムに依存します。全体として、私はRike Audio Q-Capがとても好きです。これは、コンデンサのトップレンジへの歓迎された新参者です。ライドシンバルとブラシにもう少し「エッジ」を与えます。一般に、Q-Capを他の銅箔タイプと比較すると、銅箔の間に紙を使用する他のタイプは「伝統的」に聞こえ、銅の間にポリプロイレンを使用するQ-Capはホイルは「モダン」に聞こえます。どちらも他よりも優れているわけではなく、ただ異なるだけであり、それはあなたが好むキャラクターに一致する個人的な好みとシステムに依存します。全体として、私はRike Audio Q-Capがとても好きです。これは、コンデンサのトップレンジへの歓迎された新参者です。銅箔の間にポリプロイレンを使用したQ-Capは「モダン」に聞こえます。どちらも他よりも優れているわけではなく、ただ異なるだけであり、それはあなたが好むキャラクターに一致する個人的な好みとシステムに依存します。全体として、私はRike Audio Q-Capがとても好きです。これは、コンデンサのトップレンジへの歓迎された新参者です。

評決：12.5



Rike Audio S-Cap-2 600VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「紙-ポリプロピレン-アルミニウム-オイルコンデンサー;ラジアル、ソリッドリード線;公差5%;ドイツで手作り。」

サウンド：Rike Audio S-Cap-2は、非常に広々としたレンジングされた画像を生成します。何も強調されておらず（良いこと）、全体的な音のバランスはかなりニュートラルです。彼らの性格について言えることが一つあるとすれば、彼らは他の中性音のコンデンサーよりも少しダイナミックに聞こえるということです。細部にまでこだわったMundorfSupreme EVOシルバーゴールドオイルのようなまったく異なる種類のコンデンサーと比較すると、Rike Audio S-Cap-2はプレゼンテーションが少しフラットに聞こえますが、より「正確」で、全体的に快適に使用できます。より長いリスニングセッション用。したがって、S-Cap-2は、（たとえば）少しうるさいことがあるトップレンジのマンデルフよりも、幅広い状況で実装するのが簡単です。

評決：11



SCRシャトルーMKP-PB400VDC-2%の許容誤差

技術仕様：Solen Fast CapPB-MKP-FCの錫メッキされたソリッドコアリードアウトバージョン。

サウンド：Solen MKP-PBは、Intertechnik Audyn Cap QS（そうではないもの）よりもわずかに優れていますが、それでもかなりフラットで、奥行きと透明性に欠けています。PWやAPWシリーズのような安価な範囲のクラリティキャップと比較するとかなり粗いですが、それらは同様の、適度にニュートラルな色調バランスを持っています。彼らが彼らのために行っているのは、彼らの非常に低コストです。より多くの空間情報とより良い定義を得るために、例えば本当に物事を改善したいのであれば、少し高価なマンデルフRXFを見る必要があります。

評決：6歳以上

Solen Fast Cap PB-MKP-FC 400VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「低誘電正接、高絶縁抵抗、高周波数および温度安定性、ポリプロピレン方言の優れた自己修復特性、高電流量、優れた過電圧およびパルス処理能力、低自己インダクタンス、低等価直列抵抗;優れた安定性;柔軟なリード;錫メッキされた純銅マルチストランド絶縁スリーブ;優れた高周波特性;高いイオン化レベル;誘電正接@ 20 C : .01%未満; 20 Cでの誘電正接: .01%未満%;温度範囲: -25 C~ + 85 C;誘電体: ポリプロピレンフィルム;動作電圧: 400VDC。"

サウンド：Solen Fastキャップは、標準品質の工場で製造されたスピーカーによく見られるMKTコンデンサーからの優れたステップアップです。標準のIntertechnikAudyn Capのように、それらには何の問題もありませんが、エキサイティングなこともありませんが、2つから選択する必要がある場合でも、Solenを選択します。音楽性はわずかに高く、わずかな違いがありますが、直接に目立ちます。ABの比較。電解質と比較して、それらははるかに詳細で滑らかで、より広いステレオイメージを持っています。マンデルフスプリームキャップと比較すると、それらは閉じたように聞こえます。ミッドレンジは、よりニュートラルなキャップと比較してわずかに前方にあり、構成によっては少し鼻に聞こえる場合があります。このキャラクターのために、彼らは例えばフォーカルツイーターとよくマッチするでしょう。低価格のキャップ、SCRおよびAngelaブランドのコンデンサーと同じ品質、同じサイズ。どうして?それらはまったく同じだからです!予算が限られている場合は、これが適切な選択であり、非常に広範囲の静電容量値、および非標準値で利用できます。

評決：6歳以上

Solen Fast Cap PPE-MKP-FC 630VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「金属化フィルムコンデンサー;誘電体：ポリプロピレンフィルム;電極：アルミニウム金属化、真空蒸着;構造：円形管状「正方形アスペクト比」タイプ;軸方向リード;巻線：バイファイラー拡張金属化フィルム;接触：非-誘導性の亜鉛溶射延長フィルム;コーティング：黒いプラスチックテープで包まれ、灰色のエポキシ樹脂で密封されています;リード：スズメッキされた無酸素純銅;静電容量0,10uF-330uF。"

サウンド：Solen Fast Cap PPE-MKP-FCは、基本的に一般的な使用のためのニュートラルサウンドコンデンサです。特別なことは何もありませんが、悪いこともまったくありません。それらは（同じ周波数範囲の）声と楽器をサウンドステージで少し前に出し、物事を親密にしますが、これは時々全体的なプレゼンテーションを少し混雑させる可能性があります。Solen PB-MKP-FEと同様に、これらは工場で製造されたスピーカーによく見られる標準のMKTコンデンサーからの優れたステップアップです。予算が限られている場合は、Solen Fast CapPPE-MKP-FCが候補リストに含まれるべきコンデンサです。

評決：7



Solen Fast Capシルバーサウンド (AGM) 700VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「銀金属化ポリプロピレンフィルムコンデンサー;誘電体：二軸延伸ポリプロピレンフィルム、厚さ：8ミクロン;構造：丸型管状「正方形アスペクト比」タイプ;軸方向リード;コーティング：銀色のプラスチックテープ巻き、黒ポリプロピレン樹脂シール;電極：銀金属化、真空蒸着厚さ0.05ミクロン;巻線：バイファイラー拡張金属化フィルム;接触：非誘導、拡張フィルムに亜鉛熱アークスプレー;コネクタ：錫メッキメッキ無酸素純銅。"

サウンド：Solen Fast Capシルバーサウンドは、Mundorf MCap EVOオイルほどではなく、SolenSBスズ箔よりも多くの明瞭さを備えています。全体的なキャラクターは、倍音の明瞭さと豊かさの間の素晴らしいバランスで非常に満足しています。これらの倍音は、マンドルフによって行われた倍音よりも多くのボディを持っているようです。高音は「肉厚」で、クリアでオープンです。全体的なプレゼンテーションは、マンドルフMCap Supreme EVOオイルの場合ほど具体的ではありません。直接比較すると、シルバーサウンドは少しフラットで混雑しているように聞こえます。マンドルフは、よりトップエンドの細かいディテールを備えているため、少し広々としています。しかし、シルバーサウンドはマンドルフよりも薄くなく、ボディが多く、クラシック音楽やその他のよく録音されたアコースティック音楽で使用すると豊かになります。

評決：8歳以上



Solen Fast Cap SB Film & Foil 150VDC-3%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「アルミホイル/ポリプロピレンフィルムコンデンサー;誘電体：二軸延伸ポリプロピレンフィルム;丸管状「正方形アスペクト比」タイプ;軸方向リード;コーティング：白いプラスチックテープで包まれ、黒いエポキシ樹脂で密封された;電極：純錫箔;巻線：バイファイラー拡張箔設計;非誘導、接触：放射状に刻み目を付けた延長箔;コネクタ：錫メッキメッキ無酸素純銅;静電容量0,022uF-4,7uF。"

サウンド：Solen Fast CapSBスズ箔コンデンサーは素晴らしい豊かなサウンドを持っています。音のバランスは、高音よりも低音の方がわずかに高く、（たとえば）マンドルフEVOシルバーゴールドオイルよりもオープンなキャラクターとコントラストが高く、ソレン独自のシルバーサウンドコンデンサよりもコントラストが高くなっています。SBスズ箔は、細部まで暖かく表現されているため、長時間のリスニングセッション中にリスニングの疲れを感じることはありません。大規模なオーケストラ作品のようにプログラムの素材が複雑になっても、Solen Fast CapSBは混雑しません。たとえば、マンドルフEVOオイルを使用すると、オーケストラで行われている細部をすべて聞くことができますが、状況が厳しくなると面倒になります。Solen SBにはこの問題はありませんが、Mundorfよりも詳細度はわずかですが、概要を維持し、空間情報は圧縮されません。SolenSBをMundorfMCap Supreme Classicと比較すると、Supremeは音楽の表現方法が少し落ち着いていることがわかりました。一方、Solen SBはより具体的でした。たとえば、フルート音楽では、Supremeが落ち着いているにもかかわらず、SBはよりリアルで、「あなたの顔」が少なくなりました。リアリティチェックとして、SolenSBとDuelundRS-Cuも比較しました。RS-Cuは、リアリズム、倍音の豊かさなどの点ではるかに優れていました。しかし、10倍以上の価格で何を期待できますか？結論として：私はこれらのSBがとても好きだと言わなければなりません！一方、Solen SBはより具体的でした。たとえば、フルート音楽では、Supremeが落ち着いているにもかかわらず、SBはよりリアルで、「あなたの顔」が少なくなりました。リアリティチェックとして、SolenSBとDuelundRS-Cuも比較しました。RS-Cuは、リアリズム、倍音の豊かさなどの点ではるかに優れていました。しかし、

10倍以上の価格で何を期待できますか？結論として：私はこれらのSBがとても好きだと言わなければなりません！一方、Solen SBIはより具体的でした。たとえば、フルート音楽では、Supremeが落ち着いているにもかかわらず、SBIはよりリアルで、「あなたの顔」が少なくなりました。リアリティチェックとして、SolenSBとDuelundRS-Cuも比較しました。RS-Cuは、リアリズム、倍音の豊かさなどの点ではるかに優れていました。しかし、10倍以上の価格で何を期待できますか？結論として：私はこれらのSBがとても好きだと言わなければなりません！

評決：9



Sonic Craft Sonicap GEN-I MKP 220VDC-5%の許容誤差

絶縁破壊（「自己回復」）が許容できる（称賛に値する）属性であるコンデンサによって生成される、それとは「異なる」スムーズな表示を必要とするmodの場合。微調整のために、システムはバランスが取れており、「カラーバンドエイド」を必要としません。予算内の愛好家のために。それが電源バイパス、カップリング、またはスピーカーアプリケーションであるかどうかにかかわらず、Sonicapはそこにあります！

サウンド：標準のMundorf M-Capと比較して、より透明でクリアで、奥行きがあります。0,01uFのVishayMKP1837をそれらと平行に配置すると（ほぼすべてのコンデンサーに適した調整）、さらに詳細で分離を作成できます。それらは、ホブランのラウドネス効果なしで、ホブランのムジカップを思い出させる方法でマイクロ情報を明らかにします。私はそれらが他のキャップとうまく混ざり合うのを見つけれませんでした-標準のマンドルフM-キャップとの50/50ミックスは、2つの異なるキャップを同時に聞くという面白い感覚を私に与えました。ハイエンドのキャップを探しているが、予算が比較的厳しい場合は、アドバイスできます。けっこういい :-)

評決：8,5

スーパーPPコンデンサ (SPP) MKP 400VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「5層複合誘電体、超低DF」。

サウンド：まず第一に、ほとんどのコンデンサよりもはるかに長いバーンイン時間が必要です。最初はかなり攻撃的です。バーンインした後も、トップエンドがオーバーエッチングされているのがわかります。これにより、わずかに人工的な高音が得られます。それらは非常に詳細ですが、ミッドレンジは少し露出不足であることがわかります。鈍いサウンドのスピーカーでうまく機能する可能性があります。おそらくハイライトされたトップエンドのおかげで、空間性は良好であり、これにより、サウンドステージ全体で何が起きているのかについての概要がわかりやすく表示されます。分離は平均的なものですが、比較的価格であることを考えると、非常に優れたパフォーマンスを発揮します。上端はきれいで、同時に少し暖かくなります。

評決：8歳以上

TRT Wonder DynamiCap MKP 210VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「DynamiCapには、特別な頑丈なラップと金属エンドキャップを備えた構造、および個別に手はんだ付けされた19ゲージの銀被覆銅ワンダーワイヤーリードが含まれます。DynamiCapは、入力からさらに重要なことに、これらの並列パスは実質的に互いに同じ長さであるため、入力信号のすべての部分が同時に出力端子に到達します。」物理的には、同様のサイズの他のブランドと比較して非常に軽量です。

サウンド：彼らの名前はそれらを少し説明しています：彼らは広いダイナミックレンジを持ち、速くて静かに聞こえます-ダイナミクスは素晴らしくてきびきびしていますが、同時にそれらはあまり繊細でも繊細でもありません、彼らは注目を集めて逃げるようです。今では、録音された音楽をリアルに再現するために、ダイナミクスが最も重要な要素の1つであることがわかりましたが、DynamiCapsは一貫性に欠け、音楽を緊張させ、疲労を引き起こしているようです。最初は印象的ですが、すぐに気が散ってしまい、音楽を聴く代わりに、透明度、トランジェント、ディテールなどを聞くことができます。少しスペースを効かせたい場合は、それらを使用してください。また、Clarity Cap PXと比較して、イメージングは少し妥協しています。フラットな面で少し聞こえますが、クラリティキャップPXはより多くのスペースと深さを持っています。それらは標準品質のMKPからの素晴らしいアップグレードを形成し、ツイーターの信号経路のコンデンサーよりもミッドレンジコンデンサーとしてよりよく機能します。

評決：7,5

VCapCuTF銅箔およびフッ素樹脂フィルム0.01uF600VDC/バイパス-5%の許容誤差

これは、環境の清浄度をより適切に制御し、スリッターブレードを頻繁に更新することを意味します。巻き取りプロセスは、カスタムの社内で構築された手巻き機で、クリーンで制御された環境で実行されます。巻線との接触表面積を最大化し、ESRを驚くほど低く保ち、部品間で非常に一貫性を保つために、新しいリード取り付け技術が開発されました。コンデンサのコアは、巻線の構造的完全性を最適化するように、またオーディオ信号を汚す可能性のある内部共振に対処するように設計されています。寸法比は、この構造タイプに固有のリスニングテストに基づいて、値ごとに慎重に選択されました。」自社製手巻き機。巻線との接触表面積を最大化し、ESRを驚くほど低く保ち、部品間で非常に一貫性を保つために、新しいリード取り付け技術が開発されました。コンデンサのコアは、巻線の構造的完全性を最適化するように、またオーディオ信号を汚す可能性のある内部共振に対処するように設計されています。寸法比は、この構造タイプに固有のリスニングテストに基づいて、値ごとに慎重に選択されました。」自社製手巻き機。巻線との接触表面積を最大化し、ESRを驚くほど低く保ち、部品間で非常に一貫性を保つために、新しいリード取り付け技術が開発されました。コンデンサのコアは、巻線の構造的完全性を最適化するように、またオーディオ信号を汚す可能性のある内部共振に対処するように設計されています。寸法比は、この構造タイプに固有のリスニングテストに基づいて、値ごとに慎重に選択されました。」オーディオ信号を汚す可能性のある内部共振に対処するだけでなく。寸法比は、この構造タイプに固有のリスニングテストに基づいて、値ごとに慎重に選択されました。」

サウンド：ほぼ無限のバーンイン時間の後、バイパスコンデンサとして使用されるVCap CuTFで際立っている主な点は、録音に与える優れた透明度と空気です。スペクトルのトップエンドには、コンサートホールの音響など、多くの周囲情報を取得する、足の軽い細かいディテールがあります。これは、クラシック音楽の録音で特に顕著ですが、人気のある音楽は、サウンドステージの深さを増すことから恩恵を受けます。レコーディングの「高圧ホースダウン」のようなものです。CuTFは、基本的にスピーカーのクロスオーバーのどこでも、直列および並列の位置でバイパスコンデンサとして使用できます。さて、これは私がどちらが「最良」であるかを言うのが難しいと思うところです。客観的に言えば、デュエルンドバイパスコンデンサとVCapは同じ高音質レベルにあると言えます。すべての録音からより多くの情報を取得できるため、全体的な楽しみが増します。-)主観的に言えば、私は音楽に求めているもの、つまりリアリズムをより多く提供できるので、個人的にはDuelundJDMシルバーバイパスを好みます。とトーンの豊かさ。対照的に、VCap CuTFの透明度と空気は（楽しいですが）ハイエンドオーディオのように聞こえます。CuTFのこの全体的な整頓された透明な特性は、デュエルンドバイパスコンデンサがうまく機能することがわかった「そこにいる」効果が少ないです。音楽を聴く方法については、デュエルンド錫メッキ銅箔の説明を読んでください。全体として、私はVCap CuTFが本当に好きで、バイパスコンデンサとして使用すると、DuelundCu-AgおよびDuelundCu-Snバイパスコンデンサと同等に優れていますが、まったく異なります。

評決：並列に接続しているコンデンサに約2ポイントを追加します。

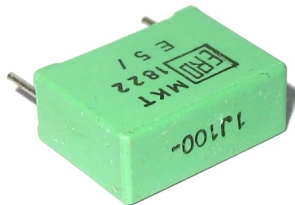


Vishay MKT1822 MKT 63VDC-1%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「真空蒸着アルミニウムを使用した金属化ポリエステルフィルム。主な用途：ブロッキング、バイパス、フィルタリング、タイミング、カップリングおよびデカップリング回路、低電圧アプリケーションでの干渉抑制。」

サウンド：バランスの取れた、全体的にコヒーレントなサウンドのコンデンサ。ハイエンドタイプのコンデンサほど奥行きがなく、マイクロディテールが限られています。どういうわけか頭の後ろに留まっていて、聴いていて嬉しかったです。0.01uF相当のMKP1837を並列に追加することで、プレゼンテーション全体を大幅に向上させることができます。したがって、Solen Fast CapのようなMKPコンデンサの費用効果が高く、非常にコンパクトな代替品をお探しの場合は、もう探す必要はありません。

評決：6,5

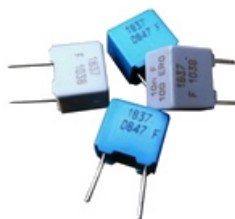


Vishay MKP1837 / 0,01uF MKP 100VDC-1%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「LC / RCフィルター回路用に設計された金属化ポリプロピレン、ラジアルコンデンサ、高周波での結合と分離」。

サウンド：真っ直ぐに言うと、彼らはSupremeをSupreme Silver-Oilに変更しませんが、実際には問題を解決します。値がわずかに10nF (0,01uF) であり、当時使用していたキャップの合計が12.6uFであったため、最初は懐疑的だったことを認めなければなりません。違いはクラシック音楽で最も顕著ですが、ジャズとフュージョンの利点の高品質の録音でもあります。サウンドステージの幅や奥行きに変化はありませんが、より多くのコンサートホールの音響が録音に参加できるようになっています。マンドルフシルバークラウドほど液体ではありませんが、マンドルフシュプリームにわずかにざらざらしたエッジを取り除きました。オーケストラのヴァイオリンは、明瞭さと透明性が著しく向上し、楽器を互いに分離しやすくなり、1つの塊ではなく個々のヴァイオリンのグループになります。ジャズドラムのブラシは、「」というよりもブラシのように聞こえます。

評決：8



Vishay MKP1839HQ MKP 630VDC-5%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「ACおよびパルスメタライズドポリプロピレンフィルムコンデンサ-MKPアキシャルタイプ;誘電体：ポリプロピレンフィルム;電極：メタライズド;構造：シリーズ構造;カプセル化：プラスチック包装、エポキシ樹脂シール。難燃剤;リード：錫メッキワイヤー」

サウンド：Vishay MKP1839HQの主なキャラクターは、落ち着いたトップエンドを備えた特定のフルボディの低音域のキャラクターです。Mundorf MCap Evo Aluminiumのようなより明るいサウンドのコンデンサと比較すると、少し暖かく見えますが、奥行きがありません。全体的なプレゼンテーションは少しフラットですが、他の標準品質のMKPと一致しています。プラス面としては、比較的オープンなサウンドで、ソロバイオリンやチェロなどに適しています。ロックミュージックや高度に処理されたレコーディングにはあまり適していません。個人的には、Intertechnik Audyn CapQSや SolenFast Capのようなコンデンサを使用する方が、少し活気があります。

評決：7



Vishay Sprague 730P MKP 250VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「高周波、ラップアンドフィル、金属化ポリプロピレン、優れたAC性能、低消費電力、低誘電吸収、厳密な許容誤差、高安定性。」

サウンド：Hovland MusicapまたはDynamicapを少し思い出させます。ダイナミックレンジが広く、「速く」「静か」に聞こえます。ダイナミクスは素晴らしく、きびきびとしていますが、同時にそれほど繊細でも繊細でもありません。最初は印象的ですが、すぐに気が散ってしまい、私の言いたいことを知っていれば、音楽を聴く代わりに、透明度、トランジェント、ディテールなどを聞くことができます。少しスペースを効かせたい場合に使用してください。イメージングは非常に優れており、標準品質のMKPからの優れたアップグレードを形成しますが、ツイーターの信号経路のコンデンサよりもミッドレンジコンデンサとして機能します。

評決：8

WIMA MKP 4 100VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「金属化ポリプロピレンコンデンサ、高い体積/容量比、自己修復、非常に低い誘電正接、負の静電容量変化対温度、非常に低い誘電吸収、サンプルアンドホールド、タイミングなどの高周波アプリケーション向け発振回路、高周波結合およびデカップリング。」

サウンド：兄のWIMA MKP 10と似ていますが、明瞭度が低く、サウンドステージが小さくなっています。適度に中立で、決して過酷ではありません。クラリティキャップAPWと比較すると、よりオープンなプレゼンテーションが得られ、分離が向上します。PCBで使用するために設計された素晴らしいコンパクトなビルドであるため、たとえばAxon TrueCapよりもPCBを好む理由になります。

評決：7-

WIMA MKP 10 100VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「パルスコンデンサ。WIMAMKP10シリーズの構成原理は、非金属化誘電体膜と、電極として機能する両面金属化キャリア膜で構成されています。両面金属化により、誘電率が大幅に向上し、電極とスクープ層の接触面が2倍になり、接触性が向上し、高電流・パルス負荷能力が得られます。優れた自己修復性や大容量容量などの金属化コンデンサの特性が残っています。変更なし。」

サウンド：WIMA MKP 10を使用すると、ニュートラルで滑らかでバランスの取れたコンデンサーが得られます。この価格帯では、透明度の量は非常に合理的であり、全体的にMKP10は聴き心地が良いです。同様の形状とサイズのマンドルフRXFと比較すると、プレゼンテーションはより前向きで、少しはっきりしていません。しかし、それでもなお、全体的な音質は良好です。バーンインする時間を与えることを忘れないでください。箱から出してすぐに、音が制限され、ダイナミクスが制限されます。数週間使用した後、それらは開くはずですが。

評決：8



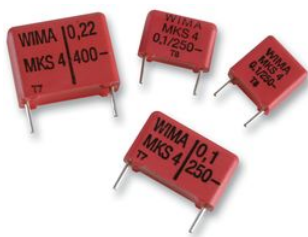
WIMA MKS 4 100VDC-10%の許容誤差

技術仕様（メーカーによる）：「高容量/静電容量比;自己修復;バイパス、ブロッキング、カップリング、デカップリングなどの一般的なDCアプリケーションの一般的なアプリケーション。誘電体：ポリエチレンテレフタレート (PET) フィルム;コンデンサー電極：真空-堆積;カプセル化：耐溶剤性、難燃性のプラスチックケース、エポキシ樹脂シール付き;終端：錫メッキされたワイヤー。」

サウンド：全体的に良いニュートラルなサウンドで、決して耳障りではありませんが、少し「プラスチック」のような高音が聞こえます。トップエンドはシルキーで滑らかです。イメージングは少しフラットで、奥行きはあまりありません。Vishay MKT1822と直接比較すると、透明性は高くなります

が、一貫性は低くなります。

評決：6



©HumbleHomemade Hifi-オランダ-2002年6月。更新日：2003年5月、2003年9月、2004年1月、2004年2月、2004年10月、2005年7月、2006年4月、2007年9月、2008年3月、2008年9月、2009年2月、2009年6月、2月2010年、2010年12月、2011年12月、2013年4月、2013年7月、2014年4月、2014年8月、2015年6月、2016年3月、2017年5月、2018年5月。継続的なテストにより、Humble HomemadeHifiは予告なしに情報を変更する権利を有します。



このウェブサイトのいかなる部分も、作者の書面または電子メールによる同意なしに、いかなる形式でも複製することはできません。デザインはプライベートDIY目的でのみ無料で使用でき、商用利用は固く禁じられています。Humble Homemade Hifiは、tg-acousticsの子会社です-商工会議所37138402-オランダ
©Copyright Humble Homemade Hifi

最終更新日18.3.2021